

台草根

第 6 号

2014年12月

囀驚蕃薯落土爛，只求枝葉代代傳。



- ①2013年8月3日 音楽のタペソプラノ・ピアノ演奏会in糸島市
- ②2013年9月14日 別府めぐり
- ③2013年9月11日 苑裡郭芝苑室内合唱団と音楽交流
- ④2013年10月14日 国立台湾海洋大学海洋ホールにて、台日文化交流コンサート
- ⑤2013年10月20日 元台北駐日経済文化代表処代表許世楷先生の講演会
- ⑥2013年11月30日 国立台湾大学付属病院・同医学部教授柯文哲医師の講演会

- ⑦2014年1月19日 東洋医学何国棟先生の講演会
- ⑧2014年1月31日 台湾貿易センターIT日本語組学生との旧暦大晦日の団欒食事会
- ⑨2014年5月16日~22日 陳世憲(書道)+張文燦(写真)の二人展「燦線」
- 5月17日 書道実演パフォーマンス
- ⑩2014年8月3日 日本茶道の作法と体験
- ⑪2014年8月3日 「音楽のつどい」コンサート

目次

- 02 台北駐福岡経済文化辦事處長着任半年の感想
戎義俊
- 03 許世楷先生講演会:
台日米中関係から台湾と日本の前途を見る
阿美
- 05 許世楷先生の講演会を聞いて 井手口光宏
- 05 「お尻の赤いおさるさん」を読んで…感想
清水タカ子
- 06 (再刊)お尻の赤いおさるさん
作者:盧千恵 挿絵:宋艾凌
- 08 福岡上空 王立權
- 09 柯文哲医師講演会「台湾近未来的処方箋」有感
阿眞
- 12 台湾的処方箋一感想文 陳鈺婷
- 12 台灣的處方箋-柯文哲演講感想文 涂艾淇
- 12 柯文哲教授演講的聽講心得 林紀全
- 13 台灣雲林縣長蘇治芬日本行
推廣雲林農產、參訪環教場域
圖/文 雲林縣環教中心執行長 蔡智明
- 15 島嶼天光 太陽花一想要台湾好、就要有行動
陳麗華・林呈綠
- 16 太陽花学運 整理:本郷みどり
- 17 浅談服貿 J.W.
- 17 浅談馬政府的施政邏輯 J.W.
- 18 能面 その幽玄の美
文:貞光康子 訳:本郷みどり
- 21 海洋大学建校60周年記念一日音楽交流
基隆港合唱団団員の心得感言
基隆港合唱団団員
- 23 「港の女」之迴響 柯淑純
- 23 基隆の思い出2 中村ヤウ子
- 24 台日音楽交流会に参加して 笹田葉子
- 25 楽しかった旅「台湾」 堀川忠宏
- 26 娘と旅する台湾 原良子
- 27 人去屋空音猶在 阿成
- 29 2013年音楽の夕べ 村上隆太
- 29 「音楽の夕べ」に参加して 歌野由紀子
- 30 「音楽の夕べ」に誘われて 清水タカ子
- 31 春天的歌声 本郷 みどり

- 32 音楽的饗宴一音楽のつどい 報導
本郷みどり
- 35 再會了, 福岡! 王綏燁
- 38 2013年9月 九州移地教學心得
台湾文化大学学生
- 40 台湾的大孩子們 本郷啓成
- 41 2014年4月春假日本行心得
台湾文化大学学生
- 43 カルチャーショック 文:菊池啓子 訳:阿碧
- 45 易縁 何国棟
- 45 何国棟老師與易經 本郷みどり
- 46 感想文:易經入門 李幸慈
- 46 講演「從易經談養生」の感想 羅允謙
- 47 飯碗裏的環境保育 吳馥宇
- 51 看日本無形民俗文化財的保護對地域的貢獻
一以博多祇園山笠行為例 周宏仁
- 55 福岡展覧心得一簡鏡 陳世憲
- 57 台北市銀髮協會福岡知性之旅 阿君
- 58 褒め上手 石橋幸子
- 58 春の鳥 中村ヤウ子
- 59 私のささやかな国際交流 田平靖子
- 60 台湾貿易センター
国際企業人材育成センター(ITI)
- 60 ITI国際企業人材育成センター學員
日本研修感想文 賴韋岑
- 61 日本見學的體悟 徐岡
- 63 候診室的鞋子 台湾団仔
- 64 葉書 森川
- 65 我的母親 本郷みどり
- 66 心で聴く 石橋 幸子
- 編後語 優質的文明社会 本郷みどり



台北駐福岡経済文化辦事處長着任半年の感想

戎 義俊



2013年の4月1日に中華民國台灣総領事として福岡に着任しました。九州及び山口地区との友好親善交流を促進させ、我が台湾と日本との結び付きをさらに深めてまいりたく、微力ながら一意専心いたしております。着任から現在にかけて九州・山口の各地を訪問、各界の皆様に着任の挨拶をしているところですが、いずれの地方でも人々は人情に厚く、素晴らしい特産物と溢れんばかりの友情で温かいもてなしをいただいております。「人よし、食べ物よし、友情よし」を感じさせていただくと同時に、改めて日本の皆様方の台湾に対するご支援を深く実感している次第です。これも偏に台日民間交流を続けてこられた皆様の長年にわたるご尽力が実を結んでいるものと存じ、衷心より敬意と感謝の意を表します。

現在2期目の我が国の馬英九總統は、2008年の初当選からこれまでの5年間に、台湾と日本との特別なパートナー関係の強化や、国際機関への参加の拡大、中国大陆との関係改善などを推し進めてまいりました。2013年4月10日に締結された台湾と日本の双方にとって大変有益である「台日漁業協議」をはじめ、台湾と日本との関係はいろいろな局面において進展があり、より一層安定的なものとなりました。1972年の日本と台湾の断交以来、41年が経ちましたが、日台関係は今が最も良い時期にあるといえるでしょう。

言うまでもなく人的交流は大変活発で、昨年2012年、両国の往来は初めて300万人に達しました。今年の1月から8月までの中間報告によれば、台湾から日本へは157万7千人が訪れており、前年同期比で51.7%の大幅増、その勢いはとどまるところを知りません。このペースだと今年は台湾からの旅行客が史上初の200万人、両国の往来は昨年を上回る350万人を突破するとみられています。

我が国の国民は、日本に対して大変親近感を持っており、台湾は世界一の親日国家であるといわれています。2011年3月11日、東日本大震災が発生した際にも、台湾からは200億円を超す巨額の義援金が届けられました。実はあの時の義援金の99%は民間から自発的に集まったものであり、こういったことから台日の民間の繋がり深さが見受けられます。台湾の人々は、1999年の台湾中部大地震の時に頂いた日本の皆様からの恩を忘れておりません。「滴水之恩、湧泉以報」という言葉にあるように、たとえ一滴の水でも受けた恩

義は湧き出る泉のように恩返しをするという考えが台湾にはあるのです。同時に、日本統治時代の功績も現在の台湾で高く評価されています。完成当時、東洋一と謳われた「烏山頭ダム」をつくった八田與一技師、八田技師の思いを受け継いでダムの水利管理を行った大分県宇佐市出身の中島力男氏、台湾の農村や農民の生活を豊かにした「台湾蓬莱米」を開発した磯永吉氏と福岡県筑紫野市出身の末永仁氏、台湾の風土に適した世界でも珍しい地下ダムをつくった鳥居信平氏、氷砂糖の製法を発明し台湾製糖株式会社の初代社長となった鈴木藤三郎氏、宜蘭縣知事として氾濫を繰り返す宜蘭河に大堤防を建設した鹿兒島県奄美大島出身の西郷菊次郎氏のように、自らを犠牲にして台湾の発展に尽くした日本の方々のことを今でも台湾の人々は尊敬し忘れておりません。近頃では、「烏山頭ダム」を設計した八田與一技師の妻・外代樹夫人の銅像が台湾南部の八田記念公園に設置されたばかりです。銅像が設置された9月1日は、八田技師亡き後、外代樹夫人が後を追って烏山頭ダムの水に身を投じた命日に当たり、その除幕式には八田技師の長男の嫁にあたる女性が一族を代表して出席されました。こうして台湾や日本の各地で我が国と日本との友好は脈々と続いているのです。また当時の日本はインフラ整備だけでなく、武士道に見られる日本精神を台湾に残しました。「公」(公に己を捧げる)、「忠」(忠誠心・愛国心)、「義」(義理人情に厚い)、「勤」(勤勉性)という精神的な遺産です。台湾が世界一の親日国家になった要因は、恩返しや犠牲、精神的遺産、そして運命共同体意識の高まり、「一運托生」の関係にあると考えています。

現在、台湾と日本とは、民主主義、法治などの価値観を共有しており、自由経済や人権保障の面においても共通認識を持っています。何より、両国の間には目に見えない強い絆、長い年月をかけて両国がよりあげてきた絆があります。一朝一夕にできたものではありません。この強い絆で結ばれた良好な関係の基礎の上に、新たな時代の台湾と日本との特別なパートナー関係がより一層強化され、末永く続くよう、私たちは引き続き努力を続けてまいりる所存です。両国の発展のため、ひいてはこの地域の安定と繁栄を守るために手を携えて緊密に協力をしていくためにも、皆様からの台日友好促進へのご支援とご協力は欠かせないと思っております。

いよいよ2014年には、我が国立故宮博物院の特別展覧会が東京国立博物館と九州国立博物館で開催されます。門外不出の故宮の2大文物「翠玉白菜」は東京で、「肉形石」は九州で、いずれも初の海外展示とな



ることが決まりました。この2大文物をはじめとする精選された数々の国宝を、日本の皆様に直接ご覧いただけることを大変嬉しく思っています。

日本には「縁(えん)は異(い)なもの味(あじ)なもの」という諺があります。人と人、町と町、国と国、というものは、何か一つのきっかけによって上手く結ばれるものであり、その結び付きは不思議で面白いものと感じています。話は30年前にさかのぼりますが、慶応大学に留学していた折、九州でホームステイをしたことが

あります。初めての九州、そして生まれて初めてのホームステイ先は鹿児島県南さつま市金峰町の牛飼い農家でした。ここで大変お世話になり、当時の2週間の貴重な体験が私と日本とを強く結び付ける「縁」であり、今日まで非常に大切にしているものです。「縁は異なもの味なもの」まさか30年後に福岡経済文化辦事處の處長として九州に戻つてこようとは思いませんでした。この「縁」をいつまでも大切に、そしてこれから始まる皆様との様々な「縁」を楽しみに、我が国と日本との結びつきを深めていきたいと思っております。

注：戎所長2013年國慶後、已將原稿交給我們、遲到至今始刊出、敬請原諒。

許世楷先生講演会：台日米中関係から台湾と日本の前途を見る

阿 美

元台北駐日経済文化代表処代表(駐日大使相当) 許世楷氏の講演会が、平成25年10月20日(日)、福岡市西南学院大学のコミュニティーセンターで開催されました。

テーマ：台日米中関係から台湾と日本の前途を見る
主 催：九州台日文化交流会
後 援：台北駐福岡経済文化辦事處・台湾貿易センター福岡事務所・中華航空

冒頭に、台北駐福岡経済文化辦事處次義俊處長の挨拶で「2004年許代表が台湾の駐日大使として着任して以来、私は駐日大使館の一職員として4年間、ともに仕事をして来ました。大使ご夫妻の温厚な人柄に触れて、人となり、人との接し方、謙虚な人柄など、沢山のことを学びました。」と述べた、そして「恩を知った者は、恩を返す」という言葉を借りて、許代表ご夫妻に対し感謝の意を伝えた。



九州台日文化交流会四維宗曉会長は「2004年7月許世楷先生は、台北駐日経済文化代表処代表に就任、約4年間務められました。在任中は、『台湾人観光客の査証免除(ノービザ)の恒久化』、科学・文化・学術交流など多数の功績を上げられました。」と挨拶した。



産経新聞2013年10月21日(朝刊)

講演会のはじめに、許代表夫人盧千恵氏が書かれた台湾童話「お尻の赤いおさるさん」の読み聞かせが片野明子さんと大嶋万里子さんのデュオで会場の雰囲気をもく沸かした。

許氏は、台湾人のアイデンティティに触れ、台湾での調査で

- Q: あなたは台湾人ですか?中国人ですか?
A: 台湾人—77.6% 中国人—10.1%
- Q: 両岸が統一するか?台湾が独立するか?現状維持?
A: 両岸統一—25.9% 台湾独立—59% 現状維持—10.3%
- Q: 「あなたは自分の国を何と呼ばれたいか?」
A: 台湾—78.9% 中華人民共和国—2.4% 中華民国—9.6%

という結果に基づいて、台湾人の多くが中国の中に



入りたくない、台湾人としてのアイデンティティが確立されている。

世界で台湾のように親日的な国を探そうとしても、そうそう見つかるものではない、ビジネスでの人的交流も活発で、台湾からの観光客や文化の交流も非常にさかんです。許氏は数字を挙げて、台湾と日本の交流の歴史や親密ぶりを強調。

許氏は、「民主、自由、人権」という世界の潮流を述べ、台湾は日本と共通の社会価値観を持っている。アメリカ、日本、東南アジアで共通の社会的価値観を持つ国々と手を組んでいかなければ台湾の安全は守られないという安全保障上の観点からも、日台がより関係を強化すべきとして、民間交流の発展を訴えた。

許世楷(きよ せいかい)

生年月日:1934年7月7日

台湾の政治学者・歴史学者・津田塾大学名誉教授

元台北駐日経済文化代表処代表(駐日大使相当)

父親許乃邦は京都帝国大学法学部、東京帝国大学経済学部で学んだ法律家。

母親は東京女子医学専門学校卒の医者。

祖父の許嘉種は台湾文化協会調査部長時代に台湾議會設置運動を行い日本警察に逮捕拘留されたことがある。

伯父の許乃昌は陳独秀の推薦をうけソビエト連邦モスクワ中山大学で学んだ台湾でも相当有名な左派の政治運動家。

1947年の二・二八事件では祖父、父、伯父が左翼分子として国民党から指名手配を受けた。

夫人の盧千恵とは日本留学中に知り合い、ともに台湾独立運動に関わってきた。

1957年:国立台湾大学法学部卒業。

1959年来日:早稲田大学、東京大学で政治学を学ぶ。

1960年:台湾独立運動団体「台湾青年社」に加入、国民党政府により旅券剥奪、在外反政府分子としてブラックリスト入る。

1968年:東京大学法学博士取得。

その後約30年間、津田塾大学で教員生活、津田塾大学国際関係研究所所長も務めた。

1970年:「台湾独立連盟」中央委員に就任。

1987年:「台湾独立建国連盟」総本部主席。

1992年:ブラックリスト解除、帰国。台湾文化学院院長、台湾建国党主席。



2000年:民進党政権が誕生、陳水扁總統就任總統府人權諮問小組の召集人(委員長)。

2004年:陳水扁總統再選。台北駐日経済文化代表処代表に就任。

在任中の功績:

- ・台湾新憲法制定の意図を日本政府に伝え、理解と支持を求める
- ・日本と台湾の安全保障問題の話し合いを促進
- ・文化・学術交流を促進
- ・台湾人観光客の査証免除(ノービザ)の恒久化
- ・運転免許証の日台相互承認

2008年:国民党政権発足、馬英九總統就任、辞職届を提出。

2008年6月:尖閣諸島沖で事件。航行中の台湾遊漁船が、海上保安庁巡視船と衝突し沈没。即日、外交部が許代表の召還を決定。帰国直後、辞意を表明。

辞職後:台中市に居住。台中市政顧問。



許世楷先生の講演会を聞いて

井手口 光宏

昨年、10月20日に西南大学で先生の講演を拝聴致しました。

講演の数字はメモしませんでした。2月2日World Newsの統計と同じ位でした。

台湾人の6割以上、「中国との統一に反対」＝賛成派は2割どまり。台湾の民間調査機関が同日発表した世論調査では、統一に反対と答えた人は63.3%に達し、「賛成」は20.9%に止まった。米華字ニュース・サイト多維新聞より。

統一に「賛成」のうち「大いに賛成」は5.9%で、「どちらかと言うと賛成」は15%。同じく「反対」のうち「絶対に反対」が40.9%。「あまり賛成しない」は22.7%。15.5%は意見を表明しなかった。

「台湾は、いずれ最終的に独立すべきだ」との意見に対して、「賛成」は44%。そのうち「大いに賛成」は21.6%。「どちらかと言うと賛成」は22.4%。「反対」は37.4%。18.8%は意見を表明しなかった。

私は、この数字に対し少し疑問を覚えました。

それは、殆どの台湾国民は中国との統一に反対していると思っていたのに、2割もの人が賛成。独立に「反対」と答えた人、意見を述べなかった人については、中国との戦争を意識しての事だろうと推察しました。

また、「統一と独立」に反対と答えた人の中には中国のスパイや洗脳された人が居るのではないのでしょうか。

Face bookの中には中国の諜報者がいて、その首謀者が現職自衛官・予備自衛官・海上保安官等の愛国

者を標的に友達集めをしています。グループの名前公表は差し控えさせて戴きます。

台日米関係に移りますが、私は次のように思いました。

第一列島線は九州を起点に沖縄・台湾・フィリピン・ボルネオをさしますが、中国の海軍、空軍の作戦区域であり、同時に対米にとっては南シナ海・東シナ海・日本海に空母・原子力潜水艦の侵入を阻止しなければならぬ。

その為には反発する国に対して武力でもって奪うと思います。

その時、台湾政府の執る態度にも依りますが、米国に付くならば、中国に攻撃されるでしょう。

1950年に起こった朝鮮戦争で北朝鮮を支援に動いた中国を牽制するために、米国は突如国民党政権を援助する事になり、中国は台湾に手出しが出来なくなり、中国と台湾は固定化した経緯から私は米国側に付くと思います。

同時に、日本の国会で審議している集団的自衛権の行使も何れ成立すると確信しています。そうなれば、台湾が攻撃を受けたか、受けようとした時には日本も台湾を守る為に行動を起こします。

講演から日日が可なり経過しましたが、刻々と情勢の変化でそんな事を考えました。

最後に、戦争を起こさない為には、会話の積み重ねによる信頼・国防の充実達成ではないでしょうか。

「お尻の赤いおさるさん」を読んで…感想

清水 タカ子

動物園にゆくと、必ず「猿の山」があり、私は親しみを覚えて、可愛い仕草を眺めてしまいます。

この童話に出てくるおさるさんの話を読み終わって、何だか、悲しくなる、びっくりする内容でした。

幼い子供達には、教訓的なお話となっています。

あらすじは、昔、台中に住んでいた大金持ちの夫婦の話です。ケチンボで、囲りの人達も誰も付き合う人もなく、夫婦は更に、お金持ちになることばかり、神様に願っていました。

この家に顔のみにくい女の子が一人働いています。

ある日、台所の裏口に、みすばらしい姿の乞食がお腹をすかして、食物をもらいに来ます。女中さんは同情

して、こっそり、女主人に見つからないように、食物を与えます。

又、ある日、女主人の言いつけで、女中は川にエビをとりにきました。ところがエビは一匹もとれず、悲しくて泣いている所に、あの時の乞食のおじいさんが声をかけます。

おじいさんは、背中に「おでき」が出来て、痛くて、たまりません。そこで、女の子は、頼まれた通りに、そうっと「おでき」を押して、「ウミ」を出して、薬を貼ってあげました。

ひどい「おでき」だったので、「ウミ」が女の子の顔や手にかかりました。おじいさんに言われた通りに、川の

水で洗いました。すると女の子の「ひび」だらけの手は、なめらかになり、エビもたくさんとれました。喜び勇んで台所に戻ると、女主人は女の子の顔を見てビックリしました。女の子の顔は、とてもキレイになっていたのです。

女の子からそのいきさつを聞いて、女主人は、そのおじいさんは、きっと、神様に違いないと思いました。折りよく、訪れた乞食のおじいさんを招き入れて、食べ物とたくさんあげて、背中のウミ出してやりました。

女主人が力まかせに「おでき」を押したので、おじいさんは痛くて、悲鳴を上げました。

主人夫婦はウミを顔や手に塗り、急いで川にゆき、冷たい水で、ゴシゴシ、からだ中洗いました。ところが、洗うとキレイになるどころか、体中に灰色の毛が生えてきたのです。驚いて家に帰ると、おじいさんが「かまど」

から熱いレンガを2つ出して、その上に座るように言いました。

おじいさんの言う事を聞けば、良くなると思って、長い間座っていました。ところがお尻は、真っ赤になってしまい、夫婦は恥ずかしくなって、山奥へ逃げてゆきました。

今でも台中の観音山に行くと、たくさんの子孫が飛び跳ねています。

読み終わって、人間の持つ欲望の果てしないこと。自分さえ良ければ、困っている他人を思いやる事が出来ない、傲慢さと悲しさを知らされました。反面、自分が汚れる事も省り見ず、人の役に立つことの貴さも合わせて、感じ取りました。この事を心に留めて、歩いていきたい。

お尻の赤いおさるさん 盧千恵

- 昔、台中の北屯というところに、大金持ちの夫婦が住んでいました。つかいぎれないぐらいお金を持っていました。それでも、二人はもっともっとお金がたまらないかと願っていました。ですから、お金を使うことがだいぎらい。まずしい人に、ほどこしてあげるなどということとは、考えたこともありません。近所の人たちは誰もつきあいませんし、お手伝いにきている女中さんもしばらくいるとみんなやめていきました。



れる神さまのお誕生日を迎えた日、夫婦はごちそうを作るように、女中に命じました。ここへきて、はじめてのことでした。

「ごちそうをどうなさるのですか？家の中にはご主人様だけですのに。」

「おそなえするんだよ。きょうは天公のお誕生日だからね、神様が喜ばれるように、一番上等な材料をつかったお菓子とお料理をおつくり。」



- ひとりだけ、大きな家にのこって、この夫婦をてつだっていました。この女の子はやさしい骨惜しみをしないいい子でしたが、鼻のひくい、目の小さい、おにぎりを押しつぶしたような顔をしていました。おもしろい病気にいかかって動けない父親のために、がまん強くはたらいていました。一日中コマネズミのように走り回ってはたらき、夜になるとくたびれて、口もきけないほどでした。



主人夫婦は女の子のおかしな顔をいつも笑いのたねにしていました。

- このケチンボ夫婦が年に何回か、たくさんお金を使って、ごちそうを作ることがありました。神さまを祝う祭りの日がそうでした。一月のはじめ、天公生とよば

- 女中が何をしようか考え込んでいると奥さんは、つけたしました。

「わたしたちが、こんなに金持ちでいられるのは、祭りのたびにほかの誰よりもいいごちそうを、神さまにそなえてきたからだよ。それをしない人は、神さまにみはなされて、貧乏になるんだ。お前だってそうだよ。もっと金持ちになるよう、私たちは、うんとごちそうを作ってお願ひをするのだからね。」

「こんなにお金持ちなのに、もっとお金がほしいのですか？」

「お金はね、いくらあってもこれだけでいいとは思わないのさ。」

- 女の子は首をかしげながら、ごちそうの用意をはじめました。そのとき、みすばらしいこじきが裏口から入ってきました。

「きのうの朝から何も食べていないのです。たべものをすこしください。」

こじきは、ふるえる手で、かけた茶碗を出しました。女中は、かわいそうに思っ、手にしていたとりにくを

わたそうしました。

6. うしろから、大きな声が出て、肉を持った手を、びしゃり!と、たたかれてしまいました。だいたいどこへ入ってきた奥さんでした。



「おまえ、神さまにおそなえする大事なりにくを、役にもたないこじきなんかにやっつてどうするのだい?さあ、そこのお年寄り、とつと出て行きなさい。お前にやるようなものは、なにもないんだからね。」

7. こじきは、足を引きずりながら、今にも倒れそうなようです。出て行きました。奥さんは、女中をにらみながらいました。

「今度、また、こんなことをしたらおまえもおいだしてしまふよ。」

奥さんが出て行くと、女中はお飯と肉をつつんで、うらぐちから外へ出ました。こじきは、戸口にたおれていました。

「おじいさん、これをあげましょう。早くもって行きなさい。奥さんに見つかると大変だからね。」

8. それから、何日かたったある日、女中は、近くの川へでかけていきました。エビをいかごずくってくるよう、いつけられたのです。川の中へ入ってすくっていたのですが、いつかきもつかまりません。夕方になり風も、冷たくなってきました。カワラナデシコのくきが、ゆれて寒そうです。女中は、悲しくなって、なみだがあふれました。鼻の低い、目・小さい、おにぎりをおしつぶしたような、なみだ顔が、水にうつっています。その自分の顔を見て、もっと悲しくなりました。



9. こんな顔だから、みんなにだいにされない。きれいな顔の女中たちは、この家をやめても、使ってもらえるところがあるけれど、じぶんにはない。心がけが悪いから、みにくまづしいのだと、奥さんはいう。なみだがとまりませんでした。



10. 「どうしたんだい?やさしいむすめさん。」
とつぜん声がするので、ふりかえると、いつかのこじきでした。

「あっ、お元気でしたか?」

「あの時はありがとう。おかげで、元気でいるよ。ただ、背中が痛くてね。うみを出してしまおうと楽になるんだがね。」

11. ひどい傷でした。大きくむらさきいろにはれ上がっていました。

「まあ、大きなおできが。これでは痛いでしょう。」

「両手で、力をこめて押しつぶして、このくすりははってくれんかね?」

「力をこめて押していいのですか?こう?」女の子は、おできをそつと、力をこめておしてやりました。うみがピューととびだし、女の子の顔や手にかかりました。



12. 「ありがとう。やさしいむすめさん。この川の水で顔と手を洗いなさい。それからかごを入れて、エビをすくってごらん。」

女の子はいわれたとおり、顔と手をあらいました。ひびだらけだった手が、白くなめらかになりました。かごを水に入れました。持ち上げられないほどの、エビが入っていました。女の子はおお喜びで家へ帰っていきました。



13. 裏口に、どっこいしょとかごをおいた女の子に奥さんは、がみがみいいはじめました。
「今ごろまで、なにをしていたんだね。エビは取れたかね、おや?」

14. 女の子が顔を上げると、奥さんは目を丸くしました。
「おまえは、、、いえ、あなたは、だれなのですか?」
女の子のほうがおどろきました。
「奥様、どうしたのですか?わたしですよ。」



- 「だって、お前にちがいないのだけれど、どうしてそんなにきれいに、、、」
「奥様、また、わたしの顔を笑いものにしないでください。」
「からかっているんじゃない。いったいどうしたんだね。見違えるほどきれいになって。」
女の子は、川でこじきにであったことを話しました。

15. 「そうだったの?じゃー、あのこじきは神さまだったんだ。お前、もう一度川へ行つて、あのおじいさんを家へつれておいで。」

女の子が裏口からでていこうとしたとき、こじきが通りかかりました。奥さんはニコニコしながら、こじきの茶碗



に、食べ物とたくさんいれてあげ、背中にはつてあるこじき薬をはがしました。

16. 「まあー、ひどい傷。うみを出してあげましょう。」
力いっぱい傷口をおしたので、こじきは、ひめいをあげました。出てきたうみを、奥さんは顔にぬりました。ご主人の顔にもぬりました。

17. それから、二人で川へ急いでいき、冷たい水の中に飛びこみました。顔だけでなく、手も体もごしごしがぎましました。どうしたのでしょうか。ごしごしすると、灰茶色の毛がはえてきます。洗えば洗うほど濃くなってきます。水にうつった顔も毛だらけです。体じゅうごわごわした毛でおおわれているのにおどろいて、ぬれたまま家へとんで帰りました。



18. こじきはまだいました。帰ってきた二人を見て、かまどの中から、熱くしておいたレンガを二つだし、いいまして、レンガの上に落ちたしずくが、音をたててかわいてしまうほどの熱さです。



註: 作者 盧 千恵女史(写真左)は台湾人の児童文学者。台湾駐日経済文化代表処前代表許世楷夫人。1936年台湾生まれ、1955年来日し、夫と共に台湾民主と独立運動に関わってこられました。2004年夫の代表就任に伴って再来日されました。2008年6月17日、夫の代表辞任に伴い日本を離れました。現在は台中市に在住。

主要著書:

『呉鳳さまー子どもに聞かせる台湾人ものがたり』こぐま社、1975年。

『台湾は台湾人の国: 天になるごとく、地にもなされたまえ』はまの出版、2005年。許世楷と共著。

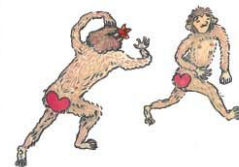
『私のなかのよき日本ー台湾駐日代表夫人の回想五十年』草思社、2007年。

註2: 絵は台北芸術大学学生 宋艾凌の作品です。

「この上におすわり。」

二人は、いうとおり熱いのをがまんしてすわりました。おしりは、レンガの上でジュージュ音をたてました。金持ち夫婦は、長いあいだ、レンガの上にすわっていました。おじいさんのいうことをきけば、元にもどると考えていたのですが、毛は全身に生えたままです。がまんできなくなった二人は、立ち上がって、おじいさんをさがしにいきました。おじいさんはいつの間にか見えなくなっていました。おしりは真つ赤にただれました。

19. 灰茶色の毛におおわれた全身、真つ赤なおしり、いつまにかはえたしつぽ、今までギャーギャーもんくばかりいつていた口からは、人間の言葉ではない、キャッキャッという音が出るだけになりました。二人は、はずかしくなって、やまおくに、にげていきました。



20. 台中の北屯にある観音山にいくと、たくさんの子孫が、竜眼や、マンゴーの木の下にたどろいて、おじいさんを見つめています。



Yahooドーム周辺
福岡上空の写真を撮ったぜ!
Yahoo巨蛋上空照!
難得拍到一張取景角度不錯的航拍!
^^a

撮影: 王立権

柯文哲醫師演講會「台灣近未來的處方箋」有感

阿 真



去年秋末我去聽柯文哲醫師來福岡的演講會。

11月30日下午4點、我來到會場：福岡市早良區高取公民館。這場演講會是元久留米大學教授張國興的熱心安排。主辦單位是九州台日文化交流會。

這位現今在台灣家喻戶曉的「柯P」、每天電視媒體上如果沒有出現「柯文哲」這三個字、或有關他的任何八卦新聞、任何他所說的驚天動地柯語錄、就好像收視率會下滑！？這種「柯文哲現象」到底代表著什麼？又會延燒到何時？或者那是代表多數台灣人內心所願的一個指標？素人政治的崛起是否意謂著人民對政黨政治的不信與台灣公民社會的到來？

柯文哲是醫師、當他要為台灣的近未來開處方箋時、首先他會去了解台灣的過去史。

他先從台灣過去的四百年歷史提出一些問題點。他舉1920年代蔣渭水醫師創立第一個全台性文化組織「台灣文化協會」的經緯、告訴大家、蔣渭水替「台灣」這個病患把脈診斷作了一張病歷表「臨床講義」。蔣渭水說：「台灣人現在有病了…知識的營養不良症…文化運動是對這病唯一的原因療法。」於是有了以助長文化之發展為目的的台灣文化協會的誕生。

〈臨床講義〉

患者：台灣
姓名：台灣島



性別：男

原籍：中華民國福建省台灣道

年齡：移籍現住址已二十七歲

現住址：大日本帝國台灣總督府

緯度：東經120-122度，北緯22-25度。

職業：世界和平第一關的守衛

遺傳：明顯地具有皇帝、周公、孔子、孟子等血統。

素質：為上述聖賢後裔，素質強健，天資聰穎。

既往症：幼年時（即鄭成功時代），身體頗為強壯，頭腦明晰，意志堅強，品行高尚，身手矯健自入清朝，因受政策毒害，身體逐漸衰弱，意志薄弱，品行卑劣，節操低下轉日本帝國後，接受不完整的治療，稍見恢復，唯因慢性中毒達三百年之久，不易獲然而癒。

現症：道德頹廢，人心澆漓，物慾旺盛，精神生活貧瘠，風俗醜陋，迷信深固，頑迷不悟，枉顧衛生，智慮淺薄，不知永久大計，只圖眼前小利，墮落怠惰，腐敗、卑屈、怠慢、虛榮、寡廉鮮恥、四肢倦怠、情氣滿滿、意氣消沉，了無生氣。

主訴：頭痛、眩暈、腹內飢餓感。

最初診察患者時，以其頭較身大，理應富於思考力，但以二、三常識問題試加詢問，其回答卻不得要領，可想患者是個低能兒，頭骨雖大，內容空虛，腦髓並不充實聞及稍微深入的哲學數學科學及世界大勢，便日暈頭痛。

此外，手足碩長發達，這是過度勞動所致。其次診視腹部，發現腹部纖細凹陷，一如已產婦人，腹壁發皺，留有白線。這大概是正五年歐陸大戰以來，因一時饑饉腹部頗形肥大，但自去夏吹起講和風，腸部即染感冒，又在嚴重的下痢摧殘下，使原本極為擴張的腹壁急劇縮小所引起。



診斷：世界文化的低能兒。

原因：智識營養不良。

經過：慢性疾病，時日頗長。

預斷：因素質優良，若能施以適當的療法，尚可迅速治療。反之若療法錯誤，遷延 時日有病入膏肓死亡之虞。

療法：原因療法，即根本治療。

處方：

正規學校教育- 最大量

補習教育-最大量

幼稚園-最大量

圖書館-最大量

讀報社-最大量

若能調和上述各劑，迅速服用，可於二十年內根治。

尚有其他特效藥品此處從略。

大正十年十一月三十日

主治醫師：蔣渭水

經過近100年後的今天2014年、這個被診斷為「世界文化的低能兒」的台灣、是否有了體質素質上的根本改變呢？ 柯文哲說、90年後看蔣渭水對台灣的診斷、原因、處方、似乎都還適用。因此他提出、台灣社會要變革、還是得從基本的文化方面著手、他表示：

真正的「文明社會」、不只是經濟富足、一個國家不是有高鉄、捷運甚至有太空船就是文明國家。

要落實社會基本價值、包含民主、自由、法治、人權、關懷弱勢、永續經營、才能建立文明國家。

要從思想、文化之改革來落實社會基本價值、這就是「新文化運動」的內容。

柯文哲舉三個例子來觀察社會文明的程度。

1. 公共廁所所有免費的衛生紙：文明社會其實就在這些細節之中。公共廁所所有免費的衛生紙、表示經濟狀況富庶、社會管理良好、人民有公德心、既不會故意破壞、也不會整捲衛生紙拿回家據為己有。
2. 博愛座：所謂的文明社會、不是有高鉄、捷運就是文明社會。而是車廂裏、站的人很多、但博愛座是空的。
3. 鴿子・松鼠：在公園、校園的椅子上、松鼠可以免於

恐懼地跑到人的面前、不怕人、敢近距離和你對望、這就是文明社會。

柯文哲理想中的文明社會的五階段：

1. 第一階段：公園有鴿子、鯉魚。社會富庶、人民不會缺乏蛋白質而去抓公園的鴿子、鯉魚來吃。
2. 第二階段：公共廁所所有免費的衛生紙、大家不會把捲衛生紙拿回家。
3. 第三階段：公車、地鐵等公共交通工具有很多人站著、但博愛座是空的。表示社會有道德的制裁力。
4. 第四階段：坐公車、火車不須要有人檢查車票。表示社會的互信力。目前台灣還作不到。
5. 第五階段：醫療行為除罪化。在台灣、只要出了事、一定要抓一個人作替罪羊、這是台灣的文化。國家有專門機構統計分析問題的真正原因、檢討改進系統以防止再發。現在只有北歐國家做得到。表示社會的互諒力。

柯文哲在他的著書「白色的力量」裏也表示、台灣過去過度強調「經濟」這個因素來評估國家社會的發展。GDP被過度放大、似乎施政的好壞只看這個因素。街道乾淨、治安良好並沒有增加GDP、但恐怕百姓更希望這些非經濟因素。如果GDP成長、結果是有錢人更有錢、窮人更窮、正直誠信各種美德都被忽略的話、這是不公不義的社會。我們不僅要追求一個公義社會、更要把GDP的追求導向GDH的追求。這個H包括Health、Happiness與Hope、健康、快樂與希望。

台灣未來的20年需要「新文化運動」、以提昇每位國民的思想水準為目標。「國家的力量在於全體國民」、有什麼樣的國民就有什麼樣的政府、什麼樣的總統。要帶動全體國民來提昇整個社會的水準。他提出「a的n次方概念」。a大於1、a的n次方就會無限大。若是a小於1、結果就會趨近於零。自己對社會的付出多於從社會拿的、a就會大於1、累積起來、社會就會進步。反之、自己從社會取得的多於自己對社會的付出、a就會小於1、最後總合起來、就會趨近於零、社會會隨之崩壞。

他指出、台灣的社會常常可以聽到「道德勇氣」這句話、事實上作道德的事應該是很自然的、結果現在在台灣社會、作道德的事需要勇氣、而且是很大的勇氣。一個人因為講實話而變成這個社會的英雄、表示整個社會都在說謊、不對的是這個社會。

柯文哲認為當前台灣社會問題的良方、不過是「找回良心」而已。今日台灣社會的問題就是「對的事情無法作、而錯的事情一直在作」。所以建立一個對的環境讓對的事情可以作、而錯的事情可以少作、甚至不作就是了。

演講會中、柯文哲還講了一則「一坨大便」的啟示。

他的老師要退休時，他請老師與另一位學長去高級法國餐廳用餐。他去的時候也搞不清楚狀況就亂點菜、也沒看個目表。後來看了帳單、臉都綠了。3個人一共花了2萬6千塊！第二天早上上大號時，柯文哲一直瞪著大便看。8千多塊製造出來的一坨、跟台大醫院地下室一樓70塊自助餐製造出來的一坨、看不出有什麼差別。這個就是「一坨大便」的啓示。世間的榮華富貴、其實想起來，不過是一坨大便而已。

柯文哲演講風格與眾不同，直率無修、輕鬆自在、巧妙銳利、妙語如珠，滿座的年輕留學生、住在這兒的台僑們、大家聽了這則「一坨大便」的啓示，場內爆出一串又一串的爆笑聲與掌聲，但也有人嘆氣苦笑……笑裏有許多多的啓示與反思。結束前，大家人手一本「熱血仁醫」、有提問題的、有要簽名合照的……笑聲之外、訊息在無限思考的空間一波又一波地在我他之間傳播遠近。

★★★★

台灣近年青年學生啓動的學運、社會要求改革的呼聲，引起很大的震盪與衝擊。2013年洪仲丘命案促成803公民運動的興起，25萬「白衫軍」走上街頭，抗議政府的無能失策，進而促成軍警法的修法。同時也帶動一般人民不只更關心自己身邊的社會議題、並積極主動地站出來以行動抗議政府的腐敗無能與撼護社會公義。

公民意識的高昂與行動更在今年318「太陽花學運」、330「反服貿遊行」、50萬學生、公民團體與人民走上街頭、抗議政府的服貿黑箱作業、要求政府退回服貿、兩岸監督規制法制化、召開公民憲政會議、先立法再審等訴求。

在這一波公民運動的巨浪中，人民不只對執政的國民黨政權產生極度不信任，甚至以民調8%的數字對馬總統提出徹底的不信任。

「Governance without Government: Order and Change in World Politics」的編集者南加大教授J.N. Rosenau述說「當霸權崩塌、國家的支配力逐漸減弱、國境逐漸消失、世界各國的都市廣場聚集著群



群向權威挑戰的市民層、軍事同盟的存統逐漸失能、也就是說，到了歷史轉折點的今天，對世界秩序與統治的意義展望、也面臨一個很大的轉換期。如果統治是指支配的系統、當政府無能維持時，將由誰來實行統治呢？」無疑的，市民社會組織等將担挑起這重要的責任。

我們談到「governance」（統治・治理）時，多會馬上連結到「government」（政府）。但是近年，世界各地不管是对地方、或对中央政府、國際社會、以市民為主導的社會活動蓬勃發展，這意味著以政府為中心的治理統治已不足以應付處理現代繁複多元全球化的社會需求與問題。政府與地方行政的再構築、市民參與與市民社會組織對公共事務的機能分担與共同治理，已是無法抗拒的世界潮流。

也就是說在「公共」的領域、包括

- ①以國家政府為中心的治理
- ②以社會公民為中心的治理

以往在台灣、「公共」=「官」的觀念、官尊民卑的上下垂直方式、官民式的半生不熟民主、人民只是單向地接受、服從上面傳來的政治情報。實有必要透過全民對公共意識的覺醒、全民對公共事務的學習與自主、自發、自制的行動，將治理台灣的重任還元於民、將垂直上下的管理統治方式還元為水平的夥伴共治方式、將統治的客體還元為自治的主體、將單向的統治還元為双向的共助協治。在政策形成的過程，人民可以主動參加、並經過社會群體的熟議、形成社會大多數的共識。

透明性(transparency)、政治參加(participation)與官民協力(collaboration)、在這股世界大潮流的激流中、台灣的公民力量早已蓄積有日、那股能量可以如山洪爆發、也可以如潺潺流水、勢不可擋。

「柯文哲現象」正是從這股潮流裏湧現出來的一股清流、一個自然現象、一種熟悉的共感。就在我們的日常生活裏、在我們的身邊、2、3步那邊的巷口……

從「柯文哲現象」裏，我們可以看到自己的影子、聽到自己的聲音、找到該有的良心、看到一個可以託付、共同達成的願景與指標。

台灣的處方箋—感想文

立命館アジア太平洋大学 陳 鈺婷

台灣的處方箋—柯文哲醫生在福岡演講的題目。我第一眼看到這題目想到的是蔣渭水的台灣診斷書。我很喜歡柯文哲醫師說的台灣從350年前就精神錯亂的地方。如柯文哲醫師說的，台灣經過荷蘭，西班牙，鄭成功，清朝，甲午戰敗割讓給日本，在二戰後回到中國，再到國共內戰後國民政府撤退來台，到現在的政黨輪替，我們的歷史一直一直在破壞前一個文化，將人民洗腦成只能接受現在的政府的動作，陷入一個

不自覺也擺脫不了的輪迴。

剛好在演講之前我也有過類似的想法，身為台灣人卻不知道台灣人的核心價值是什麼。而通過他的演講反而讓我有新的想法。人生之所以精彩是因為他的無數的美好與淚水，無論有多想忘記或放棄，他都是不可磨滅，真真實實的存在過，忘記了就不算完整。唯有正面面對，包容與接受所有，才能再次成長。

台灣的處方箋-柯文哲演講感想文

立命館アジア太平洋大学 涂 艾淇

首先想感謝九州台日文化交流和柯文哲先生特地為了我們在日本台灣學生舉辦了這場演講。

起初聽到要舉辦這場演講時，一心以為是要介紹台灣醫院的改進方式，為會聽到關於保健方面的訊息，然而，對於即將踏入政治界的他，讓我們在聽演講的同時，也被層層的政治色彩給包圍。「人因夢想而偉大」感謝他的提點與激發我們對目前台灣的一切有著更深的一個責任感。讓我們這一代更加重視現在台灣發生的每一個議題。

更不用說，柯先生的演講幫我們上了一場精彩的歷史課，讓我這一位國中時就離開台灣時，以更不同的方式重新認識台灣，他以醫生的身份，幫助我們明白台灣發生了什麼問題，究竟有甚麼微狀，發生的病因又為何。身為學生，我很感謝他幫我們分析，檢討，用最簡潔有力的

方式告知我們台灣究竟生了什麼病，心直口快的他，看似將台灣的病根一針見血的指出，然而，我疑惑，使用「精神錯亂」這樣的字眼形容台灣的過去，是否有些不恰當？我相信能夠接受的大有人在，或許也有人覺得這樣的分析方式太過一邊倒，這樣的方式來吸引學生認識政治，是否使用更加中立的模式來分析，會顯得更有說服力？一旦整場說明會太過模糊焦點，反而顯得刻意要人注意-注意這是場為了選票而親臨的活動。

我同意柯先生說明的中心思想與建立正確的價值觀，也謝謝他提醒了活在安逸中的我們要警覺台灣的變動與生病中的社會狀況。

台灣的民主確實要大家一起來守護，要我們一起來找出癥結幫助台灣得著真正的醫治，處方籤開好後，剩下就只有我們要不要團結創造更美好的台灣了對吧。

柯文哲教授演講的聽講心得

早稻田大學 情報生產管理研究科 林 紀全

想起那時剛來日本的時候，當在生活上遇到挫折，或是工作時的失落時，都會與母親連繫，尋求建議。但她也只回答兩個字，盡力。只要你盡力就好，其他的並不重要。那時的我只覺得她不了解現在這個世界的善變以及現實的殘酷，總是以憤世嫉俗、怨天尤人的方式跟她爭論，她也只淡淡地說，只要問心無愧就好。是的，年輕的時候，總覺得給我一根槓桿給我一個支點，就可以撐起地球。但是慢慢的發現，就算給你所需要的工具，你是否能夠撐起地球又是另一個故事。之前我很少在思考自己到底要去做些甚麼？能夠做些甚麼？為何總是要我盡力就好，盡力要怎麼定義？怎樣才算是盡力？找出自己理想目標和現實面之間取得可以交換的等號，這就是在聽完柯教授演講後所獲得的收穫。誠如柯教授所言，我們知識攝取量缺乏，對自我認識太少，包含對台灣這塊養育我們長大的土地。因此在設定自己的理想目標前，我們還是需要大量的知識攝取以及和周遭的溝通諮詢

，意見交換，好增進自己判斷的準確度。

另外，當前台灣政局的狀況大家都很清楚明白，只是要怎麼在現存的體制內去改變，我們都還在追尋著答案。所幸，前些日子公民運動的崛起，感受到這一代的年輕人不怕被貼上標籤，那對他們而言是一種存在的證明

他們不僅僅辨別是非，更能夠站出來對於這表裡不一的威權制度提出質疑，也做好心理準備要成為所謂的不安定的因素，單純的只想為台灣這塊土地上的人民做些甚麼事情，為下一代而努力。最後，呼應柯教授的話，如果我們都有相同的核心理目標，即便是作法不盡相同，也會朝著相同的方向前進。或許這次聽講的我們能夠成為大於一的那個A。

最後，再次感謝這次柯教授在百忙之中特地撥空前來福岡以及主辦單位為了這次活動的各項奔走以及支援，謝謝。

台灣雲林縣長蘇治芬日本行 推廣雲林農產、參訪環教場域

圖／文 雲林縣環教中心執行長 蔡智明

前言：

台灣雲林縣長蘇治芬，帶領雲林縣政府城鄉處長彭子程與農業、環保、環境教育等主管，三月七日至十二日參訪日本，此行目的除參與東京食品展，為雲林參展的廠商加油打氣外，主要行程為參訪日本的環境教育，從長野縣農村的「溫情停留」，到九州知名景點櫻島火山、阿蘇火山，多方瞭解日本在環境教育的努力。此行獲得日方甚多協助，更蒙九州台日文化交流會企劃執行長本鄉啟成博士熱情接待，讓日本行有個完美的結束。

參訪東京食品展 為雲林農民打氣

3月6日雲林有史以來最大的活動——「雲林農業博覽會」剛結束，3月7日雲林縣長蘇治芬馬上前往日本，為參加東京食品展的雲林農民打氣，並協助推廣雲林農特產品，此次東京食品設有台灣展區，雲林縣有七家以上的二級食品加工廠參展，頗受各國買家好評，展現雲林農產加工研發的實力，把雲林的烏魚子、胡蘿蔔、苦茶油，都搬到了東京。

這已經是連續五年，雲林的業者參加東京食品展，東京食品展是世界屬一屬二的食品展，台灣業者借由展覽，可以打開國際的知名度，尤其日本人對台灣的產品，有不錯的好感與信賴度，讓參展的廠商都有不錯的回報。參展業者曾煥俊說，日本人很喜歡烏魚子，來日本參展可以吸引更多的日本客，到雲林消費。



3月8日一行人至郡馬縣前橋「Beisia」super center，為外銷日本的雲林優質胡蘿蔔宣傳，蘇治芬縣長並邀請「Beisia」集團採購業務的主管中島英則等人，到雲林參訪，為推廣雲林農產盡一分心力。

日本農民辦環境教育參訪增進收入 值得參考

3月8日當天，蘇治芬縣長也參訪了長野縣上田市

武石部落，瞭解這一帶農村的生活，以及他們推廣的「溫情停留」活動。

長野縣溫情停留協會主席小林一郎表示，長野縣是日本重要的農業區，但是務農不易生存，雖然政府針對農作有保證價格收購，農民還是過得很苦，更面臨年輕人口嚴重流失的問題，因此才發展出「溫情停留」的環境教育活動；長野縣上田市武石地區的農民，成立了「長野縣溫情停留協會」，以日本真實的農村生活為號召，吸引他國的學生此交流，並酌收費用，貼補農業收入的不足，讓外國的青年學子到這裡體驗日本濃郁的歷史、文化及風俗。

長野縣的「溫情停留」，是結合旅遊行程，在長野僅作一、兩天的停留，冬季時長野是日本的滑雪勝地，可來此滑雪、參訪傳統產業、撈蕎麥，並到學校交流，學習日語、茶道、劍道及和服的穿著，夏天更可以從事農業的體驗。

溫情停留讓當地的農民，獲得更多的資源，他們目前正整修一座兩百年歷史的古屋，做為溫情停留的據點；目前外國來長野參訪的青年學子，以台灣的學生最多，包括雲林縣臨近縣市的高中都來過，2012年嘉義高中的學生就來此住宿過。小林先生說，三年前的大地震大海嘯，造成福島核能電爆炸，並沒有對他們造成影響，反而是釣魚台事件，讓中國參訪的學生大幅銳減。



現多樣性，正可以參照長野縣的經驗，做農村的體驗營，她計畫推動長野與雲林的交流，邀請小林先生到訪，希望雙方能密切合作，帶動彼此在觀光產業上的成長。



縣長蘇治芬縣長認為，長野縣農村情況與雲林縣很類似，青壯人口外留，務農的農人年齡偏高，雲林一年四季都可以生產，而且面海，農業呈現多樣性，正可以參照長野縣的經驗，做農村的體驗營，她計畫推動長野與雲林的交流，邀請小林先生到訪，希望雙方能密切合作，帶動彼此在觀光產業上的成長。



災變現場成著名觀光景點 日本行，草嶺也行

10日、11日則實地考察日本鹿兒島的櫻島火山、熊本的阿蘇火山，從硬體建設到軟體的建置，以及當地人的看法、作法，政府單位的推廣政策，全方面的瞭解日本是如何將過往災變現場成著名觀光景點。

阿蘇火山是指位於九州阿蘇地區的火山群，有五座凸出的火山，高岳、中嶽、根子岳、烏帽子岳及杵島岳，合稱「阿蘇五嶽」，其中的中嶽是一座活火山，一直在冒煙，烏帽子岳與杵島岳之間的平台上，由民間機構設置阿蘇火山博物館，是日本最具規模的火山博物館，除介紹全球火山相關知識，還有動態的阿蘇火山模型，遊客可以透過設置在中嶽火山口的二台觀測攝影機，來觀察火山裡面的狀況，博物館也介紹阿蘇當地的生態及歷史文化，包括舊石器時代的石器。



阿蘇火山博物館館長池邊伸一郎博士表示，阿蘇火山屬於當地居民的公共財產，約三十年前，當地的久木財團向熊本縣阿蘇市政府承租，興建博物館並經營觀光活動，市政府再將租金回饋給市民，整個阿蘇火山的管理與教育、觀光推展，都是由火山博物館負責，雖然目前經營狀況都處於虧損的情況，但久木財團依舊持續經營，並積極吸引外國客人，包括台灣、韓國及中國人。

鹿兒島的櫻島，於大正三年間（1914年）大爆炸，今年正滿100週年，當地政府強力推薦櫻島之旅，並設有公益財團法人鹿兒島觀光聯盟，觀光聯盟的組織內，另設有「海外誘致部」，向外國人推展鹿兒島遊程，部長田中瑞穗親自拜會蘇治芬縣長，並派「外國人觀光客誘致受入推進員」廖珮君協助導覽，廖珮君是彰化溪州人，目前移居鹿兒島，負責台灣人在鹿兒島的觀光事務。廖珮君表示，鹿兒島與台灣相當接近，台灣的遊客眾多，因此官方重視台灣遊客，她才有機會到海外誘致部任職。

蘇治芬縣長指出，雲林的草嶺四季的多變的景緻、豐富的生態、多樣的物產，條件並不輸日本的阿蘇火山，而且身為台灣最好地質公園、環教場域及九二一地震大飛山現址、百餘年災變的歷史，都是

推展觀光的最佳題材，草嶺有潛力成為國內外著名的觀光景點；另外，日本人推展觀光相當細膩，政府單位設有專門接待外國人的機構，並引進民間業者經營國家公園，博物館的展出內容及旅客務中心的佈置，都值得參考。

返台最後一天，在九州台日文化交流會企劃執行長本鄉啟成博士安排下，台灣在福岡留學生會2014年度會長林紀全協助參訪福岡的海水淡化廠，除瞭解海水淡化的技術，也從設廠過程，是否遇到漁民的抗爭、排放水的處理及管理淡化廠的組織架構——探討，海水淡化廠所長守田幸雄不厭其煩，逐一回答每一項問題，海水淡化廠的一樓，則以模型、圖文展示了流經福岡地區主要河川，其上、中、下流的生態、人文，建構參訪者對福岡地區整體的概念。

此行接觸了很多日本基層的事務，包括本鄉啟成博士談到日本年輕人的道德觀，鹿兒島縣觀光聯盟海外誘致部廖珮君小姐則談到孩子在日本的教育、健保等問題，長野縣小林一郎則明白指出，日本農民普遍都很窮，讓我們覺得台灣也有可取的地方；但整體而言，日本還是令人嚮往的國度，每條街道都給人乾淨整潔的印象、人民的守法程度，相較台灣人，好太多了，唯一慶幸的是台灣尚未發生核電廠災變，不過台灣執政者對「福島」災變視而不見，相當令人擔憂。

感謝協助：

九州台日文化交流會企劃執行長 本鄉啟成博士
台灣在福岡留學生會2014年度會長林紀全
長野縣溫情停留協會主席小林一郎
阿蘇火山博物館館長池邊伸一郎博士
鹿兒島縣觀光聯盟海外誘致部部長 田中瑞穗
鹿兒島縣觀光聯盟海外誘致部海外誘致科 廖珮君
福岡地區水道企業團施設部海水淡化廠所長 守田幸雄
(上述名單以頭銜筆劃多寡排列)

圖說：

1. 東京食品展為廠商打氣。
2. 參訪郡馬縣前橋「Beisia」集團合影。
3. 「Beisia」super center推銷雲林紅蘿蔔。
4. 雲林縣長蘇治芬參訪長野縣，實際到農家體會日本人生活。
5. 長野縣溫情停留協會，整修兩百年歷史的古屋，做為溫情停留的據點。
6. 長野縣冬季雪景美不勝收，農田覆蓋厚厚的白雪。
7. 櫻島位鹿兒島的錦江灣中，百年前曾經猛烈爆發，至今仍相當活躍。
8. 日本阿蘇火山中嶽，不斷冒出白煙，吸引遊客到訪。
9. 蘇治芬縣長請教阿蘇火山博物館館長池邊伸一郎博士，觀光區與博物館的經營管理。
10. 參訪福岡海水淡化廠。

島嶼天光 太陽花一想要台灣好、就要有行動

陳麗華・林呈祿

通常，改革光靠政府的力量是不夠的，歷史上、國內外，每當聚集了過多、過久的不平，就可能產生驚天動地的爆發力。3月18日開始，學生們先是佔領立法院，然後闖進行政院，接著在3月30日竟然號召50萬人走上凱道。

活動高舉「反黑箱服貿」的議題，其中容或夾雜反馬、恐共的情緒，也同時承受在野黨背後指揮、台獨的牽拖，不敢面對競爭、不簽則薪資倒退的譏諷，以及黑白兩道的威脅；但，最深沉的痛，還是低薪、高房價等現象，讓青年們看不到光明前景。

累積多年來學運的經驗與能量，本次活動幾乎是集其大成。回溯整個過程，有幾個現象值得關注：

■3月30日50萬人參與的靜坐活動，全程理性、和平，預告的活動結束時間19:00屆臨，總指揮林飛帆鞠躬向民眾道謝後，大批群眾隨即退離凱道，短短的1小時內凱道與周邊皆已清空，恢復原貌並開放通車。地面上沒有留下甚麼垃圾，展現出台灣人民的高素質、高水準。

■學生以網路世代特有的能力進行串聯，迅速集結人力、傳播訊息，即時翻譯成13種語言對外發聲，針對所有質疑做第一時間回應，發揮了當政者未能企及的效能。

除了17個國家49個城市的台灣留學生相挺，更讓外國媒體重視，有15個國家60個媒體報導。

■遭譏為草莓族的世代一夕之間翻轉，他們的組織能力令人刮目相看。議場內部設置了物資組、清潔組、充電組、法律組、媒體組、醫療組、糾察組和指揮組等分工，一切有條不紊。

■僵持第20天，立法院長王金平進入國會議場，呼籲學生退場，並發表聲明：兩岸協議監督條例草

案完成立法前，不召集兩岸服務貿易協議相關黨團協商會議。學生們遂決議在4月17日18:00以「轉守為攻、出關播種」的方式和平退場，將能量擴散到民間繼續發展。

整體而言，這項和平理性的抗爭活動，不僅是將當政者說不清楚(或是不願?)的政策，讓全民普遍關注，進而尋求瞭解與辯證；更重要的是凸顯出台灣近二十年來因全球化、產業外移、薪資停滯、房價物價上漲、貧富差距擴大等經濟議題，土地徵收、都更不明、關廠欠薪、政府追告，年金不改革等社會議題，以及官員無誠信、行政權獨大、黨意壓倒民意，而導致代議制失靈等政治議題，都在太陽花的燦爛照射下——曝光，終讓大家明白家園已經到了必須修整的地步。

以為政者的角度來看，這場學運是違法亂紀；以學生的角度來說，這是年輕人應有的不服從權利。然而，我們成年人又應該如何思考：要從自己現有的地位與經驗，去對學生指指點點？還是要從理解學生的角度，提供更多、更有效的協助？

只能說，網路世代已經崛起，還要留戀在單一威權與傳統媒體，已經不合時宜了！

資料出處：維基百科

<http://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%AA%E9%99%BD%E8%8A%B1%E5%AD%B8%E9%81%8B>

“空中視覺整合服務天行見”

https://www.youtube.com/watch?v=BQh98YbH1ys&feature=em-share_video_user

Dear Mr. President (網友影片作品)

<https://www.youtube.com/watch?v=ddUyfAJXTlg>



藍婉芸、吳宗泰提供

相片提供 台大新聞論壇



楊承樺提供

<https://www.facebook.com/NtuNewsEForum>



楊承樺提供

太陽花學運

整理：本鄉みどり

「海峽兩岸服務貿易協議」簡稱「服貿」。2010年6月29日 兩岸簽定「海峽兩岸經濟合作架構協議」(ECFA)。依第4條「服務貿易」規定、

於ECFA生效後6個月內就服務貿易協議展開磋商。

2013年6月21日 兩岸兩會在上海舉行第九次高層會談、並簽署完成服貿協議。

2013年6月24日 民間成立的協議監督聯盟發表聲明、要求行政院承諾在立法院完成審議前不得啓動生效。並要求陸委會承諾9月提出「衝擊影響評估報告」、應邀產業、勞工與相關團體代表、並開放公民參與。服貿談判應公開、立法院組成調閱委員會並逐項檢視議決內容。訂定配套措施和和受害產業救助機制。規範來台工作之中國人士、避免變相引進中國勞工。

2013年6月25日 立法院院長王金平召集朝野協商後決定：服貿協議本文應經立法院逐條審議、逐條表決。協議中之特定承諾表亦同、不得全案包裹表決。未經立法院實質審查通過、不能啓動生效條款。

2014年2月27日 兩岸兩會第十次高層會談。

2014年3月11日 馬英九總統出席美國商會謝年飯致辭保證、馬政府會確保服貿協議在6月底前完成審議並生效。

2014年3月17日 立法院聯席審查服貿協議會、國民黨籍內政委員會召委張慶忠以30秒之速草率宣告服貿協議已逾3個月審查期限、視同完成審查、並送院會存查。公民團體當晚立刻靜坐院外抗議。

2014年3月18日~2014年4月10日(23天) 太陽花學運。3月18日起台灣的大學和公民們共同發起占領立法院所引起之社會運動事件。「守護民主之夜」晚會、抗議草案的審查程序；之後有400多名學生趁警員不備、進入立法院內靜坐抗議、更於晚間9時突破警方封鎖線、占領立法院議場。場外聚集1萬多名以學生為主的民眾、表達支持。主要學生領導人包括台大政研所林飛帆、清大社研所陳為廷、魏揚、世新社研所陳廷豪等人。學運運用遊行示威與網際網路行動的抗爭方法、訴求

①退回「海峽兩岸服務貿易協議」。

②兩岸監督機制法制化。先立法再審「海峽兩岸服務貿易協議」。

③兩岸監督機制應符合五大原則：公民能參與、人權有保障、資訊要公開、政府負義務、國會要監督。

④召開公民憲制會議。討論內容包括憲政體制、選舉制度與政黨制度、兩岸關係法治基礎、社會正義與人權保障、經濟政策與世代正義等。

2014年3月23日 馬總統於中外記者會、再度強調服貿的好處、堅持為了台灣經濟的未來必須通過、並指責學生以違法方式占領議場、對五院運作造成嚴重影響。學運總指揮林飛帆以32字箴言回應：

政令宣導、罔顧民意、既不民主、又無法治

先有條例、再來審議、給和民主、其餘免談

2014年3月25日 總統府發言人李佳霏表示馬總統願意在「不預備任何前提」之下、與學生代表在總統府針對服貿的議題進行對話。學生代表林飛帆與陳為廷表示願意接受邀請、在公開場合對話。希望雙方討論兩岸協議監督法制化的必要、並在服貿協議審查前、先完成「兩岸協議監督」的立法。

2014年3月30日 330反服貿遊行(330凱道集結行動)。台灣太陽花學運期間、由占領立法院的抗

議學生與公民團體號召支持群眾前往凱道示威遊行、表達訴求的活動。

2014年4月6日 立法院院長赴凱道探視學生、承諾兩岸協議監督條例草案完成立法前、不召集兩岸服務貿易協議相關黨團協商會議。因感受到王金平積出的善意、抗議者也於7日晚間宣布將於10日晚上6時退出議場。這次事件是繼中華民國歷史上、國會議場首次遭到公民占領。除了主流網路的報導外、抗議學生與場外支持者也透過影片分享網站等網路媒體自行轉播現場实况。此次運動、為繼1990年野百合學運後、備受注目的學生運動。而核心領導人物的社運啟蒙經驗、來自於野草運動。

(以上資料的整理、取自網上資訊、謹供參考。)

7月18日的艷陽天、我們有個機會在福岡與元台北駐日經濟文化處代表・津田塾大學名譽教授許世楷夫婦見面。很自然的大家談到太陽花學運、50萬人民上凱道示威抗議與學生占領立法院等一連串發生在台灣的大事。

許教授以「台灣正面臨第三次危機」來解明這一連串的大事。

許教授解說、台灣第一次危機發生在1949年、國共內戰、國民黨敗北、有一百多萬軍民跟著國民政府逃抵台灣、帶給台灣史無前例的社會、人口、通貨膨脹、政治白色恐怖等結構性的破壞與改變。

台灣第二次危機發生在1971年、聯合國大會通過2758決議案、決定恢復中華人民共和國的一切權利、承認中華人民共和國政府的代表為中國在聯合國組織的唯一合法代表。中華民國蔣政權的代表被驅逐出聯合國的組織及其所屬的一切機構。

台灣第三次危機、發生的地點不在中國、也不在聯合國、而是在自己的地方一台灣國內。2014年3月18日~2014年4月10日、為了抗議國民黨政權的無視民主審議過程、服貿黑箱作業、拒絕逐條審議、企圖包裹表決通過服貿協議、而發生太陽花學運與學生占領立法院議場事件、以及2014年3月30日民眾學生50萬人上凱道示威抗議行動。

在海外的我們欣見國內莘莘學子與兢兢公民、為捍衛台灣民主憲政所付出的努力。

我們更期待學運之後、萌生的各個團體與計畫、如民主講堂、民主門陣、島國前進、割腫瘤計畫等等、能有更長遠地道的計畫與行動、將大家在學府裏的學習帶到社區、地方去、與人民同在、以人民為主角、提供大家透過實地自治的民主學習與行動、來提昇台灣的民主實力。

你對土地耕耘得越深厚、民主的力量就有多深厚。否則、永遠是空中花園、永遠無法紮根。

播種、耕耘、深耕。

不用担心花不開、勤耕深耕花自開。
腳下一小步、民主一大步！

淺談服貿

作者：J.W.

整個服貿事件的爭議，打個比方，就像是一位焦急的船長，想要盡速建好方舟，但是部分專家學者，與對其有研究的學生，還有被排除在造方舟的名單之外的人，數個月前，就曾多次請船長釋出設計圖與告知誰是設計師，為什麼要這樣建？是否能容納大多數台灣百姓？兩三年前船長也承諾造方舟一事必定會請教各方專業，但是最後我們只看到船長完全不跟相關專業討論，只有十幾個人負責通知台灣各工會代表（而且工會代表還不知道自己被通知了）。造方舟的過程中，船長永遠不告訴你方舟建設的細節，只告訴你方舟的名稱叫做「Z>B」，等到大多數台灣人民看到方舟時，它已經準備要出航了！（只花了30秒就決定應該要出航了！）

之後的事情，我們都知道了～

我們的方舟，多數人是「看得到坐不到」，而少部分人則早買好了船票等出航，許多學者專家，學

生與勞工代表們，質疑這方舟外觀建得千瘡百孔，內部到處是黑箱，看起來非常危險，又沒準備足夠的乘客空間，請船長跟大家說明一下，出航前必須要「檢查方舟每個細節」，但船長一直堅持晚出航就來不及了，而且「這方舟設計，一處都不可以改」，還要限時起航...

這事情沒有絕對的對與錯，它是一場取捨，雙方都有其堅持的「正確性」。不論你是否打算搭「方舟」，真誠的奉勸，請多多聽聽雙方的主張，也請包容體諒與你持相反意見的人，他們不是你的敵人，大家其實都是為了台灣，只是著眼點「差・很・多」罷了！



淺談馬政府的施政邏輯

作者：J.W.

馬英九在2014/6/12為自由經濟示範區爭議說了一句重話：「船翻了大家都會受害」，沒錯！所以當各界專家學者不斷提出建言時，政府需要做的是更多的廣納建言，而不該是永遠的Z>B，將牽涉超過三分之二服務業就業人口（約285萬從業人口）、營業額逾十四兆的十八項產業，僅交由十八位基層公務員負責溝通，簽約前規劃審查溝通明顯不足，事後又不允許有異議。服貿公聽會（*1），貨貿座談會（*2），無一不是極速召開，甚至還要加開臨時會限期通過，甚至將海峽兩岸服務貿易協議調閱專案小組調閱期間縮短，用的理由竟然是「調閱行為應該要在立法院會期中為之」的慣例將其提前結束，結果立法院不延會，卻加開臨時會搞其他服貿開關的行為，事前不溝通，過程不公開，內容誰都不可以改，誰都不可以查...

當社會一面對政府的「黑箱作業」感到不安與憤怒時，政府在得不到人民信任的狀態下的所作所為竟然是「為所欲為」，筆者覺得的這個真的很嚴重，而且是非常不好的示範！

不論政府的作法「經濟正確與否」，就算是再好的條約，不跟台灣人民「分享」與解說，筆者不知道這樣如何提昇台灣整體競爭力？怎麼提昇台灣百姓的生活&經濟！？

還記得馬英九上任不久第一個大有為政策嘛？

『發放現金券』

現金券的總花費跟最後造就的台灣總體經濟，是相對微小的！但是這政策它算是成功的，它帶領台灣人度過當時最艱困的全球金融風暴！也許在實質金額上的幫助沒有想像中偉大，但是在當時台灣人的心中絕對是有著相當程度安定的效果！

為什麼？！

因為那是台灣上下一心，因為台灣人『大家都相信自己的消費能夠讓台灣有著正向的經濟循環』，馬政府當時的政策宣傳，把一個過去在其他國家執行失敗的相同政策，讓他在台灣執行成功了！這是政府與台灣全民共享的經濟成果！如今對比當初是多麼的諷刺，這是過去曾短暫帶領大家一起撐過艱難時光的同一個政府的施政邏輯嘛！？

*1.服貿公聽會

<http://review.fumao.today/videos>

從最初的幾場公聽會開始，除了沒有正確通知公聽會時間訊息，甚至將會議排到晚上9:30，讓各界專家無法參與，甚至一開始幾場還擋學生入場（有些學生還是做相關專題研究的），會議主席阻擋立委發問（理由是『因為是公聽會，所以官員不可以回答』），作法之粗糙，令人大開眼界。

*2.十二場貨貿座談會中有四分之三的座談會，都在三一八學運期間火速召開並結束。

能面 その幽玄の美

貞光 康子

— 魅せられて —

昭和40年代なかば(1968年前後)、当時京都の大学に在学していた息子の下宿に、掃除やら洗濯やらを口実にして年に何回か上洛していました。そんなある年の秋、洛西嵯峨野の入り口にある広隆寺の弥勒菩薩を拝したことがあります。

うす暗いみ堂のなかで、ひっそりと坐している菩薩像の何と神秘的で美しいこと。日本の国宝第一号に指定されたその仏像は軽く首をかしげて、頬にはほんのりとほほえみをたたえています。細くたおやかな右手の指を軽く頬にあてたしなやかなお姿は、まるで日本のモノリ

ずとも思った程で、私はあまりの美しさに体が硬直するほどの感動を覚えたものでした。しかし現実の生活は主婦として、母としてのあわただしいあけくれで時が過ぎ、いつしか美の世界から遠ざかっておりました。

その後、東京の三井文庫の美術品を見たおり、展示されていた「孫次郎」*という能面に会ったのが私の能面打ち入門のきっかけとなったものでした。広隆寺の弥勒さまに似通ったその能面のかすかなほ



西日本新聞

2004年(平)

「新作能面展」 公募展に選出

能面づくりを始めたのは二十年前。京都・広隆寺の弥勒菩薩の神秘的な美しさと東京・三井文庫の「日本」のモノリザ」といわれる孫次郎の能面に感動したのが人頭大の木曾ヒノキの内部



喜寿を記念して応募したエルガーラ公募展に選ばれ、個展展示作品の仕上げ作業に打ち込む貞光さん

趣味の能面づくりに取り組んでいる粕屋町江辻の主婦、貞光康子さん(60)が喜寿を記念して応募した「新作能面展」が、第六回エルガーラギャラリー

喜寿記念に応募、粕屋町の貞光さん

公募作品展(西日本新聞社主催)に選ばれた。八月三日から八日まで、念願の個展を福岡市・天神の同ホールで開催する。

来月3日から エルガーラで「私の分身、多くの人に見てほしい」

を大ノミでくりぬき、粗彫りし、三十種類のノミを駆使して彫り上げる。サンドペーパーをかけ、にかわと顔料を混ぜた液で下塗りして磨き、上塗り、彩色...。完成するまで二百時間以上かかり、年間三、四面しか作れない。

出来上がった能面は手作りのため、同じ形でもすべて表情が異なり、個性がある。「雑念を払い制作にのめり込んでいますが、これは作るほど能面の奥深さ、難しさを痛感しています」と貞光さんは言う。

アマチュアで文化的な創作活動をしている個人・団体発表の場を提供するエルガーラ公募作品展には、狂言・男面・女面・尉面、鬼神面など六十種類の能面を展示する。貞光さんは喜寿の節目の年に自分の分身ともいえる能面を多くの人たちに見ていただければうれしい」と話している。

はえみが私の心をとらえ、このおもごしを表現したいとの一心で、その年の冬能面師の門をたたき、一気に面打ちにのめりこんでしまいました。昭和も終わりに近かった頃だったと思います。

— 能面の制作 —

能面作り(面打ちと云う)では、まず木曾絵の材木から荒彫りを始め、次第にその面のを彫りあげて裏をくりぬきます。顔にぴったりと当たる程の薄さに仕上げた木材の油抜きをしたあと、面裏にうるし(現在は化学塗料を用いている)を塗ります。

面表には、胡粉とにかわを練り合わせた液で何回も塗りと磨きを繰り返します。次は上塗り、彩色、毛書き、仕上げの工程で一面を完成させるのですが、どの工程でもわずかな手もとの狂いで作品を台なしにする事があり、相当の体力、気力をとめます。私の場合、一面打つのに200〜300時間ほどでしょうか。最初は無我夢中で深夜まで工房にこもるかたわら、写真集をむさぼり、いい作品が展示されると聞けば西に東にと展覧会場めぐりをしたものです。幾百年も前の先人たちが作りあげたさまざまな人間の表情、深い内面の感情などこれ程見事に表現した仮面は世界に類をみない芸術品です。しかし、のめりこむ程にその難しさは増すばかり。私が魅せられたあの弥勒さまや孫次郎の面のわずかなほえみを表現することができず、何度も挫折しかけたことでしょう。今までに翁面をはじめ(老人系)、鬼神面(、天神、獅子など荒もの系)、面(般若面、橋姫、など眼に彫金を施した怨霊系)や若い男面、中年、老年の男面など約80種近い能面を打ってきましたが、やはり何といっても女面の奥深さを表現するのは至難のわざでした。女面には可愛らしい少女のおもかげを残すから老女に至るまで約30ほどの種類があります。

優しくはかなげで美しい若い女性から、深い愁いや悲しみをたたえる中年の女性。人生の深遠をにじませる老女の面、そして嫉妬に狂い、男を呪い、激しい女の執念を表現した橋姫や般若などの面の何と美しく素晴らしいことでしょう。室町時代から延々と続いてきた能の芸術性にあらためて深くためいきをついています。

— 能の歴史と能面 —

ところで能楽とは、猿楽能から発展してきたものとい

われています。室町幕府の三代將軍足利義満に目をかけられた観阿弥、世阿弥の親子(1333〜1443?)が能楽の世界を広げてゆきました。戦国時代は武将のたしなみをとっても大切であり、その後も能は一部の人に愛される古典芸能でした。戦後は各大名家や愛好家が大切に保存して能面や能装束等が海外に流出したとも聞いております。

約150以上あるといわれる能の演目で能面は欠くことのできない道具です。能における鬼神、怨霊を表現するため、あるいは美的表現をとるために顔につける一種の仮装用具です。「めん」又は「おもて」といいます。基本形は60種類位あれば、おおかたの能は演じられると聞きましたが、現在能面の種類は、狂言面も含めて200種以上あるようです。

無表情のこことをよく「能面のような・・・」といいますが、どうしてどうして。能の演者の微妙な所作や動きによって、能面は舞台上で泣いているような、笑っているような、あるいは怒ったり、呪ったりと変化します。そこまでの面を打つことはとても至難の業ではありますが、最近は趣味として面打ちを楽しんでいる人も多いようです。心豊かに生きること、能面からにじみ出る美の世界を表現できたらと思う昨今です。

*孫次郎とは、室町時代金剛家の左近久次孫次郎という面打師が、若くして逝った妻をしのび打ったといわれる若い女面のこと。「おもかげ」の面といわれる。
参考資料:「能の事典」、三省堂発行



能面 幽玄的美

作者: 貞光康子

翻訳: 本郷みどり

一 迷恋一

昭和40年代中(1968年前後)、当時兒子還在京都讀大學。我也藉口說要去他宿舍打掃、洗衣、一年總有幾次會去京都。有一年的秋天,我去洛西嵯峨野入口處的広隆寺參拜弥勒菩薩。

暈暗的佛堂裏、靜坐的菩薩像發出無比神秘的。那尊被指定為第一號日本國寶的佛像、微傾著頭、臉上綻放出微微的笑容。纖細優美的右手指輕點著臉頰、柔美優雅的姿態、不禁讓人覺得這不正是日本的蒙娜麗莎嗎。實在美得讓我感動得楞在那兒、不

知如何是好。但是現實生活裏、我是家庭主婦、又是母親、每天日子忙得團團轉、不知不覺之中、美的世界越離越遠。

那以後、有個機會參觀東京三井文庫的美術品、看到展示的能面「孫次郎」時、不禁燃起我想彫刻能面的意

就像広隆寺的弥勒像、能面微微的笑容打動了我的心、抓住了我的心。一心一意地只想把這臉上的表情表現出來、就這樣那年冬天我去叩能面老師家的門、從此一頭栽入能面彫刻的世界。那已是昭和末年的時候了。

一 能面的製作一

能面的製作(打面)、木曾檜木材、開始先粗彫表面的輪郭、挖空裏面的木材。厚薄要正好貼住顏面、然後去油、裏面塗漆(現在用化學塗料)。

表面用胡粉與膠液拌合的塗料、一次又一次地反覆塗、磨。然後經過上塗、上彩、畫細部毛髮、完工等工程、才完成一面能面的製作。中間不管那一個工程、即時只是手稍微的偏一下、都有可能全功盡棄、無法挽回的情形發生。須要相當的體力與氣力。

通常我彫刻一面大約須要200〜300小時的時間。最初幾乎廢寢忘食地躲在工房熬夜、拼命翻看写真集、一聽到有好的作品展示、就東奔西跑地趕展覽會看作品。幾百年前的先人們的作品、不管各種人間的表情也好、深層內面感情的表現也好、表現得如此完美的假面、可以說是舉世無雙的藝術品。

越投入越覺其難。我所熱愛迷戀的弥勒像、孫次郎能面的臉上的表情、那微微的笑容、實在表現不迭出來。也不知道遭遇過多少次的挫折。算一算、從翁面(老人系)、鬼神面(天神、獅子等荒物系)、面(般若面、橋姫等眼睛彫金的怨霊系)、或年輕男面、中年、老年男面等、我也彫刻了約80種的能面。不管怎麼說、要表現女面的深度可以說是至難的技巧。女面、從可愛的少女到老女、大約有30種類。

從優美纖弱的年輕女性、憂愁悲傷的中年女性、深沈世故的老女、到嫉妬呪恨偏激的橋姫、或般若的能面、實在是太美太棒了。同時對室町時代一直延伸下來的能的藝術性、再度深深地讚嘆。

一 能的歷史與能面一

據說能樂是從猿樂能發展下來的。受到室町幕府三代將軍足利義滿的特別賞識、觀阿弥、世阿弥父子(1333〜1443?)得以將能樂的世界擴大。戰國時代時也因為武将的嗜好而受到特別的禮遇。那以後能發展為人們所喜愛的古典芸能。聽說戰後各大名家或愛好家珍藏的能面或能裝飾品等有一些流出去海外。

能大約有150以上的劇目、而能面是演出不可或缺

的道具。為了表現能劇裏的鬼神、怨霊、或是為了美的表現、裝戴在臉上的一種假面具。念成「めん」或「おもて」。基本形大約有60種類、聽說有了這些種類、大部分能劇的演出也都沒問題了。現在能面的種類、包括狂言面、大約有200種以上。

人們常用「像能面一般・・・」來描述一個臉上毫無表情的人。怎麼會這樣呢為什麼一能的演出者只要稍稍一個微妙的動作、就可以表現出舞台上能面或哭、或笑、或怒、或呪的變化萬端。要達到這樣的境界、可是至難之業。最近有蠻多人將彫刻能面當作一種興趣。期待大家能讓心靈更豐饒、能將能面內裏滲透出來的美表現出來。

能面就像化粧一樣、也是伴裝的道具、基本型有60種、發展至今約有2百多種。

原先能面並無一定的樣式、宗教色彩也比較強。到室町中期、末期、表現人間色彩的能面、份量逐漸增加。能劇大師世阿弥的美學「幽玄美」的演劇表現、極力將人間臉部的表情變化、顏面的衰老醜陋等內煉為精神層次的真誠美。

作者註:孫次郎是室町時代金剛家、名叫左近久次孫次郎的能面彫刻家、他因為悼念早逝的妻子、而打造出來的女面。也被稱為「面影」的面。

參考資料:「能の事典」、三省堂發行

訳者註:

①觀阿弥(1333〜1384)、世阿弥(1363〜1443)

②彫刻能面、日文用「面を打つ」來表現。翻譯成中文即是「打面」。為了讓大家易懂、我還是用「彫刻」兩個字。為什麼製作能面是用「打」的呢?將能面的神韻從木材裏打造出來的意思。不只是彫刻而已、包含精神面的緊張、對話與共鳴、也包含蘊育生命的有機過程。除了彫刻的技術之外、更將能面的靈魂借由素材表現出來。

③能面主要有

- 1.翁面:新年或特殊節慶儀式時、有「翁」的曲目時才使用。最古分類的面。
- 2.尉面:老人系的面、有小尉、朝倉尉、三光尉、笑尉等種類。
- 3.女面:一說到能面、大家都會連想到女面。種類比較多、也比較普遍。有氣質高雅的年輕女性一小面、若女、增、孫次郎等。有表現庶民性的年輕女性一近江女。有表現優雅氣質的中年女性一深井、曲見。還有老年的老女、姥等。
- 4.男面:因身分等狀況、有平太、中將、十六、二十余り、童子、湯食、瘦男等。
- 5.鬼面:鬼或天狗等超自然表現。有表現鬼神、鬼畜的飛出。表現天狗的癡見。
- 6.怨霊:表現死靈。男的怨霊有怪士、瘦男等。女的怨霊有山姥、泥眼。有名的「般若」也屬於怨霊這分類。

海洋大學建校60週年紀念—台日音樂交流 基隆港合唱團參加海大60週年大合唱心得感言



女高音 呂能鳳(團長)

感謝海洋大學張校長、蔡副校長及莊所長邀請基隆港合唱團參加建校60週年台日音樂交流會，此次與福岡、歡喜、天拌坂混聲及海韻合唱團的同台演出，及演唱會完後，精心安排參訪海生館及操船模擬機，令我們所有團員終生難忘。希望未來海洋大學及

基隆港合唱團將再次聯合聯出之機會。

外子於2013年7月16日至基隆港服務，很高興有此機會參與此次盛大的演唱，並幸會各位愛樂的朋友。

女高音 陳麗淑

非常榮幸能夠參加此次演唱會，希望以後能有機會三團能再一起合作

女高音 朱后槐

非常感謝基隆港合唱團能給我們基隆港合唱團演出這樣難得的機會，是我合唱生涯中最開心的事情。也謝謝莊老師、王老師那麼用心耐心的教導我們，這個團還真的不好帶，老師辛苦了！在主秘的帶領下新成立1年期間我們已參加無數的演出都非常成功、圓滿真是奇蹟好厲害不簡單，我相信沒有一個團在一年內能有這樣傲人的成績，每位團員都好棒，團裡兩位靈魂人物劉壽安、李秀英更是犧牲奉獻無私的付出，基隆港合唱團真的少不了你們兩位，三個月後再重新出發吧！

女高音 林石琳

獨唱吉川千巧與陳雪燕的美聲猶如天籟悅耳動聽，小團的和音流暢台風穩健，由衷佩服耄耋之齡東瀛



客，未持歌譜卻能將台灣民謠唱得字正腔圓，在海大創校60週年台日音樂交流會中，讓聆賞者享受一場美好的音樂饗宴。

女高音 林碧玲

感謝總經理夫人、主任秘書用心的帶領我們，及感謝海洋大學和莊團長給我們這麼難得的機會，參與這次的臺日音樂交流活動，除了海洋大學海韻合唱團及基隆港務分公司合唱團精彩的演出外，日本人唱起台灣民謠「天烏烏」特別有趣、別有韻味呢！最開心的是中日大合唱一首「送你一勿忘我」，音樂拉近不同國籍的我們，特別令人感動！演唱完畢時觀眾掌聲如雷貫耳，所謂音樂無國界在此刻我有了深深的體悟，藉由音樂促使臺日雙方民間交流再延續；圓滿的結束表演活動後，享受了豐富的午餐及參觀海洋大學操船模擬機、海科館，難忘的臺日音樂交流活動留下美好的回憶。

女高音 林淑政

與日本團合作新鮮又可學習技巧。

女高音 項婉霞

很高興參加合唱團，謝謝莊老師、王老師那麼用心耐心的教導我們，以及主秘、劉總幹事的帶領，讓合唱團能到處表演，開眼界，吸收別人的精華，這次與日本人合唱讓我留下難忘的回憶。

女高音 阮鶯榮

這次參加海大60週年大合唱，在主任秘書的帶領下，我們基隆港合唱團，在音樂老師教導的指導下，本團員都非常努力練唱。而總經理夫人的歌聲是那麼天籟之音。

這次海洋大學舉辦 詠讚海大 甲子頌歌60周年 台日音樂交流會。是非常成功也很辛苦，還安排所有參加人員，參觀模擬開船教室、水族館內有養殖魚類及貝殼展覽，這次參加海洋大學舉辦 詠讚海大 甲子頌歌 是我最高興快樂一天。

女中音 林素如

海大海韻合唱團與日本福岡、歡喜、天拌坂混聲合唱團聯合演出成功，非常感謝海大熱心促成，未來期盼三方有更多聯合演出的機會。

當日下午福岡、歡喜、天拌坂混聲及海韻合唱團參訪基隆港，於遊艇上，笹田葉子團員熱淚盈眶提及其父親、先生及小叔前服務於基隆-博多的船上，常聽到他們提到基隆港的總總，今日能參訪基隆港真不虛此行。我們聽了都好感動，也希望下次與海韻



合唱團到福岡，再拜會笹田葉子及各位愛樂者。

基隆港合唱團自101年10月1日恢復練唱迄今，感謝莊老師秀芬及王老師宏琳每週一耐心教導、平日副團員陳督導良瀛及劉壽安的溝通協調及每日演唱莊副理耀輝全程攝影。

女中音 陳杏芬

一場美好的音樂饗宴，很高興能參加海大60週年校慶合唱，更難忘用歌聲與日本同好交流，希望有機會到日本交流。

女中音 王玲玲

感謝海大的邀請，我們基隆港合唱團這次能有機會躍上舞台能與日本優質美聲團體合體演出，榮幸之至，期盼爾後有更多的學習與交流。

女中音 繆麗玫

很榮幸也很高興能參加海大60週年慶典，又能與日本歡喜及天拌坂合唱團交流，這是很難得的機會，也從中吸取不同的唱法及歌曲的詮釋，真希望能夠再次與海大合作一起唱歌，並以十二萬分的感謝海大熱情的招待。

女中音 李憶雲

非常不同的合作體驗、台日合唱配合天衣無縫、日本朋友很有禮貌及優雅的氣質。我方也展現熱情親切歡迎，承辦單位更是細心招待、讓人覺得溫馨無比，這次活動意義非凡。

女中音 李阿雪

第1次參加合唱團活動，開啟視野，心情很興奮及見識到對高齡參與活動精神讓人佩服。

女中音 陳美華

這次參與看到日本女高音獨唱神韻，海韻合唱團、日本福岡、歡喜合唱團合音默契值得我學習。

女中音 林石慧

go 出發了 車子的啟動聲 人們的歡愉聲

航向北基最高學府---海大

約莫數十分鐘 台日文化交流正式開鑼囉!

三團百人 貴氣傲人 閃亮耀眼 優雅典僕
只要 放熱情 展笑容 就會溶化 隔閡的語言
陌生的臉孔 大合唱、個人秀 穿插表演
動人的歌詞 美妙的旋律 肢體的牽動
大夥以歌會友 世界已無國籍 有幸參觀
模擬 船支進港過程 體會 港內狀況多變
天色忽晴忽雨 結束時還暈船呢!
親船 吻港 嶄新樣貌行萬里

女中音 李秀英

感覺合唱團隊非常棒，吸收別團優點，並非常感謝團長、主秘及陳督導一年來的相挺及指導。

男高音 蔡正吉

第一次與外國團體合唱，感覺好像我們自己的水準提昇了，希望能繼續合唱不要間斷，永遠保持在水準之上。

男高音 劉壽安

經過海大校慶音樂會後，基隆港合唱團全體團員均大步成長，我個人評估本次音樂會本團歌唱水準為三團之首，由衷感謝莊老師、呂團長與主秘精心照顧，期盼未來大家能早日齊練唱，享受音樂。

男高音 鄭智中

在海大唱歌真的是心曠神怡，燈光美及氣氛佳營造一種文藝氣質，能與各社團互相交流，確實讓我受益良多，感謝海大的熱情款待。

男低音 林義宏

我們基隆港合唱團聲音柔和有共鳴，紅蜻蜓與不了情唱得很有感情，在銀色的月光下表現得活潑，與海大合唱的回憶詮釋得很好，海大校歌前段人聲節奏很優，與日本團合唱送你一朵勿忘我很有質感，日本團的溫文有禮值得學習。

男低音 廖恆星

一場優美且溫暖的音樂交流。



「港の女」之迴響

柯淑純

為什麼到台灣訪問的海洋大學是在基隆？

為什麼可以參觀「他們」口中念念不忘的基隆港？

為什麼...為什麼...迴盪在笹田老太太的腦海中！



站在基隆港貴賓遊艇上層最前方，從基隆港內港沿著東岸碼頭緩緩向前駛，看到碼頭的建設，聽取艇上最熟悉基隆港周邊建設的資深員工介紹，搭配日文口譯再一次的說明，原來基隆港在日本人手中為了建設成為台灣重要軍港的規模，進駐許多日本年輕的建築師、軍官、建港專業人員等等人才，其中就包括了笹田老太太的先生；

提起笹田老先生時，老太太口中好像為了來訪基隆港是等待一輩子的事，因為聽到他曾說基隆港是風景多麼美，人也多麼親切的地方，他為了建設這個港而將青春也投入其中，但是為了照顧家庭讓她都沒機會離開福岡，與先生一起遊覽基隆港，總是掛念著這令人遺憾的事情～有生之年可否踏上基隆港一趟，要親眼看到無論是先生參與建設、

弟弟捕魚中途休息、兒子跑船路過的基隆港啊！



基隆港西岸碼頭



發生了！

「啊！現在我即使去天堂也無所謂了！」

聽到老太太的心聲，眼眶不禁也泛紅了！這是我們自己熟悉的基隆，卻未曾看清楚，用心瞭解，只是來匆匆、去匆匆，盼望我們能在這裡留下一絲絲足跡，也能為基隆留下美好的將來！



在1894年的基隆港手繪地圖



基隆港東岸碼頭

基隆の思い出 2

中村ヤウ子

港には大型船の周りに小さな蒸気船やサンパン、ジャンクなども浮んでいました。

♪ジャンク ジャンク どこへ行く

お荷物積んで どこへ行く

遠いあなたの 支那の国

台湾には土地独特の風物を歌った童謡があって、子供達はその光景に親しみました。

港の隅には父が考案した操炭機船が数隻控えていて、船舶が入港すると、燃料の石炭を積み込んでいました。ガラガラとベルトコンベアで石炭を運び上げ様子を見ると子供心にも希望が湧いたものです。

父は現場ではなく殆ど自宅にいましたが、時々、「事故です！ ビストンが・・・」などと、現場監督の片山さんが飛び込んで来たりすると私もギョッとしました。

街では纏足のおばあさんと喬に乗った花嫁や、道教の葬式の長い行列をよく見ました。春と秋の市内全体の大掃除の知らせも台湾人の係員が街中を大声でフレ歩きました。まず、ドラを1発「ジャン」叩いてから、「アシタ、オオソウジ！ アシタ アメアル オオソウジ ナイ。アシタ アメナイ オオソウジ アル」ジャン傘の修理屋は何枚かの鉄片を三拍子のリズムで振りながらやってきます。

「シャツシュクショ シャツシュクショ コウモリガサ ナオス。ナベ カマナオス シャツシュクショ シャツシュクショ」

一方こちらも三拍子で「ポキッポッポ、ポキッポッポ」と指の間に挟んだ鉄片を器用に鳴らすのは靴直しです。

今、思い出すと、しがいない傘直しや靴直しのおじさんたちのあの表現がとても高度な技術であったと感心します。

大基隆にあった高砂公園の野外ステージでは支那芝居（京劇のようなもの）をよく観ました。



昔の基隆港

海岸近くの広場に大きなテントが張られると、矢野サーカスや芝田サーカスの興業が始まります。ジンタの音楽は何故かいつも「美しき天然」でした。

時には大相撲の巡業があり、お化け屋敷、マジックショーあり、マンガースとハブの決闘もありました。

しかし、基隆の子供達を楽しました所は、クールベール浜の海水浴に優るものではありませんでした。貝拾い、砂遊び、波乗り、水族館で魚を見たり、メリーゴーラウンドに乗ったり、夏になると一日中海水浴で過していたような気がします。夏の終わりには「黒ん坊大会」があって、参加した子どもは全員、賞品のお菓子をもらいました。

ところが、昭和14年1月、台湾語がべらべらで私の尊敬していた兄が小学校5年生で肺浸潤に罹り、医者から、すぐ転地するよう、勧められたのです。

基隆は雨が多く、船の煤煙による空気汚染で結核が多かったのだそうです。

父だけを基隆に残し、母と兄と私の3人は飛び立つように台北の空気の良い田園の街・水道町へ引っ越ししました。（2014年6月16日）



現在の基隆港

台日音楽交流会に参加して

天拝坂混声合唱団 笹田 葉子

この度は、はからずも、台湾海洋大学60周年を讃える記念のコーラス合唱コンサートに、福岡歓喜合唱団、天拝坂混声合唱団のなかに参加させていただき、有難うございました。心よりお礼申し上げます。

初めての海外旅行、まして80才と云う高齢の私を皆様全員で支えていただき、楽しく、元気な3泊4日の旅を終えることができたのも、一重に皆様の助けがあった賜物と感謝いたしております。

さて、海洋大学でのプログラムにのっとり、各合唱団の紹介がありコーラスに入りました。

海韻合唱団 農村酒歌に始まり

基隆港合唱団 赤とんぼ

独唱 吉川千巧先生 陳雪燕先生

福岡歓喜合唱団、天拝坂混声合唱団は日本古謡

福岡歓喜合唱団、天拝坂混声合唱団、海韻合唱団

天鳥島要落雨

最後に基隆港合唱団、海韻合唱団、

福岡歓喜合唱団、

天拝坂混声合唱団

全員で、忘れな

草をあなたと海洋

大学の校歌を歌

いしましたが、始め

てお会いした方達とは

思えない程昔からの

お友達のような

気がして楽しく歌

わせて頂きました。

この楽しい一日

をあたえていただき

ました本郷啓成先生、

みどり先生、

吉川千巧先生に心

から感謝申し上げます。

基隆港クルージング



台湾旅行計画の中に、私の希望を取り入れて頂き、有難うございました。海洋大学は主旨として、海の近く



にあるものとは思っていましたが、台湾に旅行するなら基隆の港を見たいと云う気持ちが大きかったです。

理由①吉川千巧先生から「港の女」を教えて頂きました。基隆の港のどのような所で作詞、作曲されたのか、又風景をみたら、今以上に港の女のうたが自分のものになり、歌えそうな気がいたしますので...

理由②祖父、父、夫、弟が貨物船の船員で、何時も基隆の港の話をしていました。昔の船ですので、船足がおそく、港で船の修理をしていたようです。年休が25日しかありませんので、父の膝の上にすわってよく聞かされました。

基隆港行程の中で思いもかけず、私の最大の一生の思い出を作ってくださった本郷啓成先生、吉川千巧先生、そして林素如先生には大変お世話になりました。計画を立てていただいたクルージングとは軽い気持ちで観光船に乗るものと思っておりましたのに、本郷先生、吉川先生、そして林先生のご尽力により、私には乗船出来ないような船に乗せていただき、林先生とはお話も簡単には出来ない方と聞き、びっくりいたしました。林先生も基隆港合唱団の仲間として、私にも気軽に声を

かけて下さったものと思ひ、世界共通の音楽とは素晴らしいものをつくづく思っております。天拝坂混声合唱団の仲間として、吉川先生は私が落ちこぼれないように指導していただき、有難うございます。感謝します。

最後になりましたが、桃園空港での歓喜合唱団の方の歓迎、木彫見学、苑裡阮先生宅での交流パーティ、日月潭の大きなみずうみ、竹芸博物館での買い物、台北でのお楽しみ夕食会、小籠包の美味かったこと、観光夜市、故宮博物館、台北101ビル展望景色の素晴らしかったこと、本郷先生にお連れしていただいた九份散策での飲茶の美味しかったこと、昨日のように思い出され一日をすごしております。

台湾海洋大学での台日音楽交流会に参加させていただき、有難うございました。

平成25年12月20日



楽しかった旅「台湾」

天拝坂混声合唱団 堀川 忠宏

私にとって台湾は、二度目の旅でした。前回は、会社の社員旅行で旅行者が企画した観光地めぐりでした。

しかし、今度は「歓喜合唱団」と海洋大学合唱交流会に参加する旅で、出発の時から期待で胸が一杯でした。桃園空港に着くと早速バスに乗り苑裡へ出発、故郭芝苑先生宅を訪問。ちょうど日本のお盆のような日で、遠方からも里帰りされた郭先生のご家族に迎えら



れ、ご実家のたたずまいを見学させてもらいました。そして、場所を阮文池先生宅に移し、地元合唱団と合唱の交換をし、手作りの美味しい盛沢山の食事を戴き、ひとしきり歓談の時をともにしました。

三日目、いよいよ海洋大学で合唱の交換会です。やたら緊張しましたが、まずまず自分としては歌えたかなと満足しています。また、港務局のご好意で基隆港クルージングもしていただきました。

観光もいっぱいさせてもらい、埔里か草屯など一般のツアーでは企画されないようなところにも案内していただきました。そこでは、珍しいフルーツも沢山戴き、次から次へ食欲に食べました。

私は、台中のホテルにジャケットを忘れるとんでもない失敗をしましたが、次のホテルに宅急便で送ってもらうなどのご好意もいただいています。また、街は、漢字がいっぱいで日本にいるかのような安心感もありました。

印象に残ったのですが「楽しんでますか」「沢山食べましたか」と常に声を掛けていただき、台湾の方のおもてなしの優しさを感じ心豊かな旅となりました。

娘と旅する台湾

福岡歓喜合唱団 原良子

2013年10月。私が福岡歓喜合唱団に入ってから初めての台湾音楽交流旅行が実現しました。連休に絡んだ日程だったこともあり、娘も一緒に連れて行くことになりました。娘との台湾旅行は2度目です。1度目は8年前、娘が2歳8か月の時でした。

その目的は娘が当時崇拜していた台湾のライブ・王・伍佰が出演する『客棧搖滾演唱會』を見に行くため。伍佰と、やはり台湾音楽界の重鎮である陳昇(ボビー・チェン)が発起人となって企画した「台湾人のアイデンティティを想起するコンサート」です。いくら好きでも伍佰単独のライブでは飽きてしまうし、オールスタンディングは無理、と諦めていたのですが、これならいろんな歌手がつかえひつかえてくるし、オール着席の会場なので娘も飽きずにゆっくり見られるかも!とにわか



8年前のもの...珍珠奶茶、公園で遊ぶ娘

空港ではちょっと手を離すと脱兎のごとく走り去り、追いかけて回すだけで一苦労。やっとのことで出国手続きを終え、飛行機に乗れたと思ったら、今度は入国審査という難関が待っていました。またまた追いかけるこの末、なんとか入国に成功。心底ほっとしました。

リムジンバスに乗り、懐かしい台湾の景色を眺めながら感慨にふけっている私の隣で娘は高いびきです。まだ生まれて2年8か月しか経っていない娘にとっては、日本も福岡も台湾も変わらないわけです。そりやそうだよね〜、と寝顔を見ながら思うのでした。

ホテルの部屋でもご飯を食べに行こうと言っては追いかけて。友達に会いに行くよと言っては追いかけて。仕方がないで近くの公園にお散歩です。結局日本にいる時と同じことをしてるよ、とちょっぴり情けなくなる私。

そんなこんなで娘の機嫌をとりつつも、大好きな珍珠奶茶(タピオカミルクティー)を飲みに行ったり、マンガをかき氷を食べに行ったり、それなりに台湾を楽しみました。

そしてメインイベントのコンサート。出かけようとした時に「おうちでビデオ見る」と言い出した時にはヒヤッとしましたが、東京から駆けつけた友人たちとも合流し、会場・台北国際会議中心にたどり着きました。

会場の中に入るとステージ横の大きなスクリーンに伍佰のプロモーションビデオが流れています。日本のCDショップで店員さんに「伍佰CD!」と言って怪訝な顔をされたこともあるけれど、ここではこんなに大きく伍佰の映像が流れているよ!

「台湾だね」娘がうれしそうにささやきました。「そうだね」私も笑顔を返しました。コンサートが始まると、娘は歌手たちが出てくるたびに熱心に拍手をしています。そして6組目のアーティスト。……ス

クリーンに大きく「伍佰」の文字が! 大歓声が会場中に響きます。実は、伍佰の出演が最後だったでしょう……と密かに心配していたのでした。そうしたら娘は確実に伍佰登場前に寝てしまったでしょう。こんなに早く登場してくれるとは感激! 娘もしっかり目を見開いて伍佰の歌を堪能し、精一杯の拍手を贈りました。

伍佰退場後しばらくして眠りに落ちた娘もラストには目を覚まし、一生懸命「アンコッ(アンコール)、アンコッ」と叫びました。

娘の初台湾旅行はそんな具合で、親子共に2泊3日が限界でしたが、目的であるコンサートは目いっぱい楽しめたようなのでよしとしましょう!

そして今回、娘にとっては2回目の台湾です。前回は観客としてでしたが、今回は直前に娘と一緒に歌わせていただくことになり、急遽ステージに出ることに!

急ごしらえでありましたが、台湾語の「天黒黑」などの曲もあつという間に歌えるようになり、私がダメ出しをされる始末です。気おくれすることもなく、堂々と歌う姿に成長を感じました。

また、ぎっしり詰まったスケジュールの合間をぬって台北在住の友人と約束をしていたため、食事の途中で退席しなければならなかった時がありました。すると、娘は残って皆さんと一緒に帰る、と言います。どうしてもデザートが食べたかったからだったようですが(笑)、もう平気で母と別行動を取れるようになったのか、と驚きました。それだけ歓喜の皆さんに信頼を寄せているということなのでしょうが!

1回目の台湾旅行では台北内をちょこちょこ移動しただけでしたが、今回は三義、台中、日月潭、九份なども観光し、台湾の皆さんと音楽の交流ができました。美しい風景、おいしい食事、温かいおもてなし。滅多にできない貴重な体験がたっぷりできた贅沢な旅行でした。娘の記憶に大きく台湾の思い出が刻まれたことと思います。

とうとう実現した娘との台湾音楽交流旅行。私にとっても素晴らしい経験となりました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。心から感謝致します。謝謝!



今回のもの...歌、日月潭、娘、竹細工博物館にて

人去屋空音猶在

阿成



2013年9月11日福岡・歡喜合唱團與天拝坂混声合唱團到台灣的音樂之旅、第一站即是拜訪剛過世的台灣作曲家郭芝苑老師的故居裡。



我們先去「蘭草博物館」參觀苑裡的蘭草手工藝品。每樣手工藝品的精巧美麗讓這些日本友人「太棒了！太棒了！」不斷地咋咋讚美。作品背後編織這些作品的其美多是守在家裏的阿嬤與媽媽們、這樣的家庭內手工作業場景表現在郭老師的歌曲作品「阿嬤的手芸」裏。

館長陳惠芬還特別準備了一排長桌、利用陶器、稻穗、刻有「惜緣」兩字的柚子、茶具與蘭草手工藝品、將長桌佈置得非常具有台灣文化的情趣、配上烏龍茶茶道、台灣水果—龍眼・蓮霧・芭樂・楊桃・香蕉、等奇果招待大家、讓日本友人們感受到台灣人熱情真誠的精品文化。不管蘭草的手工藝品也好、台灣的茶道也好、這些庶民文化都和日常生活自然



地連在一起、不會刻意地去昇華它、也不會任意讓它沈淪無章。如果說「一期一会」是日本茶道的精神神髓、在這兒我深深地体会到台灣茶道「惜緣」的精神與不離世的溫馨境界。



吉川千巧老師教我們唱過一些郭老師的歌曲作品、如「港之女」「我相信」、特別是郭老師的童謠組曲。天拝坂混声合唱團也會唱「港之女」、因此這些日本人也都興緻勃勃地想看看郭老師的生家。

當我們來到郭老師的故居「苑裡鎮苑南里為公路36號」時、門柱上的「36」顯得那麼的令人嘖嘖！郭芝苑室內合唱團的朋友們熱情地招呼我們、帶大家參觀郭老師的起居間與書齋、繞出庭院時、大家自然地圍過來拍團體照。回想起當年大家來時、一樣的场景、一樣的笑容、只是今天獨不見郭老師。

將離時、回頭看、門柱上的「36」、默默無語。

下回來、陰總缺、不知又將如何？

曾經大家努力請願過、希望能將「為公路」改為「芝苑路」。也希望郭老師的故居能保全起來當作郭芝苑紀念館。在經濟掛帥的這塊土壤上、經濟效益蒙蔽了我們對美文化的感受與覺醒。也唯有在社會經過經濟意識覺醒→民主意識覺醒→美文化意識覺醒的成長過程、人們才會回過頭來尋找這些文化寶藏。

哼著郭老師的「嬰仔咽」、這首從台灣古來傳留下來的民謠改編的歌曲、讓我想起金剛經的「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、應作如是觀。」

不過、音樂不是有為法、它不會如夢幻泡影、也不會如露亦如電、應作如是觀。

有心的郭芝苑室內合唱團的朋友們、大家會默默地一代傳一代的傳唱下去。

阮文池老師是郭芝苑室內合唱團的指導老師、也是郭老師的直傳弟子與守護使者。當大家來到阮老師的家門口時、屋裏飄來一陣陣熟悉的台灣料理香味、蔥香、米香、蝦米香。屋裏的長桌早已擺滿一列列一盤盤的美味料理。一群室內合唱團的朋友們早已等在那兒了。屋子裏充滿著笑聲、歌聲、琴聲、還有筷子碗盤你來我往的談話聲。音樂交流在這些伴奏樂聲中熱鬧的展開、也在這些伴奏樂聲中互道珍重。

貫穿其間的五線譜上、郭老師歌曲作品的♪♪跳躍無間、在你我他之間穿梭蕩漾...



2013年音楽の夕べ

村上 隆太 (福岡イブニングロータリー・クラブ)



8月3日(土)の夕刻、糸島市川付の本郷啓成さん宅において、九州日台文化交流会主催の音楽の夕べが開催されました。

演奏されたのは、日本と海外で活躍されているソプラノ歌手有光ヴィトウィッチ康子さんとピ

アニストの木村依加さんのお二人でした。有光ヴィトウィッチさんは、日本の民謡などの歌を5曲、オフペンバック、モーツァルトの歌曲などを力いっぱい歌われました、ピアノ伴奏をされた木村さんは、独奏もされ、グノーのアヴェマリアの素晴らしい演奏をされました。お二人とも内外で賞を取られた方だけあって、本格的な演奏に感服しました。出演予定だったヴァイオリニストとピアニストがやむをえない事情で参加できなかったのは残念でしたが、会場の古民家の会場いっぱいに音が響き

渡り、すぐ側で聴くオペラ歌手の声に圧倒されました。参加した多くのかたも同感だったようで、アンコールの声が止みませんでした。

雷山の麓に近い緑いっぱいの本郷さん宅の雰囲気は、このような芸術を楽しむのにぴったりで、音楽と、演奏会後にいただいたデザートを合わせ、心を豊かにされた夕べでした。

本郷さんありがとうございました。



「音楽の夕べ」に参加して

歌野 由紀子

連日酷い暑さの続く八月三日、本郷啓成先生、みどり先生のお招きをうけ、糸島の別邸に集い、ヨーロッパ在住の音楽家による「音楽の夕べ」に参加させて頂きました。

大きな梁を活かした立派な古民家は先生方のご趣味の溢れるしっとりと心落ち着く空間で、今年は、二台ものエアコンが増設され、行き届いたお心遣いに感謝と申し訳無さが綱い交ぜになりました。

当日はヴァイオリンの武藤亜実さんのご主人レイナルト アルブレヒトさんが手のけがのため、ソプラノの有光さん、ピアノの木村さんのご負担が大きかったこととお察し申し上げます。(アルブレヒトさんのご回復の一日も早くんことをお祈りいたします。)

ピアノの木村さんの司会で始まった演奏は、実に素



晴らしいもので、ヨーロッパで活躍中のお方の演奏をこんなに身近で鑑賞したのは、初めてで心に深く深く染み透りました。

啄木の好きな私、「初恋」が聞けるなんて、幸せの極みでした。

頭のてっぺんまで響き渡る、コロラチュラ、実に心地よいものでした。

日本の楽曲と西洋の物とをバランスよく揃えられ、大変親しみ易かったです。欲を言えばグノーに対比させて、シューベルトの「アヴェマリア」を聞いてみたいと思いました。

最後にアンコールのおまけ迄聞かせて下さり、有難うございました。

ピアノの木村依加さん、あの若さで、演奏も、司会も、とてもお上手で、心底感心致しました。お疲れ様でした。いつものように、愉快な大嶋先生のヴォイストレーニングに続き、浜辺の歌、瀬戸の花嫁、故郷、うみ、を皆で合唱し、まさに心響き合うひとときでした。

「風の音よ雲の様よ、寄する波も貝の色も……

改めて昔の歌詞の美しさに感じ入りました。

このように素晴らしい会を企画し、先生方と繋がりのある人たちに幸せを届けて下さる先生方の御姿勢に只

々頭が下がります。本当に有難うございました。この様に格調高い、濃密な時間を共有させて頂き幸せな気持ちで、又明日に立ち向かう心を奮い立たせて頂きました。「非常感謝」そして、お疲れ様でございます。

終わってのデザートも一人、ひとりに渡るように配慮され、次々と点心も戴き、大変恐縮いたしました。これ

だけのご準備、さぞ大変でしたでしょう。

先ずは出演者の選定、交渉、御庭のお手入れからお部屋の清掃、椅子等の配置、飲食物のお手配等々、どれ程のご配慮を要したでしょう。先生方に感謝の念、尊敬の念でいっぱい御座います。暑さの折からお疲れが出ませんようにと祈っております。

「音楽の夕べ」に誘われて

清水 タカ子



ました。

このご案内を頂いた時に、「You tube」で調べて、依加さんの演奏を聴きました。とても力強い演奏でした。お姿を目にした時は、小柄な方だったので、驚きました。

一時間半の感動のさめやらぬ後には、手作りの数々のデザートなどを頂きました。こちらもそれは、美味しく、うっとりとなりました。

歓談の時間がすぎて、楽しい大嶋先生の歌唱指導のもと、皆で、日本の懐かしい歌をうたい、とても和みました。

この夏は、猛暑が続いて、気持ちまでなえていました。そんな8月の夕刻、私は、まるで緑の渓谷にいるような、心地よい、夢のようなひとときにいざなわれました。それが、「音楽のゆうべ」でした。

この日は、有光ヴィトウィッチ泰子さんのソプラノと木村依加さんのピアノ演奏がありました。ソプラノの泰子さんの歌声は、からだ中に響き渡りました。中でも「魔笛」の中から、日本風にいえば、「ハンニャ」の歌の時は、音声と表情に身ぶるいました。あとで、啓成先生が、「リハーサルの時、障子が破れたんですよ(笑)」とおっしゃったのも、うなずける程の迫力でした。細っそりとなされた、優しい雰囲気からは想像も出来ませんでした。

ピアノの依加さんの演奏にも引き込まれました。依加さんは、泰子さんの歌の解説もわかり易くしてください



今日の会は、糸島の先生のお宅での演奏会でしたから、私達と同じフロアーの目の前で演奏して下さったのですから、聴く者にとって、こんな「ぜいたく」はありません。

打ち水のなされた門を入った時から、すがすがしい気持ちになって、玄関にはいり、又びっくり……

広いフロアーに立派なお花が飾られていました。昼間の暑さは、どこへやら、夢のような楽しい時間を頂きました。大きな喜びと感謝でいっぱいです。

本郷先生、ご夫妻の暖かいお気持ち、ほんとうにありがとうございました。

2013年8月



春天的歌声

本郷 みどり



会努力的把台湾的歌唱給日本人聽、我們唱過望春風、河迎春夢、滿山春色、天鳥島、伊是咱的寶貝…唱過郭芝苑老師的童謠組曲、港之女…等等、少說也有數十首了。日本人聽了、也都很感動的直誇讚！可是很少有日本人來向我要來譜的。

這個問題在於「好聽・喜歡」與「想唱・要唱」之間的距離、還是相當遠！隔了好幾重山與海。

這幾年歡喜合唱團在吉川老師的指導下、萬團長的帶領下、大家努力著想把台灣的歌唱出去。有人感動、也有人喪志的認為這些努力徒勞無功。

唱了、也許還真的徒勞無功；但是我們連自己台灣的歌都不唱的話、誰替我們唱呢？更不用說希望日本人也來唱台灣的歌。

5月11日這一天、我們帶著日本友人唱「雨夜花」。日本友人讀著片假名的拼音、很認真的學唱。

「雨夜花、雨夜花、受風雨吹落地…花謝落土不再回…」大家唱得高興、戚戚我心繞著「花謝落土不再回」的歌詞、想起「伊是咱的寶貝」裏的歌詞「不憐伊墜落黑暗地、未開的花需要我的關心、乎伊一片成長的土地…」

我這麼相信著。



5月11日在前原市本郷先生的鄉間別墅、大嶋万里子老師的愛唱歌同好會與歡喜合唱團有一場「春天的歌声」交流會。

在春暖日和的氛圍下、大家輕鬆自在。大嶋老師與萬逸真團長的帶領下、浜千鳥、故鄉、赤とんぼ、月の砂漠…大家放懷地一曲接著一曲高歌抒懷。

吉川千巧老師的獨唱「想」與「愛你愛得不得了」、日本友人即時聽不懂歌詞、聽那動容的歌声與旋律、也能感受到那份對愛的思念與情懷。

大嶋老師用的教本是「愛唱歌」、那裏頭有近3百首日本與世界各國名曲。她常說：「怎麼沒有台灣的歌呢？」

我也常常思索這個問題。我們台灣人多多少少都會哼上幾首日本歌、那大多數日本人為什麼連一首台灣的歌都不會唱呢？不要說「唱」、「哼」的就好——那是日本人的心態問題？還是我們台灣的歌曲沒有自國的風味特色又能放諸四海皆準打動人心的名曲？有、有、有！我們歡喜合唱團一有機會就



音樂的饗宴—音樂のつどい

本郷 みどり

2014年8月3日（星期日）12:30~14:30、九州台日文化交流會於福岡市西南學院大學community center舉行一場「音樂的饗宴（音樂のつどい）」。

出演者為：

有光 ヴイトウツチ 泰子（女高音）
阮文池（男高音）
田中孝二（folk singer）
木村依加（鋼琴家）



鋼琴家木村依加（鹿兒島李文和醫師的女兒）演奏台灣作曲家郭芝苑的鋼琴曲「東方舞」、活潑的快板與旋律、充滿台灣亞熱帶文化的盎然氣息。接著阮文池演唱「田中央」「嬰兒晒」等5首郭芝苑的作品。經由木村依加對郭芝苑作品的簡扼說明、日本聽眾雖然聽不懂台灣歌詞的意思、但可以了解這是台灣的搖籃曲、那是台灣可愛的鯽仔魚…



folk singer田中孝二大學時代曾經是「フォーシンガーズ」（チューリップの前身）的成員。他唱「Green green grass of home」「白いブランコ」等4首folk song。他的歌声除了溫柔、還是溫柔。沒有壓力、沒有勉強的歌声、像微風、也像流水、緩緩地安撫著聽者的心靈、是那樣的幸福、平安。大部分的聽眾都是那個世代、聽那些歌渡過青春時代的初老朋友、人生轉過一大圈、重新聆聽這些老歌、倍感唏噓。

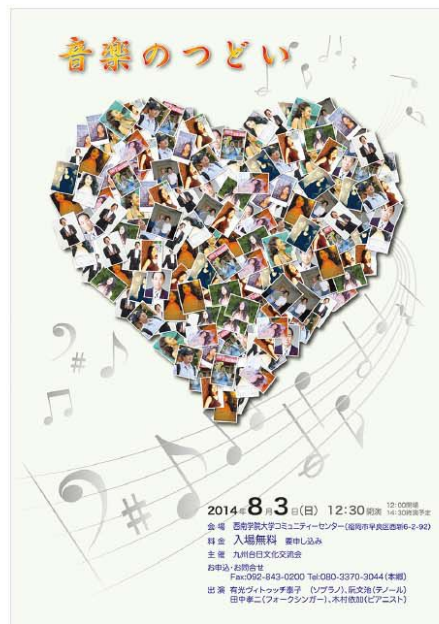


這四位出演者、如海報上的介紹、都是非常優秀的音樂家。

音樂會首先介紹出席的台灣駐福岡經濟文化辦事處戎義俊處長等貴賓、並為高雄氣爆事件的犧牲者默禱後、展開演出。

首先、由來自台灣的男高音阮文池演唱Ombra mai fu,Amari!與舒伯特的Ave Maria。這三首都是日本聽眾熟悉的歌、阮文池厚實飽滿又溫馨的歌声、從第一個Ombra的音、到最後Maria的音、節節環扣、扣人心弦、會場滿堂的掌聲將出演者與聽眾之間的距離拉近到面對面的音樂交流、整個會場凝聚成一圈又一圈無比幸福的氛圍。

女高音有光 ヴイトウツチ 泰子旅居義大利多年、活躍於義大利音樂界、在木村依加專業的鋼琴伴奏下、演唱Son bella pastorella,Quando men vo,Il dolce suono mi colpi di sua voce



等7首義大利歌曲。

她驅使花腔女高音的高度技巧、歌声輕巧靈活、曲調高亢、感情熱烈、色彩華麗、快速的音階時而劃過天際、時而餘音婉轉、震撼所有在座聆聽的聽眾、堪說是藝術與技巧最完美的結合。



木村依加到德国深造、每年回来、琴芸都有讓人驚訝的進步表現、對音樂的詮釋、不管是鋼琴或声乐、她都能用很平易的解釋讓我們這些門外漢了解。她彈德布西的「月光」、如歌亦如詩、今年的月光似乎多了些許的陰晴圓缺！平井康三郎編曲的「櫻花櫻花」鋼琴独奏曲更是讓在座的日本聽眾再度感受到自國日本音樂作品的美。

終場謝幕時、會場上「Encore!Encore!」的掌聲不斷、有光ヴィトウツチ泰子為大家再演唱一曲。她的女花腔唱活了「霍夫曼的故事」裏「人偶奧林匹亞之尖銳」的幽默趣味、巧妙地模仿機械玩具所發出的尖銳聲音與發條軌動走調的聲音、十分生動活潑。

會場220席座無虛席、加上備席、立席、將會場沸騰到臨界點的高潮氛圍。結束的時光、出演者與全體聽眾在大合唱「望春風」「Edelweiss」與「故鄉」後、依依不捨地結束這場盛大溫馨的音樂會。

會後、聽眾感動、感謝與讚美的言辭不斷、也有感動得流淚嘆氣的朋友、也有感謝的信函、也有要郭芝苑的樂譜的德國朋友、有一位癌症友人眼裏閃爍著淚水、深深地對我一鞠躬、驚嘆號此起彼落……走出會場、這一路一直伴在我們身邊的工作夥伴們、大家互相淡淡道聲「辛苦了!」、就各自收拾行囊道具、回家了。



朋友對我說、這不只是一場很成功的音樂會、也是一場很成功的台日國際交流。

不過、我一向不喜歡成功或不成功的字眼。我寧可用「很棒!素晴らしい!」來形容這次的音樂會。

出演者們盡其一生努力的藝術成果、以音樂的各種表現方式帶給聽眾們至高、最美的音樂饗宴、這種至福至美的感受與擁抱、近乎上天賜與的神密加持、似乎也只能用amazing grace來形容。

在籌畫這場音樂會的階段、我們和鹿児島县的木村

絹代姉(木村依加的母親)商量了一陣子。

去年8月在我們福岡鄉下的大房子、我們為有光ヴィトウツチ泰子與木村依加辦了一場「仲夏夜的音樂」、來了近百位的音樂愛好家、有光ヴィトウツチ泰子女高音的高超美聲與木村依加的鋼琴造詣、大家都讚不絕口、特別是有光ヴィトウツチ泰子唱「魔笛」裏的「Queen of the night」時、全身全靈燃燒著地獄復讐的火炎、女花腔的高音歌声、瘋狂燃燒死與絕望的咒語、震撼所有在座聆聽的聽眾、讓人有不寒而慄的恐怖感……唱活了 Queen of the night!

從絹代姉的描述裏、我們知道有光さんが在義大利依然不斷地鑽研訓練声乐。她的義大利丈夫、一位專攻日本文化的大学學者、對声乐音樂的造詣專精、是有光さん背後最大的支持者、理解者、也是最有力的推手。今年7月26日在鹿児島县的音樂會、800席的音樂廳、座無虛席。發亮的瑰宝、明天会更亮。

木村依加的父親出身台灣、與我們同年代、大家呼吸的空氣、吃的米、飲的水、吸收的台灣營養素都一樣、價值觀也相近。對依加、也如自己的女兒那般、這一路、我們看著她成長、出國深造、再成長……依加今天的表現、只要知道她的才華與努力、這一切都如水到渠成般的自然。這場鋼琴瑰宝、明天会更亮。

認識阮文池與作曲家郭芝苑已經有10年了。去年郭芝苑留下龐多的作品、離開世間。我們內心有些隱憂、担心郭老師留下来的作品失唱、散失、風化。也因為這份担心、更加期望能將郭老師的作品再度推上日本的國際舞台。阮文池、這位郭老師的真傳弟子與傳承使者、更是我們的期待與心愛。這幾年、阮老師的聲帶因為無呼吸症候群、出了一些問題。這一年恢復得不錯、因此、說什麼、我們也一定要把他請來日本演出。

一位日本的音樂友人告訴我、阮文池這次的演出與10年前不太一樣、少了強張的宏亮、但多了一份沈穩下来的香醇與安靜內斂的熱情。我想、阮老師若無這些年的葛藤與掙扎、恐怕也不會有今天的內勁與香醇吧!這過程許許多多如泡沫般的愚痴與無奈、如今、風清雲淡、沈澱出一潭無垢無痕的香醇歌声。

有很多時候、我們會用許許多多的話來向日本人介紹台灣。

今天、我們可以不用一個「台灣」的字眼、而把「台灣」的精



湛文化呈現出來。

這就是音樂!

與潛藏在音樂背後你我他、我們大家的台灣精神。



プロフィール

■ソプラノ 有光ヴィトウツチ泰子



鹿児島短期大学(現・国際大学)音楽科(声楽3-2)同短期大学専攻科(声楽専攻)卒業・修了。修了時、優秀者による演奏会に出演。水瀧陽子に師事。昭和音楽大学・音楽学部・声楽科へ編入。イタリア研修中、優秀者による各コンサートへ出演。卒業時、鹿児島新人演奏会へ推薦される。中川順子に師事。イタリアへ二度の短期留学。スペインのオヘア講習会に参加し優秀者によるコンサート、オペラ「椿姫」に出演。塚田京子、金井紀子、アレクサンドロ・ズッパバルド、キム・ヨンミ氏に師事。

2006年イタリアに移住し、ジュゼッペ・リッパ、マッテオ・プランピッラ、セルジョ・ベルトッキ、パオラ・モリナリ、フランコ・フェデリチ、ウィリアム・マッテウッチ 各氏世界的著名な音楽家に師事。現在、イタリアのボローニャ歌劇場のステファノ・コンティチェリ、パルマ歌劇場のクラウディオ・チレリに師事される。ボローニャのチロ・リリコ(オペラ協会)での各コンサートに出演。

2009年～2011年には東京 JT ホール、王子ホール、鹿児島サンエルホールでリサイタルを開催。イタリアでは2011年フランコ・フェデリチによる「ラ」講習を特別優秀修了。ミラノにてオペラ「ボエーム」ムゼッタ役で合格。2012年ボローニャにてクリスマスコンサートや東日本大震災のためのチャリティコンサートに出演。2012年～2014年にスペイン・マドリードのオーディションで「リコレット」「愛の妙案」「ボエーム」で合格。2012年ボローニャにてソロ・リサイタルを開催し大好評を得た。2013年イタリアのクレマナにてジョイントコンサート、東京(グランドヒル市ヶ谷)・福岡で演奏。2014年8月福岡(西南学院大学コミュニティセンター)・9月ボローニャ、11月ミラノにてコンサートを予定している。

■フォークシンガー 田中 孝二



大学時代に財津和夫氏らと共にフォークバンド「フォーシンガーズ」(チューリップの前身)を結成し、1969年ヤマハ第3回全日本ライトミュージックコンテスト福岡地区大会優勝、九州代表として全国大会に出演。

2007年に全国転動から福岡に戻ってきた事がきっかけで、新たに西南学院大学ORでフォークバンド「テレベルトグリーン」を結成、「がんの子供を守る会チャリティコンサート」や「火山教育園チャリティコンサート」に毎年出演している。そのほか介護施設でのライブ等を中心に活動している。

駐福岡弁事処

戒処長が「音楽のつどい」で高雄爆発事故の犠牲者に黙禱

九州台日文化交流会が主催する音楽祭「音楽のつどい」が8月3日、福岡市西南学院大学コミュニティセンターにて開催された。来賓として駐福岡弁事処・戒処長夫妻、謝延済組長夫妻、郭慧敏秘書らが出席したほか、政財界や各県華僑総会など各界から約270人が集った。会場の220席は満席で、補助席に座る人や立ち見をする人もいた。音楽祭では、はじめに高雄爆発事故の犠牲者にむけ黙禱が行われた。出演したピアニスト木村依加は台湾の作曲家・郭芝苑の曲「東方舞」を演奏し、活力ある演奏を披露。会場は大きな拍手に包まれた。最後は全



戒処長夫婦(写真中央)が「音楽のつどい」に出席

2014年9月1日台湾新聞

■ピアニスト 木村依加



志學館中・高等部卒業。東京音楽大学ピアノ科卒業。同大学ピアノソロ及びピアノ Duo 卒業演奏会出演。第26回鹿児島新人演奏会にて特別奨励賞受賞。南日本ジュニアピアノコンクール、PITINA ピアノコンペティション、JPTA ピアノオーディション、ジュニアオリジナルコンサートなどで多数受賞。ピアノを山本英二・小園典男・小佐野圭、奏はるひ・岸邊真知子、作曲を中森妙子・山本敬博、声楽伴奏を Corinna Korff-Willkox、器楽伴奏を大原千晶・Scott Faigen に師事。

2013年ハイドルベルク歌曲アカデミーに合格し、奨学生として Thomas Hampson, Thomas Quasthoff, Wolfram Rieger の各氏に、2014年国際アゴ・ヴォルフ歌曲アカデミーに合格し、Robert Holl, Helmut Deutsch の各氏に師事。その他様々なマスタークラスに参加。2014年エリザベス女王国際コンクール声楽部門にてセミファイナリスト Yuan Zhang の伴奏を務める。

2012年ドイツ国立マンハイム音楽大学歌曲研究科にてディプロマ取得。現在同大学院音楽科に所属。同大学声楽科・ホルン科及びファゴット科伴奏助手を務める傍ら、ドイツ・日本・台湾を中心にソロ・伴奏・編曲など幅広く活動している。

■テノール 阮文池



台湾文化大学音楽学科卒業。1990年～1993年渡米し、David Bariton, Richard Barret, 火龍に師事。ニューヨーク市立大学ブルックリン校音楽専攻の音楽修士学位を取得。アメリカでの演奏で Brooklyn Center for the Performing Arts at Brooklyn College にて「蝶々夫人」の Goro 役、「Pagliacci」の Arguin 役など多くのオペラに出演。

1994年帰国。台湾各地で積極的に台湾本土の音楽と歌曲を広め、合唱団の指導及び音楽教育活動をしている。近年は郭芝苑室内合唱団を引率し、台湾各地に巡回出演をしている。

2007年3月福岡あいのりホールにて「蓮山楽府一郭芝苑台湾音楽コンサート」にソリストとして出演。

現任台湾靜宜大学講師。

再會了，福岡！

王綵嫻

福岡印象

一行人滿載鹿兒島的溫馨感動與充實，搭乘新幹縣火車抵達博多；我們載欣載奔的下了車，印入眼簾的，是個人氣熱鬧的車站，熙熙攘攘，充滿大都會的活力。接著我們搭地鐵到藤琦，到站時，本鄉醫師早已笑容可掬的站在月台。哇！好久不見！好友，我們來了！

聽說福岡是拉麵的故鄉，可惜記憶中的拉麵店休假，我們就隨緣進一家店，去吃簡易日式套餐。福岡真是美食天堂啊，沙拉、炒飯、烤肉、啤酒，加上久別重逢的老友。哦，幸福！

邊走邊看邊聊，終於到達本鄉齒科，也就是我們這幾天要落腳的地方－本鄉醫師的家。Midori醫師聞聲奔下樓。哇！好久不見！Midori優雅的笑容依舊，她溫馨的擁抱，真誠的嘘寒問暖！被歡迎的感受，一陣一陣注入我的心坎裡！

這一天我們要去能古島。它是福岡的離島，飄浮在博多灣中央。本鄉醫師帶著我們一群人來到姪浜碼頭準備搭渡輪，碼頭的氣氛很悠閒，於是等船的旅客也悠哉悠哉的等船進港，登船，欣賞周圍的風景。船上可看到福岡塔及巨蛋。坐在舒適的船艙，屁股還沒坐熱就到了。接著我們就搭巴士，搖搖晃晃的前往能古島公園。

公車上又再次見識到日本人的親切有禮。無論你問什麼問題，司機都耐心的回答。每到一站，都是堆滿微笑的等客人上車、買票、丟銅板、找到位置坐下，才發動車子。想起家鄉臺灣的公車司機，開車像賽車似的，只求把行程走完；遇到老人或他們瞧不上眼的外勞，便十足的不耐煩。常常老人家還

沒坐穩便開車，還要嫌老人動作慢。兩相對照，心情不免沉重起來。

能古島公園有著與世無爭的寧靜自然氣息。

這天飄著濛濛細雨，我們仍然不減遊興，因為公園處處是花蹤。走道兩邊，都是大塊大塊的花圃，沒開花的地方，便是一片綠意盎然的草坪。這裡每個月都有不同的花做主題，我們遇到的是太陽花向日葵。雖然已是花季末期，有兩三片花海仍是開得燦爛；此時隨意按下快門，都能拍到美景，與黃花爭豔！公園的小徑四周，有不同玩意的商店。尤其是陶瓷店展示的杯盤碗筷，別出心裁的圖案，生動有趣，險些失去理智，通通搬回家。

原本以為會很無聊的小動物角落，也意想不到的可愛，牠們爭先恐後的搶奪食物，讓餵食的小朋友為之動容，毫不吝嗇的把手上的飼料，塞入嗷嗷待哺的口中，大人們在一旁不覺莞爾。走出動物之家，再往前行便是靠海的足球場了。對著海邊的山崖，美得驚心動魄，迎著海風遠眺，令人流連。累了！到夢咖啡喝杯Latte，回味今日收入眼底的美景，意猶未盡地，再讓巴士、渡輪緩緩的拉我們回家。

此行若用英文表達，我會說” Lucky me!” 因為我第一次來福岡就遇上一年一度的煙火秀。黃昏甚至白天時，就可看到有人穿著和服，成群結隊的往大濠公園走，大家都不願錯過此盛會，其盛況就如跨年晚會一般。果然七彩的煙火，爭先恐後的往高空竄，人們的驚嘆聲隨著繽紛的煙火此起彼落。這



福岡・大濠公園煙火

樣的美景持續了一個多小時，如此煙火佳節，是令人畢生難忘的。

音樂的饗宴

8月3日中午，九州台日文化交流會所籌備的台日文化交流音樂會〈音樂的饗宴〉，在西南學院大學的音樂廳舉行。本次音樂會是深思熟慮、精心籌劃的。音樂會的演出者，請來日本年輕女聲樂家有光泰子，還有來自台灣的男高音阮文池；他們都是正規音樂調教出來的聲樂家。有光泰子，鹿兒島國際大學音樂科畢業，專攻聲樂，有非常豐富的演出經驗。因為麗質天生，演唱會頗受好評，前程看好。阮文池，台灣文化大學畢業後赴美深造。回台後有感於台灣本土音樂日漸沒落，因此追隨前輩作曲家郭芝苑先生，一起推動台灣本土藝術，至今20年。另外邀請的是田中孝二，知名的民謠歌手，頗受大眾歡迎。談到音樂會的靈魂人物，那就非木村依加莫屬了！依加是台裔日本人，鹿兒島出生，東京大學音樂科畢業，之後赴西德深造，主修伴奏。因為表現優異，已經有國際音樂比賽多次伴奏經驗。這樣的組合，令人不得不讚嘆主辦單位的深思熟慮，精挑細選。

值得一提的是，此次音樂會要向大家介紹台灣國寶作曲家郭芝苑。郭芝苑先生是台灣百年音樂史上最全方位的作曲家。他曾經赴日深造兩次，回台之後，潛心作曲。他的作品形式多元，題材多樣。台灣知名鋼琴家陳郁秀曾說：「郭芝苑以天籟之聲，用不同的形式，記錄了由小市民至知識份子，由廟口到至音樂殿堂的所有心聲。」本次音樂會，伊加演奏郭芝苑的鋼琴獨奏曲〈東方舞〉；阮文池演唱郭芝苑的五首歌曲：田中央、嬰仔囝、鯽仔魚要娶某、阿嬪的手藝、涼州詞。其中涼州詞歌詞係中國唐詩，旋律優美，古意盎然。



福岡城跡・舞鶴公園內

攝影：王立樞

音樂會由三首義大利文歌曲開場，三首曲子都是慢板。首曲Ombra Mai Fu是歌者在讚嘆一棵老樹，旋律很動人，為音樂會展開感人的氣氛。緊接著郭芝苑的5首歌曲，其中的搖籃曲嬰仔囝，勾起大家的思鄉情懷，歌還沒唱完，台灣同鄉早已淚如雨下。緊跟在後的曲目便是郭芝苑的〈東方舞〉。猶記數年前依加曾到台灣拜會作曲家，當時郭老先生身體還硬朗，很認真的指點依加，並對她誇讚有加。今日的依加琴藝比起當年純熟，東方舞精神抖擻的節奏，透過依加的指尖，彷彿聽到東方版的波卡舞曲！

田中孝二背著吉它走出舞台，聽眾高興極了；老式情歌Green Green Grass of Home不知勾起多少人的少年夢？它陪伴多少鄉親走過青春燦爛的學生時代，在座者的心情也隨即輕快浪漫起來。

依加真是天才美少女！她的身影穿梭整場音樂會，她的角色是鋼琴獨奏、兩位聲樂家的伴奏、樂曲解說。鋼琴家的琴藝自不在話下，主持的功力也令人絕倒。她的聲音清脆悅耳，解說樂曲，娓娓道來，不急不徐。由於她的串場，使得聽眾時而點頭，時而大笑；甚至不懂日文的，也跟著笑起來，內心讚嘆：「那裡蹦出來的小精靈啊！」。或許她與有光是朋友的緣故，下半場的解說更是精彩無比，兩人默契十足，氣氛融洽。年輕女歌唱家演唱歌劇選曲，一開口大家便驚歎不已，我想百老匯的花腔女高音也不過如此吧。日本出現如此的音樂新秀，實在讓我驚喜！歌劇選曲之外，有光少不了選唱幾首日本民謠。因為在座也有很多日本人，民謠旋律一出現，我看到大家臉上會心的微笑，此時無聲勝有聲---

音樂會最動人的部份就是 Encore曲了：三個演唱者合唱3首歌，Edelwise、望春風、及故鄉(日文)。三首歌分別是英文老式情歌、台語老歌、日本民謠三種領域中最具代表性者。尤其最後一首歌，每位演唱者各演唱一次，喚起聽眾共同的記憶及感情，接著大合唱為演唱會劃下休止符，在場聽眾除了感動仍是感動！

身為台灣觀眾，最高興的事莫過於很多聽眾被郭芝苑前輩的曲子感動。有位德國專業鋼琴教授會後特別前來詢問作曲家其人其事；他認為我們的政府應當設法讓作曲家的作品流傳下去，而非隨著作曲家逝世而逐漸被遺忘。

當然，台灣人的聚會少不了食物，在〈頂好茶館〉，本鄉醫師賢伉儷舉行了餐會，餐飲中，恭賀音樂會成功的聲音，不絕於耳！一個如此成功的音

樂饗宴，絕非偶然。認真執著，正是音樂會成功的因素，也是主辦單位魅力的所在。

沉靜浪漫的柳川

我來柳川後，才知道日本詩人北原白秋其人其事。有人說柳川是日本的威尼斯，我卻覺得柳川比威尼斯多幾分沉靜。我們到達柳川時是日正當中，但是，當船夫搖擺的扁舟晃入柳川，進入眼簾的垂楊、老松、烏鴉、矮橋，讓我暫時不理會那豔陽高照！我在簡介上讀到詩人的句子「水鄉柳川就是生我的故鄉 吟誦詩賦的泉源」，當真如此啊！在詩情畫意的地方，心情也如詩如畫了。楊柳隨風搖曳，也只有詩人能描述此景此情「孤藤 老樹 昏鴉 小橋 流水 人家 夕陽西下 斷腸人在天涯」。

令我感動的是，柳川處處可見北原白秋！白秋生家、白秋紀念館、白秋詩碑苑等。就連船夫吟唱的歌謠、河岸旁的童話人物，都是北原白秋的作品。在聽介紹的過程，偶然發現，原來兒時朗朗上口的兒歌「淅瀝淅瀝 嘩啦啦 雨下來啦 我的媽媽拿著雨傘來接我 chi bu chi bu cha bu cha bu la la la la」，竟也是白秋的手筆！感動之餘，想像小朋友看到媽媽手舞足蹈的雀悅，心也跳起舞來！



燦爛的慧星金子美鈴

另一到日本才聽聞的人物是日本童謠詩人金子美鈴。金子美鈴是山口縣仙崎村人。我閱讀的簡介說她的一生，不幸與絕望如影隨形。她的父親早逝，母親改嫁，所以她的童年可說是孤苦無依的。結婚生女之後，又發現遇人不淑；離婚後，女兒監護權被奪，因而心碎自殺身亡，結束26年的生命。留下詩集3冊，從此被世人遺忘。

感人的是，有位童詩研究者偶然讀到她的詩，震

撼之餘，開始追蹤詩人的足跡。經過16年的尋覓，終於找到詩人的親人，於是出版她的詩集，讓這位被世人遺棄了50年的女詩人，成為日本家喻戶曉的人物。

金子美鈴的故居，是她娘家原址復建改造，裡面珍藏她所有的詩作、歌謠及她畢生的經歷。她住的小鎮，格外溫馨、純美、優雅。漫步街頭，只要是詩人經常駐足之處，都會有她的詩句牌坊，照片。聽友人翻譯詩人的詩句，彷彿詩人就在身邊，那麼天真、溫柔、感傷，那麼令人欣慰！



紅薔薇啊紅薔薇

台灣前輩作曲家郭芝苑，在他苗栗苑裡的故居窗前，有一株紅薔薇，他曾經為它譜寫下一首歌＜紅薔薇＞，更在窗前創作多少動聽的旋律。作曲家2013年仙逝，留給我們無限的惋惜。作曲家會埋在一堆黃土中被世人遺忘呢？或是像北原白秋及金子美鈴一般永遠被後人懷念呢？我的心又沉重了起來！

福岡印象

我的福岡旅遊日記就要在此擱筆了。我的福岡假期就是這樣的充實：博多、福岡塔、日式庭園、海邊！我的福岡經驗是這樣的滿足：納豆、拉麵、燒烤、清酒、炸豬排！我的福岡印象是安靜、秩序、禮貌，是先進、文明、繁華！再會了，親愛的朋友！再會吧，福岡！

2014/9/14



2013年9月 九州移地教學心得

台灣文化大學學生



宋柏萱

相隔一年，我以截然不同的心情再次參與九州大學的工作坊，今年主題以即將廢校的小學校為背景，讓臺灣與日本的同學們共同交流想法，這次的團隊合作建立了台日同學的深厚友情，即使工作坊結束大家也很捨不得離開；在忙碌之餘，我們很開心能參與茶道體驗及別府溫泉之旅，非常感謝九州台日交流會讓我們有這個機會認識日本文化之美。



吳宜儒

第二次再到福岡的感覺很奇妙，第一次來是充滿新鮮感，第二次再來則是新鮮加上溫馨，不管是這次的旅程還是在九州大學工作坊的每一天，而對於這次的工作坊感覺又更加得心應手，和日本學生的互動也更多，甚至連回到台灣後都還會保持聯絡，這12天的福岡之旅實在是很難忘，希望明年後年甚至以後都還有機會再回到福岡。

廖婉琳

這次很開心可以參加日本福岡的工作坊，在設計上，經過和日本當地的同學交流後，得到了很多不同的想法及思考模式，及團隊之間的合作。即使語言上沒辦法有完善的溝通，運用了各種方式突破語言上的障礙及困難，這是在台灣無法體會到的經驗，也包括適應新環境，不同的文化、生活習性...等。很開心能認識日本朋友，他們的熱情、友善，讓我們留下很深刻印象，創造很多很棒的回憶；感謝台日交流會的長輩們提供我們住宿還有課程之外的行程，讓我們這趟旅程更加踏實、豐富。



陳楚雲

和台灣相比，日本真的很不一樣，不一樣的街道、景致；甚至於設計也和平常腦袋裡的邏輯也很不一樣。很謝謝這次設計中老師給的意見與想法還有同組同學一同完成整個設計，就連熬夜趕圖也很過癮。我會把在日本所學的帶回台灣，也會牢牢記得這次移地教學的美好經驗。





謝謝台日交流協會的大哥們熱情的協助我們，也感謝與我們一起參與工作坊的日本朋友們友善的款待，讓我們要回國時都依依不捨，這次的交流活動實在非常充實有趣。

葉宗翔

在這次去日本的過程中讓我學到了許多，特別是與不同國籍、語言、生活習慣的人一起做設計，那更是一大難題，然而在經過一小段時間的磨合與大家共同努力之下還是得到了一個不錯的成果，也讓我交到了很多來自日本新朋友，這讓我覺得有參加這次的工作營真是太棒了！

吳貞樺

汪仁鈞
今年暑假參加了日本九州大學的工作坊，在國外跟當地學生合作是一個很特別的經驗。由於系所不同所以思考的邏輯也不一樣，本以為只要慢慢溝通就能解決，但卻發現語言是一大難關，大家只好努力的跨越語言障礙，比手畫腳地傳達自己的意思，而最後當然也圓滿完成的規劃設計。工作坊能培養的除了自己的設計能力，更重要的就是與能溝通的能力。



今年重遊日本九州，是重拾書本的我。因為身份的不同，也讓本次前往的眼觀不相同。今年我在九州看到現代與歷史的融合，讓新舊建築交織出每一個美麗的據點，就像自身應保有最原始的自己，但也必須積極進取學習。



蕭璋婷

再次參加工作坊，感覺跟去年大不相同。沒像去年這麼緊繃，也因授課方式不同，結交了不少朋友，謝謝日本朋友熱情的帶我們感受日本青年的飲食文化及生活樂趣，有了更深一層的認識與接觸。感謝學長提供了優良的住宿環境還帶我們遊山玩水～期待下次的相遇！

陳家豪

有幸能參加本次九大主辦的國際工作坊，讓我有機會到日本走走看看，並且與當地學生交流互動。



林子婷
雖然這一次參加日本九州工作坊並不是第一次出國，卻格外的興奮，不僅可以真正的跟不同國家的學生一起用拼拼湊湊的英文及比手畫腳溝通，還能跟他們達成共識一起完成一個設計簡報，雖然做設計的過程有免不了的辛苦，但全部人一起嬉鬧一起熬夜趕設計的感覺就是不一樣！甚至在非上課的期間，老師也安排行程讓我們去感受九州的街道、溫泉、食物…等等，12天轉眼間就過去，真的很珍惜這幾天在九州的生活。

游惇理

這次來到日本讓我收穫很多，是我第一次出國，不只是體驗到了不同的民俗風情外，也見識到不同的學習環境，有許多是在台灣不會感受到的，非常

十二天的時間裡，融合不同的設計背景與手法，在互相學習中摩擦出了新想法，這些都是寶貴的經驗。日本學生帶我們體驗了當地的文化、喝酒、自己動手做大阪燒、卡拉OK以及廟會慶典。感謝台日交流學會和羅學長所提供的住宿及協助，使這次活動更加順利及成功。

詹佳穎

這是我人生中第一次出國，初次來到日本這個國家讓我感覺到原來大家所說的日本就是這樣！工作坊期間我們與九大學生合作，利用景觀專業，與九大學生之建築構造專業跟我們做合，在合作過程中互相交流，並建立了革命情誼。在工作坊以外，老師帶大家到知名景點，以及體驗茶道；當地學生也帶我們欣賞當地廟會的煙火節及放生會，這兩個禮拜讓我對日本有深厚感情，是個美好難忘的回憶。



也要特別謝謝老師以及九州台日交流會的長輩們給我們這樣的機會與住宿空間，讓我們在日本交流的過程中很安心順利的度過。



台灣的大孩子們

本鄉啓成

郭維倫老師以前在福岡留學時，我們與他、還有當時的留學生們有很多互動。從他那兒，我們也學習到一些有關都市景觀、建築等等的想法與概念。同時也經常討論到台灣的都市計畫、文化、政治等等課題、無所不談。當時還有久留米大學法學教授張國興老師、羅世雄大哥。

他決定回去台灣的意念、自有他的理想。我們雖覺身辺無伴、却也感覺欣慰。臨行前的談話、彼此都有默契、希望有機會能帶台灣的大學生們來福岡見學、體驗日本文化與開拓視野。

這幾年、因為郭維倫老師的關係、我們與台灣的大孩子們有了幾次美好的一期一会。

這些活動的背後、有羅世雄大哥提供住宿、交通。有建築學教授片野博・明子教授夫婦的建築文化財導覽。有志村宗恭老師的日本茶道體驗學習。有末松大吉先生的交通提供與導覽。感謝這些長輩與友人們的關愛。

期待台灣的大孩子們能成長得更抬頭挺胸、以作為一個台灣人為榮。

2014年4月春假日本行心得

台灣文化大學學生

吳品萱

茶道奠定有禮及整齊的日本，不僅在德山學長的家中感受到，就連整個環境在視覺、觸覺及聽覺皆獲得舒適及釋放，是個值得讓人學習和效法的國家。

張智宇

住在處處都是驚奇的日式宅第、體會茶道培養日本人處事謹慎的態度。日本人的精神充斥在這座城市中，讓本次旅程受益良多!!

許靖瑜

第一次坐飛機既興奮又期待，這次的旅行也讓我有一個難忘的回憶。日本處處都是驚喜，街邊整潔的道路、井然有序的房子，每個角落都讓我感到驚喜。

林育誼

日本氣候很棒很喜歡，街道也好乾淨，小巷也都很简单美麗，很多地方都很有感覺，而且街上很安靜，可以不受干擾慢慢欣賞！

黃彥愷

從未見過充斥在大街小巷盛開的吉野櫻，令人感到美不勝收!福岡讓我體驗到不同於臺灣的文化，見識到日本面對每個環節的設計。每個微小的地方都讓我們體會到趣味與新奇。

陳妍彤

真正的體驗過才發現，茶道是要全心全意投入精神方能泡出好喝的茶。很感謝茶道老師的教導，也很希望能再次前往櫻花季時的日本～ありがとうございました!

馬宇哲

很開心這次的旅行，充滿歡笑與回憶的一段旅程。

藍可筑

感謝德山學長供應住宿的研究室，並且也感謝本鄉先生讓我學習到茶道是需要如此的嚴謹態度。

陳鈺安

福岡清新的空氣使我暫時忘了臺北的塵囂。綻放整個城市的櫻花讓我每一次眨眼都在心裡印上張張美麗的相片。我們用最大的精神及毅力體驗日本的茶道文化。

李恩宇

一群吵雜的臺灣人亂入寧靜的福岡！感受到日本的禮貌與乾淨！最喜歡溫暖的宿舍，住起來超舒服！茶道真的需要全神貫注、小心謹慎，但學會了一些禮儀後突然覺得很有成就感！

蘇雅子

台湾から福岡まで遠くないですね♪福岡の生活環境が気持ちよく、景色がきれいです。やっと日本の桜が見える、白いの花びら本当に好き。初めて茶道体験、一期一会の意味を感じる。いま、友達と時間をもっと大切にします。

この楽しく旅行、心のハービーメモリ増やしている。じゃ、福岡まだね♪

台灣到福岡不遠呢 福岡的生活環境很舒適 景色很美 終於看見日本的櫻花 真的很喜歡白色的花瓣 第一次的茶道體驗 感受到一期一會的意義 現在很珍惜跟朋友間的時間 這趟愉快的旅行 為心裡增加了快樂的回憶 福岡我會再去的

Kakuさんと貞樺さん、本当にありがとう、お疲れ様でした♪

孫珮禎

本次日本之旅最令人印象深刻就是茶道體驗，在親身體驗後才了解茶道其實是個修身養性的活動，了解日本人對大自然的敬意是如此深厚。感謝本鄉先生、羅學長的帶領及照顧，讓我看到日本更深層的一面。

林富揚

福岡的種種，讓人無法忘懷，雖然只有一海之隔，體驗到的是滿滿的文化，茶道第一次接觸，體會到茶道精神以及強烈的專注力，這次的福岡行讓我受益良多。

許瓊文

第一次，走在花瓣堆積像雪的櫻花樹下、大家共享小房間裡樂趣、體驗另人腳抽筋茶道。這是屬於我的一期一會，也感謝老師、羅大哥及本鄉先生的帶領與照顧，讓此趟旅行成為我獨特的經驗！



林承毅

前往日本無數次，第一次與好朋友住在德山學長所安排的日式住宅。感謝本鄉先生讓大家有體驗日本正宗茶道文化的機會，並訓練我的定力與耐力，期望有機會能夠再次體驗日本的傳統文化。

庄乔林

晨間，被灑進房內的陽光叫醒，映入眼簾是盛開的櫻花，是我對宿舍的美好記憶。第一次日本之旅，像是體驗茶道“一期一會”的相遇。除了旅行也教會我珍惜與大家相處的每一天、每一秒。

溫心

第一次前往富有櫻花之國的日本，福岡成為第一個攻占的目標。住在德川學長家安排的既舒服又溫馨的家，更難得體驗到日本茶道的精神，給了我從來沒有過的體驗。

黃偲瑜

看到像畫一樣沿街隨風飄的櫻花，茶道體驗訓練我們的耐心與專注力，感謝德山學長讓我們住在舒服的日式房子！

呂咸亨

印象最深刻的是茶道的體驗，第一次跪坐更能享受專注於一件事情的體驗，能與櫻花一起完成旅行感覺十分美好。

胡奕涵

櫻雪紛飛的街道，像走在夢境之中，單純的散步都能感覺整個城市的幸福。也許我們走的路途太匆忙，不能好好體會福岡在地人的生活，我想再一次好好漫步在這座城市之中。

林仲薪

福岡不同於日本其他地方，多了一種寧靜的美感。從踏入福岡映入眼簾的盡是隨風飄逸的櫻花，茶道體驗也是人生的第一次，茶道精神真的值得我們敬佩！

張凱勝

旅行，重要的不是去過什麼地方，而是和你一起旅行的人。這是上大學以來最值得的回憶之一。日本有許多令人印象深刻的不管是景色、文化，這些都是我這次去日本的收穫。(茶道真是個累人的活動...)

蔡宜臻

走在路上看見如明信片一樣美的櫻花隨風飄落，每一幕都深深印在我的心上。茶道讓我學會每件事都要抱持著珍惜感恩的心，就如同一期一會的回憶很開心也很美。

鄭卉岑

茶道是一股全神貫注的心力，而在日本的环境就能看到此文化精神。小細節十分著墨、對言語溝通十分細膩，生活片刻充滿禮貌與清淨。

吳貞樺

不同的季節、不同的遊者與不同的感動，帶著同樣探險的心到福岡。

王文璇

住的工作室真的相當舒服，茶道真的是一個需要投入所有精神的一個文化，這次的體驗我深深敬佩不已，整趟旅程充滿了許多美好的回憶!



カルチャーショック

歡喜合唱団ピアノ伴奏 菊池啓子

ショック① 楽譜

台湾から「銀髮族」の皆様をお迎えしての交流会でのこと。

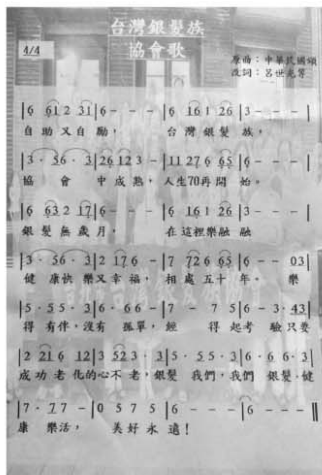
これを歌いますから一と渡された3曲の楽譜を見てビックリ!!「これですか?これはなに?歌の楽譜だけなの?どういうこと?ピアノ譜は?」と頭の中を疑問符が駆け巡り、恐る恐る質問をしてみることに。

「えっと…これ…伴奏譜あるんですか?」
「これが伴奏譜よ。」
「……」
「え?!もしかして読めない??」
「……読めない……」

こういう楽譜があり、「1234567=ドレミファソラシ」ということぐらい知ってはいたものの、恥ずかしながらそれ以上のことは全くわからないし、もちろん実践経験は無し。その程度の知識でこれを見ながら全く知らない曲にすぐに伴奏をつけるなんてムリムリ!!出来ない――!!と、非常事態に大慌てです。

そこへ歡喜合唱団指揮の吉川先生が、「大丈夫大丈夫。この曲は日本の曲だから知ってるよ。」と弾いてくれた1曲が「ここに幸あり(幸福在這裡)」とこれが…

「……知らない……」
「え?知らないのー?!」
「なんとなくしか知らないです……」



「ここに幸あり」は昭和31年に流行ったそうです。すみません、生まれていません。でもなんで私が知らないのに台湾の方が知ってるのーと笑ってきます。もう1曲は「祝你幸福」という台湾の歌。逆にこれは知っていました! 以前、吉川先

生が歌って伴奏をしたことがあったから。なんだか、このあべこべな知識に我ながら可笑しくなってきました。

それからもう1曲は「台湾銀髮族協會歌」という銀髮族のテーマソングのような曲。これは全く知らない曲でしたが、吉川先生にメロディーを何回か弾いてもらって確認しました。

本番は吉川先生に助けてもらいながら、何とか無事に伴奏をつけて演奏することが出来ました。おたまじやくしの楽譜だったら、目を閉じたままでも弾けそうな簡単な曲なのにー。

その後、この暗号のような楽譜をゆっくり解読してみました。とてもよく出来ていると感心いたしました。音楽家の友人たちにこの楽譜を見せると、みんな「なにこれ?どうやって読むの?全然わからない」と言い驚いていました。

確かに5線譜よりはこれの方が解りやすいのかな。でも複雑な曲になると限界があるのかな。いつか色々な謎を聞いてみたいです。

ショック② ブラックサンダー

台湾では今「ブラックサンダー」が大ブレイク中だそうです。日本の約3倍のお値段で販売されていて、どこも売り切れで買えないそうです。

きっかけは、プロ野球日本ハムの台湾出身の陽選手が日本の好きな食べ物を知り、ブラックサンダーが美味しいよと言ったからとか?!

日本に来る台湾からの旅行者は箱買い、ケース買いをし、ガイドさんには「ブラックサンダーが売っているところに連れて行って!」とおっしゃるそうです。

そういうわけで先日「銀髮族」との交流会の際、歡喜合唱団が「ブラックサンダー」をお皿に山盛りに用意なさっておられました。それを見つけた銀髮族の皆様方…優雅な装いの素敵なマダム達が我先にと驚愕みにして袋詰め。一瞬にしてお皿が空っぽのまさかの光景。

噂は本当だったんだ…

そんな私は、「ブラックサンダー」を食べたことがありませんでした。が、その人気ぶりを聞いて気になり、すぐにコンビニで1個購入。人気の理由がわかった気がします。安くて美味しい!



文化振撼

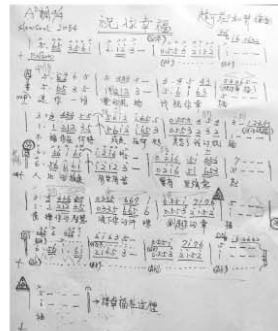
歡喜合唱団鋼琴伴奏 菊池啓子 翻譯:阿碧

振撼① 楽譜

これは発生在迎接台湾「銀髮族」の交流会上の事情。

為了伴奏、銀髮族將樂譜交到我的手上、說他們要唱這3首歌。不看還好、一看樂譜真是嚇了一大跳!!「這個?這個是什麼?這只是歌的樂譜嗎?鋼琴譜呢?」腦中一團又一團的疑問、也只好小心翼翼地問問看。

「請問…這是…有沒有伴奏譜?」
「這就是伴奏譜啊。」
「……」
「怎麼?!也許會看不懂?」
「……看不懂……」



是這樣的樂譜、「1234567=DoReMiFaSoRaSi」這樣的常識是知道的、超過這個範圍、很不好意思、我可就完全不知道了、更不用說實際經驗了。光靠這一丁点的常識、看這樣的樂譜要馬上伴奏完全不知道的曲子、不可能啊不可能啊!!不行――!!超常事態可把我搞慌乱了。

這時、歡喜合唱団の指揮吉川老師彈了一下說:「沒問題沒問題。這曲子是日本的曲子、知道呀。」原来是「ここに幸あり(幸福在這裡)」。但是

「……不知道……」
「什麼?不知道一?!」
「只知道大概也許是這樣……」

「ここに幸あり」聽說是昭和31年流行的曲子。对不起、那時候我還沒出生呢。但是為什麼我不知道的曲子、而台灣人却知道呢-想到這兒不覺莞爾一笑。

還有一首台灣的曲子「祝你幸福」。反而這一首我知道。以前、吉川老師唱過、我替她伴奏的。想到這些自異文化知識的種種、越覺滑稽好笑。

還有一首「台灣銀髮族協會歌」。這首就完全不曉得了。請吉川老師彈幾次旋律、確認無誤。

交流時間、遷托吉川老師的相助、好不容易加上伴奏、才讓大家的演唱能圓滿表現。若是一般蝌蚪樂譜的話、閉著眼睛都可彈的簡單曲子、竟要如此大費周章。

那以後、我慢慢地解讀這些如暗號般的樂譜。真的是很神妙、感心。我把這些樂譜拿給音樂家的朋友看、大家都吃驚地說:「這是什麼?怎麼讀?完全看不懂」。

這簡譜的確比五線譜好讀。但是遇到複雜的曲子、就有了它的極限吧。看什麼時候有機會倒想請教這些謎底。

振撼② 雷神

台灣現在對「雷神」好像大瘋狂。價錢是日本的3倍、而且還買不到。

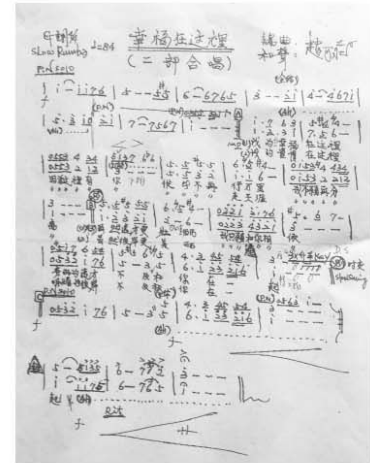
原因是有人問職業棒球日本火腿隊、台灣出身的陽選手、問他最喜歡吃日本的什麼東西、聽說陽選手說了一句「雷神好吃喇」、就這樣瘋狂起來了。

從台灣来日本的觀光客、都是一箱一箱的買、還聽說要求導遊带大家去壳雷神的店舖。

因為這樣、與「銀髮族」交流的時候、歡喜合唱団買了一大堆的雷神、堆在大盤子上請銀髮族的客人們吃。當銀髮族的客人們看到桌上擺的雷神時…一話不說、穿著優雅的貴婦人們瞬時爭先恐後地抓起雷神往袋子裏裝。一瞬間、盤子全空了。

「伝説」果然是真的…

我沒吃過雷神。但看到雷神這麼有人氣、倒想吃吃看。馬上去便利商店買一個雷神來吃。我也終於了解雷神這麼受歡迎的理由。的確便宜好吃!



来到日本福岡市已經第四次了。一次比一次熟識、一次比一次規模更大。顯見這團隊努力的成果。

本鄉醫師夫婦的努力、吳家銓醫師、高峰季薰醫師熱々の經營這塊園地（草根文化園區）。

今年的話題轉到易經的淺論。多數人一直以為易經是很艱難入門的道問學、其實不然。由字義來看、

易是簡易、簡單、才稱「易」。被詮釋成艱澀難懂是解易者的誤導。換言之、易是簡知易行、令人易親近而有事功的大學問。發揮良心的機能、良心便是良知、良能。良知即不慮而知。良能即不學而能。不慮、不學即是原本擁有的「真知特識」。



易是無字天書、古來伏羲氏一劃開天、沒有文字、符號。由結繩文字、帶領子民、學生活、造器具、改善生活品質、提昇人類演化的契機。

形而上謂之道、形而下謂之器、言語道斷、盡在不言中、更何況書不能盡言、言不能盡意、故聖人有憂讒畏譏之憾。故傳承文化慧命都依「只能會意、

何国棟老師與易經

本鄉みどり

2011年5月8日與2012年4月7日、托吳家銓醫師的福、我們有緣請何国棟老師來福岡、以東洋醫學的觀點、為大家作養生保健的演講。並為大家提供健康諮詢等服務。有人問飲食養生、有人問食補、有人要把握脈、有人要漢方、還有人要算命、看風水…內容五花八門、離不開生活與生命。

何老師來者不拒、望聞問切殷殷以對。相信大家對何老師東洋醫學的學養造詣、精闢的演講以及精確的脈診指南等、都留有深刻的印象。

何老師精通命理命名、風水地理、鍼灸漢方、醫食藥理、天文物理、漢學哲理…引經據典、出口成章。事實上、何老師造詣最深的學養在「易經」。而東洋醫學的攝理源頭在易經。

易經裏的(1)五行、天干、地支(2)太極與八卦(3)象、數、理、占(4)八卦與二十四節氣(5)周易六十四卦等哲理包羅萬象、貫穿了中華古代所有的文化、古代的曆法、古代的建築理論、美術藝術、武術兵法、漢方理論、學術思想、八卦理論被应用到各個領域中、堪稱中華文化的源頭活水、智慧的結晶。

不可言傳。」的方式進行。加上古代未有紙筆、只用竹片製冊簡、記載困難、故推廣上產生了障礙、才應用言簡意賅的「文言文」。不料、又造成交流的死角。因此、易經被謂為絕學。當然不僅是如此、雖是我國古文化道統源泉、歷經多朝的破壞。漢朝的賈誼、王莽、漢學易家、重師門禁錮、「見意掃象」、成了具體的毀壞。

有宋、雖理學大放光芒、由於重道之實踐、及形上之學、摒棄佛、道混雜、雖是易經發展成璀璨的大時代、却有漢、宋門戶藩籬之見。一繩繫兩鳥、雖四翼而不能飛。雪上加霜、更成絕學之最。

今人學易、文白相雜、語體難通、普羅大眾對易之隔閡更大。故推廣上更加艱難。

吾等有心、明知不可為、勉而為之、只求拋磚引玉、遍尋有緣、也不忝師長之殷望、也祈是事万国九洲永現光華。

寫於福岡本鄉宅 2014年1月19日



2014年1月19日、托吳家銓醫師的福、我們有緣再度請何国棟老師來福岡、以「從易經到養生」為題、為大家作一場對易經開宗明義的演講會。為大家在心、靈的修身養性上、開啓又一扇通往「宇宙在手、萬法由心」美好世界的門扉。

尚未有文字的上古時代、伏羲氏一劃開天、畫出八卦、創立了六十四卦的曆法、以觀察天象、俯察地理、作為人們行事作息、占卜吉凶的準則與規矩。何老師拳伏羲氏始創易學源頭的歷史、告訴大家「易」其來不艱深、是活在生活裏的一種規律與指針。

何老師以簡易·變易·不易的三原則、告訴大家宇宙萬事萬物隨時在變化、變化的法則又極錯綜複雜、但不管怎麼變化、却有個不變的本體存在。這些變與不變的規律簡知易行、存在我們每天的日常生活裏。

何老師學易經裏的八卦、簡單向大家說明「易有太極、是生兩儀、兩儀生四象、四象生八卦」的道理。太極為初為一、可以化成萬物、二分天地、乾坤、陰陽…萬事萬物在陰陽兩種相反相成的力量作用下、不斷運動、變化、生成、更新。春生、夏長、秋收、冬藏、萬物循環自

有其規律。

何老師推而向大家說明五行裏金木水火土互相生剋的道理。五行的觀念应用在哲学、中医、養生和占卜等方面。五行學說認為宇宙萬物、都由木、火、土、金、水五種基本物質的運行與變化所構成。宇宙間各種事物和現象的發展都是這五種物質運動與交互作用的結果。金克木、木克土、土克水、水克火、火克金。金生水、水生木、木生火、火生土、土生金。

演講會後半場、讓大家自由發問。興起大家对易學裏卜卦的興趣。大家紛紛請何老師為自己或家人作命理推算、指点人生迷津。

兩個小時的演講會、一下子就過去了。大家心裏還有很多疑問想問、還想替自己的家人、孩子看看命理、看看未來的方向、也想知道台灣的命運何去何從…我們期待何老師能很快的再回來福岡。

感想文：易經入門

麻生外語觀光&製菓專門學校 李幸慈



在講易經演講感想之前，我要先說我並沒有研究過易經甚至也沒看過易經。

對一般人來說，也許等同於「占卜」

「算命」，一開始我也這樣以為，但是，聽完演講後，與其說是「對於未知事物」的「占卜」，不如說

「是故君子居則觀其象而玩其辭、動則觀其變而玩其占。」於是我們也開始有了「易經讀書會」的企圖。歡迎您也來加入我們的讀書會。讀書會一個月兩次、星期五的晚上8時~10時。4月開始、已經過8回。目前的研修內容是易經的基礎知識。

會 何国棟



是讓我們了解已經固有存在的「天命」。「天命」簡單理解的話可以當作「命運」，但是，比起「命運」我認為應該是說天地萬物的運行皆有其運行道理及規律。

如孔子所言「知天命，畏天命，順天命」，在宇宙決定論的價值觀念中作出正確的人生選擇，就是認識到「命由天作」，但「福由自己求」的可能性。而易經就是讓我們能更認識「天命」，順應天命不逆行，在許多的可能性當中，尋找最適合自己的「天命」，並在許多「天命」中，尋求自身各自的福祉，即如《詩經》所言「永言配命，自求多福」。

講演「從易經談養生」の感想

九州大学 羅允謙

日時：平成26年1月19日（日曜）午前

会場：文化センター高取（福岡市早良区）

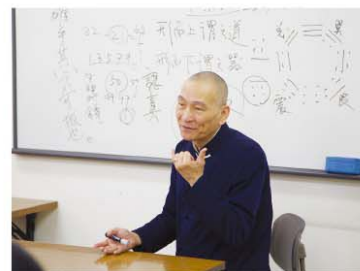
主催：九州台日文化交流會

講師：何国棟 先生

講題：「從易經談養生」

五經之首——易經，為何能使孔子韋編三絕？如何以陰陽交替描述世間萬物？透過這次的演講，我對易經有了初步的認識。從「一」說起，何国棟講師帶我們從易經了解祖先們的智慧；未料想連我們熟知的現代科學技術，古人早已參透一二！養生與占卜和易經中的「卦」之間微妙的關係更讓我不禁嘖嘖稱奇。相信經過何国棟講師的解說，必定引起不少聽眾們對易經的興趣，而我自己也在會後做了一些功課。地山謙〔 〕，「謙：亨，君子有終」

謙謙君子，用涉大川」。原來我的名字和易經也有這麼一層關係呢！很榮幸可以參與這樣有深度的演講，最後以易經中「乾〔 〕」的字解「天行健，君子以自強不息」與未能參加台灣留學生們共勉！



飯碗裡的環境保育

九州大學 吳腹宇

一個故事，帶你看見台灣

「富味鄉陳姓常務董事說，他們從澳洲進口粗棉籽油後進行處理，去除棉酚後製成食用油外銷到海外。業者透露，大統長基的食用油都以低價方式搶占市場，要跟大統長基在價格上競爭並不容易。」（2013.10.21 Etoday）

「衛生局前天下午前往「胖達人」敦南店稽查，在廚房內秤料區與乾貨區發現龍眼、楓糖、巧克力、荔枝、伯爵紅茶醬、紅酒酒醬、檸檬優格醬、藍莓、覆盆莓等十五種人工香料，師傅也坦承用於製作不同口味麵包。」（2013.08.24 聯合新聞網）

塑化劑飲料、胖達人香精麵包、添加色素橄欖油等食安風暴後，台灣人從一開始的驚慌失措，到開始全面檢視食物的成份表。一步一步慢慢從「俗又大碗」「C/P值高（註1）」的迷思中慢慢醒來，開始重視食品的添加物問題。但是大多數的民眾，對食品安全還是停留在加工階段，沒有辦法與作物所生長的土地做連結。事實上，食材從農田畜舍到你的餐桌，中間經過層層步驟，若希望吃下肚的東西沒有問題，就必須要從產地開始把關。

從吉園圃開始到逐漸風行的有機農業，部份通路也建立了產銷履歷制度，但消費者仍然是將監督的責任跟交給生產方。「我信任這個廠牌，他們生產的東西我一定放心，這樣就夠了。」大部分的人是這樣想的。

身土不二

土地滋養萬物，人也無法脫離土地，正如母體以臍帶和胎兒相連一般。如果無法將口裡的食物與環境做連結，不瞭解台灣這塊土地上發生什麼事情，消費者就無法發揮自己的力量去改變整個農畜業的困境。於是，一些年青人開始走進鄉村、走進現場，寫出一個又一個的故事。這些故事，就是人與大地之母的臍帶。一場溫柔的革命，透過網路跟媒體，悄悄的在餐桌跟產地間發生。

不能沒有你

「台大昆蟲系教授楊思誠表示，類尼古丁殺蟲劑益達胺農藥，會使工蜂在中毒後無力飛回蜂巢，幼蜂在遭受10ppb低劑量的污染後會「變笨」，羽化「成蜂」時，不會採蜜、也不記得回家的路，導致蜂群崩解，可能就是蜜蜂大量消失的原因。」（2014.4.15 自由時報）

「雲豹滅絕後，石虎成為台灣僅存的原生貓科動物，族群現存數量約五百隻，六成分布在苗栗，又以後龍、苑裡、通霄和卓蘭等鄉鎮出現最頻繁，偏偏苗栗縣正推動的三大開發案，包括三義台十三線外環道、後龍鎮殯葬區及裕隆公司二廠擴建案，都位於石虎密集區。」（2014.4.17 蘋果日報）

「屏科大野保所獲屏東縣政府補助，調查黑鳶中毒原因，林惠珊表示，開始第一天，研究人員就在一片18公頃的紅豆田中，發現1800隻各種鳥類的屍體，包括有麻雀、紅鳩、珠頸斑鳩、小雲雀和斑文鳥等，意外的是，隔天就看到黑鳶把這些中毒死亡的紅鳩屍體叼走，之後紅豆田果然出現黑鳶屍體，懷疑牠們都是因吃了含農藥的小型鳥類而中毒身亡」（2013.11.12 ETTODAY）

從蜜蜂、黑鳶、石虎等野生動物受到農藥影響大量消失開始，接著是無數的農地被徵收、用水泥填平蓋工業區或是長出一棟一棟的農舍。關心台灣土地的年輕人開始思考，除了傳統的有機農業之外，有什麼方法可以喚起社會大眾的環境保護意識，又可以讓野生動物在這塊土地上安心生活、繁衍後代？雖然外國早有「Frog friendly coffee」或是「Bird friendly coffee」等環境友善產品。但是台灣多山河川，農業規模以小農為主；歐美的生態以及農業規模與台灣完全不同，所以只能跟風土氣候近似的日本取經。

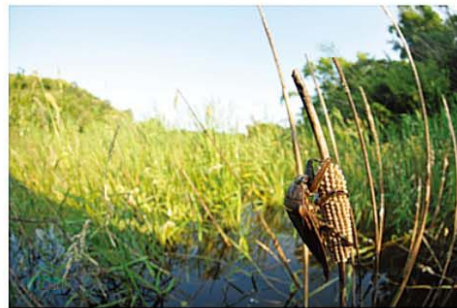
大約在80年代後期，日本開始出現「里山保全運動」。所謂的里山（さとやま），指著就是人類居住活動範圍附近的小山。尤其是與水田、農村聚落相連的小山所形成的里山里地，更是生物多樣性相當高的地區。舉凡青蛙、蜥蜴、蛇水生昆蟲，甚至小型哺乳動物跟大型鳥類都可以在這裡愉快的生活。因此里山里地的保育概念與過去保護原始棲地不同，適度的人為干擾，以及對環境友善的自然農法，反而可以使各種生物在這裡永續生存。日本的珍稀鳥朱鷺（トウ）就是一個很好的例子。過去新潟佐渡的農民認為在水田活動的朱鷺是理應驅除的害鳥，加上大量水田休耕、被樹木取代後，朱鷺失去覓食的區域，因此日本的朱鷺野外族群在2003年完全滅絕。因此，日本開始進行人工個體繁殖以後，便積極的輔導當地人民以自然農法恢復水田風貌，接著推出以朱鷺為品牌名的朱鷺米（トウ米，註2），其收益有部份為朱鷺保育基金。結果發現，朱鷺米除了讓朱鷺族群在佐渡緩緩增加外，也帶給農民更高的收益，更讓許多民眾自發性的關心朱鷺的棲地與保育。

台灣農業面臨的困境與日本相同，農村勞動人口不足，農地大量休耕廢置造成糧食自給率快速下降；物種保育以及人為開發的衝突隨處可見。這樣三贏的作法，能不能在台灣實施呢？

谷津田、田鰲伯與他的孩子們

2012年五月，觀察家生態顧問公司因為國道監測計畫而在通霄附近調查，結果在路邊水谷地水田旁的埤塘內發現了像小玉米一樣的不尋常卵塊，以及前來護卵的田鰲爸爸，才確認這些卵塊的主人，正是在野外消失蹤影已久的印度大田鰲（タイワンタガメ、Lethocerus indicus）。

印度大田鰲分佈很廣，從日本沖繩、台灣到東南亞都有他們的身影。在某些地區，大田鰲是重要的蛋白質來源，傳統市場往往可以見到油炸的大田鰲成蟲，像鹽酥雞一樣灑上胡椒粉等調味料直接吃，或是醃漬起來作為配菜。大田鰲是對環境要求很高的生物，主要生活在乾淨的淺水區域，並且把卵產在高處的草枝上。因此，在谷地中或山坡上的水田，或是旁邊用以灌溉、蓄水的乾淨小埤塘，是他們最喜歡的生活環境之一。然而由於農藥過度使用以及水田休耕變成旱田的原故，大田鰲一度在野外絕跡。這次在通霄除了發現大田鰲成蟲外，卵塊也順利孵化，是非常珍貴的紀錄。



護卵中的雄田鰲（觀察家顧問公司提供）



醃漬的大田鰲。
（科博館詹美鈴研究員、交大賴郁雯教授提供）

要怎麼保護大田鰲，增加大眾對這塊環境重視的動機，還可以同時保證稻田主人的收益呢？或許可以沿著朱鷺米模式，推出田鰲米試試看吧！拜社交網站及部落格的發達，關心田鰲的夥伴們架設了部落格「田鰲、埤塘、谷津田（註3）」，嘗試記錄人稱田鰲阿伯的劉定峯一家人，長期用心對待這塊田間的點點滴滴，希望能將其對待環境的善意與成果推展出去，讓更多人能夠看見、了解田鰲阿伯長期以來維護這塊谷津田的成果。除了人稱田鰲阿伯家族、周邊的大小生物們以外。由慣行農法轉作自然農法的經驗談，甚至是認養田鰲米「穀東」們的農家體驗，都寫在部落格中與大家分享。於是，遠在苗栗的大田鰲聽起來就沒有那麼遙遠了，田鰲阿伯一家彷彿就像老鄰居一樣親切。靠著故事的連結，大田鰲米的銷售相當成功，鼓舞了大家的志氣。

嗨，歡迎回來，田董

蘭陽平原的稻米一年一穫，夏季稻米收割後，水田就成了來台度秋冬候鳥的天堂。暱稱「琵琶暴君」的台師大研究生林哲安對於賞鳥非常狂熱，在候鳥紛紛飛到宜蘭度冬的日子裡，蘭陽平原上很容易看到他的身影。一年，他竟然在新南的水田中，發現到稀有又害羞的夢幻秧雞科鳥類董雞！董雞（Gallicrex cinerea）在台灣屬於夏候鳥或是留鳥（註4），叫聲為「咚、咚、咚」，故老一輩的農民稱呼他為「田董」。近年由於水田數量銳減，加上環境污染以及農藥肥料使用過度，董雞越來越罕見。只要哪個地區發現董雞的身影，就會吸引無數愛鳥人士前去拍照觀察。

原來，新南不是只有許許多多的候鳥，連罕見的董雞都在這裡有穩定的數量。愛鳥成痴的林哲安更加三天兩頭往新南跑，只為了記錄董雞的身影和行為。為了董雞，林哲安希望能夠保住足夠的水田，並且採用自然農法。除了保護珍貴的水鳥棲地以外，也能守護新南地區的稻作及農業。這樣的想法與新南休閒園區的官老爺以及阿農伯一拍即合，新南田董米就此產生。田董米的作法很簡單，除了先嘗試低農藥低化肥的農法以外，在一期稻作收割時只收割上半部，原本的稻株的根系葉子留著做再生稻，



董雞。左為繁殖羽，右非繁殖羽（林哲安提供）

製造出秧雞科、鷸科鳥類所喜歡的隱密環境。秋冬之際再生稻部份收割作為家畜家禽的飼料，並且將田地充分放水，使遠道而來的候鳥可以在此棲息度冬。



田董米（林哲安提供）

與田鰲米不同，田董米的栽培面積為2.3甲，第一年的產量也高達兩萬斤。靠著預購以及社交網路的轉發，初試啼聲的田董米在預購上就取得了好成績。如果想要保護更多的水鳥棲地，勢必增加栽培面積以及產量。但除銷售端外，長期以來當地農民與糧商之間的關係也造成來年田董米增產的困難。過去，新南的農民收割後會將米交給糧商統一收購，自己並不留米、碾米及包裝出售，所以也不有儲米的大穀倉。以至於收割烘乾後，找不到夠大的場所可以長期儲存，包裝機器的速度也不夠快，一但遇上大量訂購小包裝米時，會有出貨速度較慢的問題。此外，在談批發通路的過程中，傳統雜糧行對於環境友善農作的認識不深，對於相對高價的田董米購買意願偏低。

「第一年沒有問題，但是明年該怎麼辦？目前沒有多餘的資本蓋倉庫及買機器，也找不到幾個願意大量批發的通路，但是我還是要繼續努力，留住更多美好的農地和水鳥。」林哲安自信滿滿的說。

鷹、紅豆與自然

除了田鰲米、田董米以外，還有「一期稻米一期菱」，留住菱角讓水雉繁殖的里仁菱鄉米，台大城



石虎（觀察家顧問公司提供）



黑鳶（Un Taiwan提供）

鄉所與坪林茶農推出的「藍鵲茶」，石虎研究員陳美汀等人所推動的苗栗通霄「石虎米」，台江國家公園台南大學聯手推出黑面琵鷺友善漁場的「黑琵牌虱目魚罐頭」。這些環境友善農漁產品在深耕多年後終於慢慢開花。相較之下，「黑鳶牌紅豆」仍在努力當中。

黑鳶（*Milvus migrans*）俗稱老鷹。在日本，黑鳶被稱為トビ，トビ在公園海邊處處可見，在印度甚至可以上千隻聚集在一個棲地。但是屏東是台灣最大的黑鳶棲地，但每年紅豆收成前在田地噴灑的加保扶毒死了上千隻紅鵲、麻雀等鳥類。腐食性的黑鳶（註5）吃下這些被農藥毒死的鳥類後，也隨之毒發身亡，因此黑鳶在全台灣的族群數量大約低於六百隻。

長期研究黑鳶，被稱為「黑鳶公主」的林惠珊希望能借由環境友善農業的模式推出有機耕重的黑鳶紅豆，不但可以維持農民生計，還能夠保護整個農田生態系。無奈台灣高溫多濕的氣候下，秋冬薊馬危害相當嚴重，如果完全不用農藥採取有機農法，價格會是一般紅豆價格的兩倍，銷量也相當不好。紅豆的自然農法之路艱難無比，但當年實驗室一起出動撿拾滿地鳥屍的悲慘畫面歷歷在目，只要能一點一滴、慢慢改變農民的用藥習慣，嘗試將紅豆改為一期作物等等。黑鳶族群還是有機會在台灣慢慢壯大的。

後記：那些在田間奔走的人們

這一篇要感謝台大自然保育社的夥伴們，被我在Facebook上問問題、追殺、討照片，真是辛苦他們了。當初本來是想要寫關於蜜蜂衰退與農藥的介紹，但是蜜蜂與我本身的研究題目有關，怕寫著寫著會越來越像艱澀難讀的學術論文，大家沒有



田鰲米的收成（觀察家顧問公司提供）

興趣也看得一頭霧水。後來聽說林哲安學弟在努力推廣田董米，所以就改寫環境友善農業了。其實，觀察家生態顧問公司也算是保育社的另一個秘密基地。這些夥伴們畢業離開學校後，也將自然保育社的精神實踐的非常徹底。身為學姐能做的，就是將這些事情報導出來，希望更多人瞭解台灣這個寶島上住著許多可愛的生物，也有許多傻子為了保護他們而努力。這次介紹的幾個環境友善品牌如「新南田董米」「楓樹窩石虎米」「新鄉村·臺灣藍鵲茶」，在Facebook上都可以搜尋的到。對於黑鳶有興趣的人，可以在Facebook或是google搜尋「屏科大鳥類生態研究室」，看看這些鳥人們在做什麼囉。

在這裡也謝謝賴郁雯學姐幫我在科博館昆蟲組找到醃漬的大田鰲，拍照寄給我。一般人很難接受昆蟲上桌作成菜餚。但在亞洲國家，「昆虫食」的歷史其實很悠久，「イナゴ」「ざざむし」「クロスズメバチ」都是很常見的鄉土名物。在台灣則有虎頭蜂酒跟炸蔗蜂蛹等料理。在糧食短缺的未來，以昆蟲作為蛋白質來源會是一個新趨勢。



註1：C/P值的正式中文名稱為性價比，英文可寫作cost-performance ratio或是Capability/Price，高c/p值講白一點就是「便宜大碗又好吃」

註2：朱鷺米是一個統稱，但主要是經過佐渡市的環境認證後才能在米包裝袋印上朱鷺認證規章。認證基準包括提供魚類、水生昆蟲及鳥類生存空間的水渠跟池塘，每一期稻作都比一般農法減少一半以上的肥料跟農藥的等等。若想多加瞭解，可以搜尋「朱鷺と暮らす郷づくり」認證基準。
<http://www.city.sado.niigata.jp/eco/info/rice/index.shtml>

註3：谷津田(やつだ)是水田的其中一種環境類型，在日本因為淺山丘陵很多，所以在谷地裡闢成水梯田種植水稻的歷史已經相當悠久，日本將這種環境稱為「谷津田」。

註4：董雞在臺灣是夏後鳥還是留鳥，不同的圖鑑定義不一樣。但是在某些地方冬春之交時仍可以看到董雞。

註5：腐食性是指該種生物不會主動捕捉活的其他生物來吃，而是傾向吃死亡的生物。因此在日本許多地方可以看到トビ搶奪人類手上的食物，或是跟烏鴉一起翻公園垃圾桶中沒吃完的食物。



作者：九州大学 吳麗宇

看日本無形民俗文化財的保護對地域的貢獻——以博多祇園山笠行事為例

周宏仁（西南學院大學 國際文化研究科博士後課程）

一、前言

筆者到福岡留學已邁入了第七個年頭，2007年時自淡江大學的中文研究所畢業後，本想留在國內就職或繼續攻讀博士班。因為嚮往留學的生活，並想研究日本的文化與日本人的思考模式，而於2008年4月來到福岡求學。到達福岡的前半年，由於受限於筆者個人的語言能力，大部分時間只能用眼睛來欣賞當地的文化，無法透過閱讀與對話的方式來了解。留學生宿舍裡，每箇月中多少有1、2次由日本人的志工安排戶外活動，帶領我們留學生們四處參觀，筆者也盡可能的參加每次的活動，因為可以多點機會認識福岡的文化。

同年7月13日星期天，日本的志工們又舉辦了戶外活動，帶著我們留學生到地下鐵中洲川端站附近觀賞一項屬於當地的盛典：博多祇園山笠行事。剛下地鐵就感受到周圍瀰漫著祭典的氣氛，車站內有許多前來觀賞的民眾、還有穿著像祭典服飾般的孩童們，由家長或牽或抱的，好不可愛。大家一起出了地鐵站各自尋找合適的位置觀看祭典。約莫下午3點前後，我們聚集位置前的道路已經淨空，許多穿著祭典服裝的男子們在路上提著水桶灑水，筆者知道祭典已經準備開始。沒多久先聽到了雄壯整齊的喊聲，之後就看著好幾百人組成的大團隊，由清一色的男性們抬著極為巨大且像神轎般的物體奔跑前進，同時口中齊聲喊著口號。當時在旁邊觀看的筆者，不由得地被這樣壯大的聲勢與場面給感動到。這天是筆者欣賞「博多祇園山笠行事」的初體驗，也正是開啟筆者親身參加、研究這項祭典的契機。

「博多祇園山笠行事」於西元1979年被日本政府正式指定為「國家重要無形民俗文化財」，成為日本夏季祭典的代表，每年7月1日到15日為祭典正式活動的時間。那麼，這項民俗文化資產如何經過770多年的歷史持續傳承下來？並且能獲得國家與國民的廣泛認同，令筆者感到吃驚；日本政府與地方民間團體是如何對這個民俗事項給予最完善的保護與發展，都是值得探究的問題。

以下，將以福岡市的「博多祇園山笠行事」為主題，簡潔的介紹關於這項祭典的特色，包括它的起源與祭典概況，除了以觀察研究的視點來切入，筆者還以祭典參加者的角度，試圖從中說明分析出日本在無形文化保護面與地域的相互作用，以及地方團體與個人在保護與維持無形民俗文化財後獲得的功能與作用，並提出一些個人的見解。

二、博多祇園山笠行事的沿革

關於山笠的起源有幾種不同的說法，最被推廣的是於西元1241年博多承天寺的開山祖：聖一國師為了驅除當時流行的疾病所舉行的活動。國師乘坐著一部被稱為「施餓鬼棚」——一種類似轎子的木造工具，現在被人們稱為「山笠」，當時由民眾扛著沿街前行在博多的區域內繞行，國師在轎子上邊灑甘露水（祈禱水）邊祈求。疫病退去後，往後每年的這個時候，為了紀念國師的功績，同時為了驅除邪穢，順利度過炎熱的夏季，博多區境內都會舉行祭典。就這樣經過幾百年的傳承，過去的祭祀活動逐漸演變成現在日本人們所熟知的「博多祇園山笠行事」。

現代山笠祭典的舉行時間已固定為每年的7月1日至15日。祭典期間分別於福岡市內14個地點放置超過10公尺高的「飾り山」裝飾用山笠；此外還有7處放置「昇き山」的奔跑用的山笠，合計展示處共達21個點。山笠是一種類似當年聖一國師所搭乘轎子的工具，如今演變成一種裝飾著許多精美人偶的花轎。花轎的製造過程極其精緻，完全不使用一顆釘子，並於上端標示出所裝飾人偶的主要題材和人偶師名稱。花轎的製造過程中結合了博多人偶與博多織等傳統工藝，其中「昇き山」因為需要在街道巷弄中快速移動的原故，高度只有「飾り山」的三分之一，重量也比後者輕了很多。每一座山笠都要訂立一個主題，無論是傳統故事或神話傳說都可被採用。山笠的裝飾分為前後兩面，兩面都有同樣華麗的裝扮，日本神話人物、日本卡通形象或者日本、中國歷史上的文官武將都可能被製成精美人偶裝飾在上面。

博多祇園山笠行事以櫛田神社(KUSHIDA)為中心，此神社建於西元757年，神社內供奉著博多地區總鎮守，也就是總守護神，是博多人的信仰中心所



在。在櫛田神社裡頭，常年擺放著一座用來展示裝飾山笠，這是少數不用在活動結束後拆除的山笠。山笠行事的第一天，由展示裝飾山笠揭開整個活動的序幕。此後的每一天都安排有不同的活動。

博多祇園山笠每日的主要行事

下面就透過日文原文來說明整個祭典行事的過程。

• 7月1日……いよいよ、山笠本番！飾り山笠の公開開始

7月1日，裝飾山笠展示活動正式公開發表。

夕方、当番町は「お汐井取り」に行く

為了祈求祭典活動期間一切的平安，每年各流負責守護山笠的代表會一起在福岡市東區箱崎宮的沙灘集合，面對夕陽拍手祈求後，並拿取帶回沙灘的沙。

• 7月4日頃……昇山笠の台に棒をつける「棒締め」を行う

7月1日，將「昇き山」——奔跑用山笠裝上大根の木棒。

• 7月1日～7日頃……山笠を神格化する「御神入れ」が行われる

7月1日～7日，請神儀式。請博多地區總鎮守的總守護神加入今年山笠的活動。

• 7月9日……山笠に参加する全員が集合し、「お汐井取り」をする

7月9日，全部七流的所有活動人員（昇き手），依照每年「流」的出場順序前進，全員邊小跑步的同時編富有朝氣地齊喊「歐秀伊、歐秀伊（オッショイ）」。直到目的地箱崎宮的沙灘取沙帶回家，以祈求平安。每個流的人數不同，從小孩到老人總數少則五百人多可達千人

• 7月10日……「流れ昇き」

7月10日，各流分別在自己的區域內開始暖身活動。從這天起「昇き山笠」開始動了起來，山笠也正式地由靜轉動。

• 7月11日……祝儀山「朝山」が早朝行われる

7月11日，朝山活動也稱為祝儀山。早上5點到6點將「昇き山」取出，讓過去有功績的長者們以及將來會成為「昇き手」的小孩們，上到山笠上面。

夕方、「他流れ昇き」

為了12日「追い山ならし」的練習活動，此日傍晚時各流的山笠會從自己的所在區域進入其他流的區域去，進行互相探訪並對對方表達敬意的活動形式。

• 7月12日……追い山ならし

7月12日，以15日的「追い山」活動為目標進行練習。如同15日正式活動般的進行預演，會練習跑完約四公里的路線。

• 7月13日……集団山見せ（ここ数十年で始



まった)

7月13日，是正式「追い山」活動前唯一會通過那珂川進入福岡市中心的一天。每個流的山笠依序進入，到達目的地福岡市役所前，向福岡市長及福岡博多有名望的人士致敬。

• 7月14日……流れ昇き

7月14日，與10日的活動相同，在自己的區域內進行練習。為了15日正式「追い山」活動做最後的調整。

• 7月15日……追い山

7月15日凌晨4點59分，各番山笠隨著大太鼓聲一起在櫛田神社旁集合。由一番山笠開始啟動，先進入神社進行「清道」，唱完約1分鐘的「博多祝い唄」後，在博多境內指定的路線上進行約5公里的奔跑。此後，從二番山笠到七番山笠每間隔5分鐘依序出發在後面追趕。其中，八番山笠「上川端通」是唯一會跑動的裝飾山笠。

追い山活動開始，當所有流的山笠都進入櫛田神社後，神社中的「能」舞台會開始進行「鎮めの能」的活動。熱情強壯的「山笠」是「動」的代表，而「鎮めの能」是「靜」的象徵。當跑完追い山活動之後，各流的山笠回到自己的所在地後，馬上就會進行山笠花轎的拆解。正式宣告今年的博多祇園山笠行事的圓滿落幕，也間接宣告日本的夏季現在開始。

三、受日本《文化財保護法》保護的「博多祇園山笠行事」

日本政府對國內無形文化財保護一直走在世界前列，其主要的特點在於很早就立法中明確規定無形文化財的分類與保護傳承制度。其《文化財保護法》最早成立於昭和二十五年（1950年），文中說明「在我國歷史或藝術上價值珍貴的戲劇、音樂、工藝技術等為無形文化財富」，並確立了無形文化財最初傳承形態的分類，以及政府在保存與傳承無形文化財方面的責任。此後《文化財保護法》又經

過了多次修正，其中比較重要的一次在昭和五十年（1975年）。將所有類型的文化遺產都寫入法律，並且依據不同的類別採取不同的保護措施。

具體來看，《文化財保護法》中將文化財分為「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「史跡名勝天然紀念物」以及「傳統建造物群」等類別，並針對各類文化財性質，就指定、調查、保護、修繕等方面分別作適當的規定。其中，關於「民俗文化財」一詞，日本《國史大辭典》辭典的解釋為：「民俗文化財是有關於衣食住、生活的技能、信仰、一年中的固定的慣例行事等等風俗習慣以及民俗藝能作為物件。」民俗文化財還可分為有形民俗文化財與無形民俗文化財兩種，有形民俗文化財主要有服飾、器具、傢俱等，無形民俗文化財則主要包括風俗習慣、民俗藝能和民俗技術等。「日本的文化財保護體系中，符合非遺公約定義下的非物質文化遺產者有『無形文化財』、『有形民俗文化財』與『無形民俗文化財』，此外，還有一個在定義之外、本身也不是文化財卻與非物質文化遺產的保護有關的類別，即『文化財保存技術』。」，這是日本無形文化財保護方面突出的特點，即對於那些與傳統文化遺產的保護嚴密相關的技能、技術，也應該列入保護範圍。此外，對文化財中不同的保護物件應採取不同的行政措施。以無形民俗文化財為例，即在無形民俗文化財中，通過「指定」這一行政行為挑選出來的，稱之為「重要無形民俗文化財」，而通過「選擇」這一行政行為挑選出來的，稱之為「選擇無形民俗文化財」，針對不同的類別，日本政府會規劃不同的保護辦法，包括記錄、提供經費支援等等，而對於重要無形文化財的持有者，政府甚至會指定他們為「人間國寶」，給予他們很高的社會地位。

截至2014年5月的資料為止，被列為日本重要無形民俗文化財全國僅有279件，其中風俗習慣類121件，博多祇園山笠行事就屬於其中一種。博多祇園山笠行事於1979年2月被指定為重要無形民俗文化財，其保護團體為博多祇園山笠振興會。法律的制定為每年山笠活動的舉行提供了堅實可靠的依據。

四、博多祇園山笠行事與地域

無形民俗文化財必須有日本政府和地方團體和諧的互動，有當地的團體和當地居民(個人)的積極參與，是構成博多祇園山笠行事得以保存和持續發展不可或缺的條件。地域原義是一定的區域範圍內，筆者這邊想要特別強調的是於同一區域中生活的人們，包含了組織團體與個人。地方團體在博多祇園山笠、這項民俗文化的傳承過程中扮演重要的角色

。其具體保護團體為博多祇園山笠振興會，這是一個由各「流」為單位組成的民間組織。

「流」在豐田秀吉時期是一種地方自治組織。戰前的「博多祇園山笠行事」由七「流」輪流負責。但在戰後，隨著參與人員的增加，有了常設組織的必要，於是博多祇園山笠振興會應運而生。每年，都會召開成員大會，討論各「流」之間的合作以及山笠行事的未來發展等。「流」與當地社群密切結合，關於山笠的製作、佈置地點都由各社區安排。地方自治組織「博多祇園山笠振興會」除了具有活動直接的管理分配者功能外，它一方面是政府承認的此項重要民俗文化財的直接保護者，一方面又是民間自治組織，在祭典中也扮演政府與地方民眾聯繫的橋樑，更是以民俗文化維護者身份與政府對話溝通的重要組織單位。

博多祇園山笠的參與活動隊伍是以「流」為單位。「流」是一種地方自治團體組織，同時也是山笠活動的基本運營單位。博多祇園山笠在漫長的發展過程中，到了現代形成了七個團體，被稱作「流」。這七個「流」輪流決定著每年的出場起跑順序，2013年是「一番山笠惠比須流」、「二番山笠土居流」、「三番山笠大黑流」、「四番山笠東流」、「五番山笠中洲流」、「六番山笠西流」和「七番山笠千代流」。各「流」的參與人數並沒有限制，但至少都盡可能的維持每個單位保有五百到千人左右的基本人數。

參加活動的成員，以男性為主(年齡沒有限制)，禁止女性參加(僅學齡前的兒童沒限制)。因此，如果在隊伍中遇到一位20多歲的年輕成員，他可能具有參加二十年山笠活動經驗時，也不用感到驚訝。整個山笠祭典期間內有許多跑山笠的行事活動，其中重頭戲是在7月15日的追山笠活動。由各「流」內推派出26名最為精壯、著水法被的男子，共同扛著重達約1.4噸左右的山笠花車打頭陣，其餘參與者分散在山笠周圍，有在後面以倒三角陣行推著山笠跑的，或者跟隨在周圍維持山笠秩序，或是在旁準備隨時能交換入手，共同地在博多的馬路與巷弄中拔腿奔跑。當他們跑過時，兩旁的當地居民會往他們身上潑水。參與者的口號聲，觀賞者的掌聲、加油聲，讓整個跑山過程既刺激又緊張，充分展現出地方自治團體組織與博多人民積極向上的精神面貌。

五、參與「博多祇園山笠行事」 祭典的意義與功能

「博多祇園山笠行事」在日本政府的保護與地域團體與個人的支持維護下，得以延續傳統與歷史。

對參加者而言，不僅能直接體驗到當地民俗人文的特點，還能進一步去感受它的魅力。在體驗的同時，更是突顯了地方團體與參與者個人對無形民俗文化財進行保護傳承的心力貢獻。對團體而言，民俗祭典活動進行的過程中，祭典與地域兩者間必然出現共生共存的關連性。祭典由有了地域的支持，能代代傳承推廣下去，反之對地域而言，祭典本身將會發揮什麼樣的意義與功能呢？透過筆者親身的參與經驗，藉由近幾年訪談、資料搜集及分析的結果，可簡單地歸納出下面幾項重要功能。

1 傳承教育功能

參加者通過祭典把傳統一代一代延續下去，並通過這種儀式活動對人們的生活觀點造成潛移默化的影響。現代社會中的博多山笠祭是一項對體力有極大要求的活動，可是它卻允許小孩參加，很大程度上是因為小孩是未來傳統文化的保持者，因此希望在傳統節日的舉辦中，通過成人們的積極引導，使傳統文化能夠一直保持固有的本色。除此以外，日本的節慶祭典也會對青少年人格的養成起到積極的作用。山笠祭中嚴格的儀式過程、共同努力互相說明完成儀式目標、儀式舉行過程中人際關係的和諧都會提醒人們養成良好的共同生活習慣，這些習慣成為規則制約著人們的一舉一動。而「民俗中的規則已對日本的政治、經濟與公共關係等方面發揮出不可估量的作用。」日本政府認識到這一點，因此對無形民俗文化財積極進行宣導。

2 地域認同功能

反映出了一種地域性的認同意識。在日本，不同的地區都有各個代表的祭日。日本比較有名的節祭有京都的三大祭(祇園祭、葵祭、時代祭)、東京的三社祭等，除此以外各街區(町)、村莊都可以有各自的節祭。這種地區性的節祭有不同的起源，一般與本地區的發展有關。各種地區性的節祭都富有地區特色。祇園祭中，七個「流」分別來自博多七個不同的地方，都會有各自不同的服裝，有本「流」的標誌和字樣，各「流」所請的神也各自不同，從外觀就可以很輕易分辨出每個參加者屬於哪個「流」，這有利於人們對自己所居地域的區域認同。今日的節祭除了傳統的宗教祭祀外，還包括各種民俗表演與各種地方性傳統工藝的展示與販賣。節日期間，人們還可以通過節祭活動達到娛樂、休息、聯絡親朋好友的相互作用。通過節祭，人們會不斷強化對本地域文化傳統的認識，有利於社會關係鞏固、地域認同功能的加強。

3 傳統產業發展功能

祭典行事期間同時還是對民俗文化傳統的傳承與發揚。在過程中，不僅集中了人們的地域意識與社

會意識，還是各種民間藝術、民俗的集中展示期。博多祇園山笠祭中的所有參與者都會穿上日本傳統的水法被，旁邊的觀看者很多也會穿上傳統的和服，表明這是一項很重視傳統的慶典。此外，在節慶慶典用品的製作上，每年的花車都要重新製作，花車上不僅要製作不同神祇的形狀，同時還會集中博多織、博多人偶等傳統手工藝品的精湛技術，充分展現出地域傳統產業的特色，更能突出傳統產業的功能。



4 消費意識功能

每年一到節慶慶典時，裝飾用山笠與奔跑用山笠的每輛花車都要重新製作。花車的製作過程是相當講究的，花車上的神祇都要不同且有特色，花車上半部集中博多織、博多人偶等傳統手工藝品，這些傳統藝術都需要消耗大量的材料，需要搭配金箔、銀箔、華美的絹織服飾來裝飾；下半部還需要傳統木工技法以及裝配金屬鑄物。因此，完成一輛花車是相當不容易的。製作時必定能達到促進消費傳統產業商品的功用。

另外，所有參與者從頭到腳上所有的頭巾、衣物、鞋襪、護身符、佩戴品，到腰上的繩子等祭典活動中使用到的用品，祭典後還有不同的服裝，像各流代表服飾、小提包、鞋等用品，都需要自行購買準備，一套完整活動中的服飾裝備的基本價格至少需要二萬日圓。還加上祭典後的服飾合計費用就需要五萬日圓。消費的行為不單單只是以參與者為主題，連帶的也會促進民眾與觀光客購買服飾產品的消費意識。

另外，祭典期間，各流都需要大量的食物、酒和補給品，以滿足所有參與者在活動中的運動量，讓所有人能展現最強健的一面。每日活動結束後，各團體中還會有幾個好友相約同聚的餐會或是懇親會，皆是一項消費行為。對當地的傳統產業與商業而言，上述祭典中所需使用的商品或是祭典後的飲食活動，都是藉由祭典所帶來的另一項重要功能。

5 觀光推動功能

為了配合慶典熱鬧氣氛，博多區域內各町的商店街都會推出各式各樣的祭典促銷活動，為福岡市招攬許多來自國內外的觀光遊客，其中7月15日的追

山笠活動當天，甚至會達到有百萬人的觀眾進行觀賞。對觀光客而言，山笠活動給他們的體會或許不如本地居民那麼深刻，但是至少達到能提供他們在本地消費，達到宣傳當地各項特色文化，促進整個地域觀光發展的基本作用。

6異領域交流功能

參加活動的成員，因為以男性為主，不是所有的日本男性都能隨意參加此項祭典，主要由這七個自治區域中的男性組成，後來由於人口外移等原因，人數日漸不足，轉而開放博多區域外地人士也可加入，但有條件限定必須是由參加過祭典的人推薦，並向各流的大老們請示核准後才有參加的可能性。

開始開放給外地人士加入之後，讓非本地出身的親朋好友、或是有志一同的同伴都能一起參加，也有公司主管帶著部屬一起參加活動。參與者不全是當地居民了，有可能是東京、大阪來的，還有少數有可能是外國籍的朋友(從強調秩序的日本人觀點來看，依外國人的個性，不見得能適應這樣極注重繁瑣秩序的活動，因此有外國參與者已相當不容易，能全程完成者更難，筆者即是其中一個極少數全程參與祭典的外國人)。日本的日常社會極為講究秩序、嚴謹，強調階級，每天在路上見到的人們都西裝革履、形色匆匆，平時的人們是靜默的、各自獨立的，但在節日期間，狂歡的氣氛卻讓所有的人走到了一起，階級暫時不再被強調，人與人之間的界限不再分明，大家融洽地在一起，互相問候，相互鼓勵，因為祭典的緣故，可以認識到不同於自己生活範圍之外的朋友，這時期可以獲得與不同民族、

不同地域、不同階級、不同工作的所有朋友進行交流的功能。

六、結論

博多祇園山笠行事舉行時，地方團體及當地居民成了其直接參與者。山笠行事的順利舉行，除了政府的政策支持，還有賴於本地工商傳統產業等提供經費贊助。換句話說無形文化財是倚靠國家、地方、個人三個重要層面，才得以保護傳承博多祇園山笠這項重要無形文化財。這三層面相輔相成，缺一不可。在《文化財保護法》及其相關法令中，也有對三者各自明確的義務和責任的描述：國家從法令、制度、經濟上給予保障，地方組織負責文化財直接的管理與保護，普通的國民有協助地方實行文化財保護的義務。

「博多祇園山笠」祭典活動受到地域各界持續傳承與推廣之下得以保存，他們所付出的精神與心力、財力並非徒勞無功。對地方政府、民間自治團體組織、本地市民們而言，祭典促進無形文化資產和地方各項產業的結合，創造福岡博多無形文化資產之獨特魅力，也會給個人予積極且直接的回饋功能。日本的無形文化財保護概念起步較早，展現出了一定的卓越成效。在這樣一個現代文明高度發達的都市，生活在現代都市叢林裡的人們同時也穿著傳統服裝、邁著傳統的小碎步行走在各個祭典之中。在保護無形文化財、參與祭典的同時，也能從中得到許多意想不到的收穫與啟發。這是在過去舊社會中，我們無法預見的功能與作用。

福岡展覽心得一簡鏡

陳世惠

從八年前得到早稻田大學獎助金，到福岡長住一個月，每天身處的環境迥異於在台灣的生活，也從資料上看到福岡是世界上最適合人居的城市之一。每天研究城市中的標示系統專題，搭著火車、公車走路，深刻的探訪許多小城市，傍晚又回到旅館，心裡面總會有一鼓聲音悄悄的撞擊著心臟：

如果有一天可以來福岡展覽，展覽創作的生命志業，將會是終生減少了一件遺憾的事。

後來陸陸續續有緣緣又來福岡，幸運地住在片野教授夫婦的家，他們很誠摯地接待我，我就在想，日本人都是這樣有禮貌善待人，內向而做事情很有計劃的嗎？

因為語言上的隔閡，我似懂非懂得這樣認為。直到認識台灣移民來的本鄉夫婦，我才發現我的

人生機緣似乎是萬中選一的樂透彩，好像遇到了在日本如同 하나의 親人，我還記得片野太太告訴我說：如果你來福岡，不用客氣，我有房子可以給你住。

因為這樣的情誼，好像實現理想的機緣有如天助一般。

認識文燦又是另外一個典型，看起來外表不修邊

幅，卻是踏踏實實地做事情。更有趣的是尤明輝，如果一群人相處，他總是安安靜靜坐著。他去年時常回來南台灣，就會過來家裡坐坐。原來，電



影“海角七號”裡面茂伯的家，就是他小時候成長的環境。

我在原來寫書法是黑白墨色中，花費很長很長的時間，後來發現了時常沈思的湖中有藍天的倒影，倒影裡有不同層次的藍，對岸山上森林的綠也有不同深淺的綠，或是晚霞的幻彩飄離，都讓我開始嘗試彩色的書法如何述說一個聽到或身邊人物的景物故事，想要為精彩生活在這塊土地上的人，把他們表現在文字的線條上，於是一次又一次的實驗，慢慢發現了一些古人沒有發現的書寫方式，一支筆書寫發現好像還不夠，於是又拿第二支筆書寫，如果有需要，再加第三支或第四支筆，產生了前所未有的畫面效果。一些來自世界各國的藝術研究教授也覺得有趣，於是我就發展出了這一批到福岡亞洲美術館展覽的系列。以幾何的概念來說，幾隻筆幾個顏色是原本藝術概念底下的加法，顏料加到畫布上。



後來一直看著這些書寫的字句，發現字句本身想要的意象可以不需要這麼多的筆畫，所以看著看著，就把很多不需要的筆畫再用幾何的減法，用黑色或其他顏色把他們塗掉，有一點肌理留存，或許也沒有都好。說也奇怪，黑色顏料覆蓋在留白的空間時，線條卻像透光一般的亮麗起來，就好像鏡子的感覺，映照了自己的心。

在去掉一般人能看懂的文字之後，整幅作品看起來不是有完整的文字，畫面卻更為簡潔有力，好像人的生活裡面有很多囉唆無聊的事情，都可以去除，剩下自己更純粹想過的生活形態。

一旦有了這個減法的想法，揣測著要到福岡展覽，腦中浮現的不外乎這些最親近有如家人一般的福岡朋友，他們似乎對應了我這些畫作，話語不多，該做的事情都會做好，該幫忙的時候沒有推辭，於是這些畫作找到了一個很簡潔有力的理由，可以到福岡亞洲美術館展出。當觀者來看展覽，真的就像是一個鏡子，同時觀照了我和他們的心，也可以說那是一種緣分和默契。

展覽的前一天佈置場地，片野夫人腳踝扭傷，還是爬上爬下地幫忙，整個時間也卡的很緊，連關懷的話語都說得很快速，實在是內心過意不去，開幕的時候認識的或不認識的大家一起來祝賀，本鄉醫師的致詞大致說出了我內心想說的話，尤其他最喜歡「永恆」與「晴耕雨讀」兩件作品，我說：「在

家鄉白河的工作室，下雨天的時候在漫漶水珠的玻璃窗上，由室內往外透視，幾乎就會有綠黃橘的三個顏色在戶外，所以取這三個顏色放在三支筆上同時書寫，很能表達對土地感情的牽繫。」他也深有同感。



往後的幾天有很多遠處來的朋友，尤其是竹田的阿南太太、大塚校長夫婦、洪喜美、蔣夫人、竹田市議長、古井先生等人，都從三個小時以外的車程距離來看展覽，內心非常感動，其實在竹田的這些好朋友，彷彿又是我一群住在竹田的家人，感情與心的互動，都不需要過多的言語。

我很少有一次展覽，是需要每天在會場看顧，這次在福岡卻讓我樂於如此，每個來觀看的人，很認真地感受線條的純粹美感，也樂於用極少的話語和我分享他們看到的線條表現，可是從他們的眼神當中又是熱情十足。

我居在南台灣創作著作品，而遠在日本的觀者閱讀着展場的作品，在展覽與觀展的同時，似乎感覺到他們與我是站在同一個美學線條上，這線條像極了我在白河鄉下散步的那條路，與散步當時的心境。

兩年前在東京都美術館展覽，回台灣以後，我發現了心的寬度，於是寫了三個字「寬心靈」，這次又發現了兩個字-----「簡鏡」，簡單的心靈在明澈的鏡子上呈現，超越了語言與種族，縱使鏡子上有一些灰塵，拿抹布擦拭潔淨即可。

生命是一步一步前進，一個樓層一個樓層往上爬，碰到因緣和合的人，就互相打招呼，白雲飄過來，也安然的品味不知身在何處的白雲之中，真好，要感謝的人太多，那就感謝白雲好了。



台北市銀髮族協會福岡知性之旅

阿君



台北市銀髮族協會一行20人、應九州台日文化交流會之邀、於4月20日赴日本福岡市、除了參訪近郊的能古島與白糸造酒廠之外、更與此間台灣人為主的歡喜合唱團進行音樂交流。

上午由九州台日文化交流會企劃執行長本鄉啓成先生與歡喜合唱團吉川千巧老師帶領、前往近郊能古島的島嶼公園參觀。廣大幽靜的公園、色彩繽紛的花海、映在這處的碧海藍天下、海風徐徐、為銀髮族協會的朋友們帶來片刻春天的溫馨。

中午前往糸島市的白糸造酒廠參觀後、來到本鄉啓成先生的鄉間別墅、與歡喜合唱團進行音樂交流。

九州台日文化交流會四維宗曉會長致歡迎詞、歡迎大家有機會多多來福岡進行民間的文化交流。北市銀髮族協會林茂雄理事長也致詞表示希望能繼續有這樣的往來與交流活動、並贈送會旗、會帽、會

刊給九州台日文化交流會。

音樂交流時間、吉川千巧老師獨唱（想）與（愛得不得了）。歡喜合唱團表演（滿山春色）（送你一朵勿忘我）與（伊是咱的寶貝）。台北市銀髮族協會除了唱會歌之外、還演唱（祝你幸福）與（我的幸福在這裡）。最後在一位銀髮族協會的阿媽口琴伴奏下、大家齊唱（忘春風）。

在自我介紹的時間、有三位會說中文的日本朋友、鋼琴伴奏菊池老師、古市女士與有働女士。古市女士還表示每次去台灣都有一種回家的感覺。

最後、在本鄉先生的導覽下、參觀日本傳統建築的室內設計與日本傳統家具的各項擺飾。

台北市銀髮族協會林茂雄理事長表示、不只感謝這次的交流、更感謝大家的熱心安排與至誠的招待。同時

希望能繼續保持彼此之間的情誼、往後還會有更多互動互訪的機會。



台灣宏觀電視 報道

九州臺日文化交流會企劃執行長本鄉啓成帶領台北市銀髮族協會會員們到他的鄉間別墅準備要與歡喜合唱團進行一場音樂交流
九州臺日文化交流會會長四維宗曉在致歡迎詞時也歡迎大家有機會能多多到福岡進行民間的文化交流
為了表達感謝
北市銀髮族協會理事長林茂雄特別贈送會旗 會帽 會刊
給九州臺日文化交流協會
隨後 會員也都起立自我介紹
大家互相認識 增進彼此情誼
在音樂交流時間
歡喜合唱團帶來了“滿山春色”“送你一朵勿忘我”等歌曲

臺北市銀髮族協會則是演唱“祝你幸福”“我的幸福在這裡”等在這樣日本傳統建築裡面大家唱著臺日歌曲 風味獨特透過音樂 將兩國間的情誼緊緊相繫
最後在銀髮族協會一位阿媽口琴伴奏下 大家齊唱經典民謠“望春風” 著實令人感動
我們這些同鄉大家在一起節目很有心 辦得很熱鬧
讓我們很感動
雖然執行長家這麼遠又不曾聚在一起
但是在今天這幾個鐘頭的時間裡讓我覺得這不只是一個開始而已
今後我相信大家還會有很多機會交流 相邀聚在一起
最後 在本鄉先生和夫人羅碧玲的導覽下大家參觀了日本傳統建築的室內設計

還有日本傳統家具的各項擺飾充滿日本風味的傳統家具也讓大家留下深刻的印象
我們除了音樂交流以外我們也介紹日本他們在生活上面比如說日常生活的用品給臺灣的朋友們
他們能夠欣賞然後能夠了解他這個作品背後裡面的一個美深處的一個美
那我們看到臺灣的朋友聽到我們解釋的這些內容他們都眼神都顯現出非常高興的喜悅
歡喜合唱團成員主要都是臺灣僑胞 也有不少日本人這次透過九州臺日文化交流協會大家不只認識新朋友也促進了雙方之間的情誼
臺灣宏觀電視 張文燦（編輯 盧惟中）

褒め上手

石橋幸子

ひどい雨のなか、台湾と日本の文化交流会が主催するコンサートに出掛けた。「すてきなお洋服ですね」。ロビーで見知らぬ女性から声をかけられ恐縮した。その日は、ピンク、緑、紫のいずれも淡い色で大ぶりの花を散らした手作りの服を着ていた。

客席に着くと、今度は主催する責任者の夫人がいきなり両手を私の頬に当て「きれい！メルヘンの中の少女みたいです」。こんなスキンシップ付きの褒められ方は初めてなので、とっさに声も出なかった。

帰りにスーパーに寄った。二度有ることは三度あった。私と同年配の人が「きれいな色ですね。よく似合っ

てますよ」とおっしゃる。実は褒めていただくのは3人目と礼を言ったら、「今日はまだまだ良いことがありますよ」と笑顔で去って行かれた。

あらほんと、帰宅すると娘から夫の好物が、東京に出た大学生の孫娘からは、勉強がとて楽しいとうれしいメールが届いていた。

不思議な一日の出来事を姉に電話して話した。「周りの皆さんはお花みたいなあなたに、ほんのひとときでも気が晴れたと思うよ。サッチャンはいいことしたね」。姉もまた褒め上手。私もそうありたい。

春の鳥

中村ヤウ子

「チッチッチ」と群れて飛びムクドリの声で目覚めました。

次は朝のしじまを破って「カーカー」と太いカラスの声。

暫くすると「ホケッキョ、ホケッキョ」とちよつと舌足らずに鳴くウグイスの初音です。

私は寢床を飛び出し、カレンダーの3月19日の欄に「ウグイス初音」と記しました。

ウグイスの鳴き始めは「ケキョ」と発声するのがやっとですが、今年のウグイスは優秀で、すぐに「ホー、ホケキョ」と美しく奏でることでしょう。

毎年7月頃までベランダの近くの木々の繁みの中で私を楽しませてくれます。

洋光台に來た頃は春になると、コジュケイが裏の藪で鳴き、私をワクワクさせるのでした。

姿は見せないのですが、非常に特徴のある鳴き方で「ピーボーピー、ピーボーピー」と一度鳴き始めると、疲れて声が出なくなるまで止めないのです。

ついに「ピー・・・ポ・・・」と息が絶え絶えになって途切れます。私は窓を開け「ほら、もっと、頑張って歌うのよ。ピーボーピー」と発破をかけると、健気に喉を振り絞って「ピー」とだけ応えます。コジュケイさん、有難う、お疲れ様でした。

ああ、もう一度コジュケイの歌声を聞きたいものです。

春と言えば揚げヒバリですが、麦畑の消えた町では、もう、見る事ができません。松本や四日市に住んでいた時は3人の子供達を遊ばせながら、よく、田舎道を散歩し、ヒバリの勇敢な宇宙旅行を眺めたり、可愛い囀りを聞きました。あの小さなヒバリが何故、雲の上まで飛

べるのか、何故、鳴き声が遠くまで聞こえるのか、不思議でなりません。

さて、私は去年の3月に台湾旅行をした時、68年ぶりにベタコの声の聞きました。台北の忠烈祠の木陰から「ピー、ピー」と何度も激しく鳴くのです。私は懐かしさに狂気して、「ベタコだ、ベタコだ、」と叫びましたが、台湾人のガイドも無関心だし、同行の娘夫婦も息子も聞いていないと言うのです。

夢ではありません。でも、聞いた証として、下手な俳句を記しておきます。

帰郷せる われに囀る ベタコかな
ベタコ鳴く 山河変わらず 故郷(さと)の春

ベタコは台湾から沖縄南部に生息する野鳥で、普通は姿を見せないと言われていました。

昭和2年、野口雨情と中山晋平のお二人は台湾旅行中、ベタコに興味を持ち、早速「ベタコ」という童謡を作りました。

ご年輩の中には歌われた方もいらっしゃるでしょう。
2014年4月1日



私のささやかな国際交流

田平 靖子

私と留学生とのささやかな交流についてお話をしてみたいと思います。

今から二十数年前、地元の新聞を読んでいた時、「留学生が地域に溶け込めず孤立感を強めているので、日本の人々は積極的に関わりを持ち、交流して欲しい」という記事がふと目に止まった。

ちょうど娘が東京の大学に行くため、福岡を離れた時期であり、親としては知らない土地で一人で生活を始める娘の事がとても心配で不安が募る毎日であった。

同じ国内でもそうであるのに、留学生は遠く祖国を離れ、見ず知らずの外国での生活は言葉の壁や生活環境や風習の違いなど様々な困難があるだろう。

留学生自身やご両親の不安と心配を思うと胸が痛んだ。

私は以前から海外の人々との交流に関心を持っていたが、この時の新聞の記事が留学生との交流へ踏み出すきっかけになったように思う。

早く留学生の方々と交流し、私の出来ることで役に立ちたいという気持ちを抱きながらも、どうすれば学生の人たちと接触できるのか、交流のチャンスをつかむ方法がわからないまま時は流れた。

1992年、社員旅行で台湾を訪れた。台北の地下道は複雑で出口を間違え、ホテルへの帰り道を見失ってしまった。途方にくれているところに若い女性が通ってきたので、「ホテルへ戻りたいのですが、道を教えてくださいませんか？」と聞くと、彼女はなんと「案内しましょう」ときれいな日本語で答えてくれた。

びっくりして「日本語が上手ですね」と微笑みかけたら、彼女もにっこり笑って言った。

「日本の大学へ入学するので日本語を勉強しているんです。」

「まあ! そうなの! 日本に着いたら必ず連絡してね。」
こうして私たちはお互いに氏名と連絡先を交換して別れた。

その後、彼女は東北大学に入学。私の国際交流の最初の友人となった。それからずっと今も交流は続いている。

一方その頃、国が留学生を多く受け入れようという政策を打ち出した。福岡にも色々な国の学生たちが増え、公的にも私的にも大小様々な国際交流のグループができた。

私も保証人を引き受けたり、食事やハイキングやひな祭りなどにお誘いするなど、ささやかな交流が続いたが、卒業とともに各々祖国や勤務地へと帰っていった。中国、韓国、スリランカなどの学生とは連絡が途絶えてしまったが、台湾からの留学生Rさんは帰国した後、ホテルのフロントに職を得たとの知らせをくれた。その後、彼女は日本の大学で知り合った友人と結婚し、今では仕事と二人の育児を両立させながら頑張っている。忍耐強く、周りの人へのこころ配りもやさしい。

多忙にもかかわらず、今でも子供たちの写真や成長の様子を手紙で知らせてくれる。クリスマスが近づくと絵本やハローキティのグッズなどの荷作りをするのが私の楽しみとなっている。

先日、お世話になっている歯科の先生から「台湾は台湾人の国」(許世楷・盧千惠共著)という本をいただき、一気に読んだ。素晴らしい内容であった。私は台湾の事を何一つとして分かっていなかったことに気づき、大変ショックであった。台湾の歴史、国情、台湾人を貫いている前向きな精神性や今国が抱えている苦悩を知ることもなく、留学生とは表面的な浅い交流が続けているのではないかと反省する。

台湾についてもっとしっかりと勉強しておくべきだったと反省する。

いま、台湾という国を知るきっかけをもらった私は現在73歳。まだまだ若い。残された人生、台湾について学ぶこと、協力出来ることが沢山あるはずだ。足を進めてみよう。



台湾貿易センター 国際企業人材育成センター (ITIT)

海外との貿易促進を目的に、台湾經濟部(経済産業省に相当)が外郭団体として設立した「台湾貿易センター(TAITRA)」が運営し、1987年の設立以来、約3千人が卒業。研修生は、日本語や英語、韓国語など9コースに分かれて2年間学びます。

日本語プログラムの研修は、対日ビジネスの幹部候補生として日本語や貿易実務を学んできた学生が、2年間の学校生活の集大成として、日本の企業において日本語を使ったビジネスを実地に研修します。

福岡県では、台湾貿易センターと福岡県の連携のもと、平成15年度から実施し、2013年度までに232名を受け入れています。11年目となる今年(2014年)は、1月19日(日曜)～2月14日(金曜)、男女23名の研

修生がそれぞれ県内の企業で約3週間の実務研修を受けるほか、福岡県庁訪問などを通じて福岡の人々との交流を深めます。



日本研修感想文

ITIT国際企業人材育成センター 學員 賴 韋岑



大家好，我是目前在日本通運實習的賴韋岑，在日通的兩個禮拜，我發現到自己研修生的身分好像會帶給擔當一些麻煩，因為擔當本身的工作就非常忙碌，卻還要分心思來照顧我們，真的就是變成忙上加忙。起初我對於自己造成別人的困擾的部分感到很不好意思，因此處於有點消極的態度，但我後來想了一想，好不容易有這個機會來到日通見習，如果一直處於消極的態度豈不是太可惜了嗎？就算麻煩別人又如何，要把東西帶回去才是最重要的，換了想法後，我只要碰到有點疑問的問題就會馬上問擔當，自己所獲得的東西也越來越多，在這邊要鼓勵各位同學，真的不要害怕麻煩到別人，如果一直害怕下去，這次見習的機會可能就這樣一點一滴地浪費掉了，要學會主動出擊，把自己當海綿一樣，盡量去吸收之前沒學過的知識跟做事的方法，我想這才是這次研修最重要的真諦。



個人深感榮幸能夠有這個機會參與此次「台日文化交流」的交換學生，在此要感謝這一路走來的前輩先進們所給予的扶持與教導，其中，莊慶達所長極力的鼓勵我走向國際，以及在福岡期間，本鄉夫婦在百忙之中仍對我細心照護，末松夫婦則提供一個安穩舒適的生活環境以及參與許多活動機會，還有許多在福岡地區所認識的朋友，謝謝有您們的陪伴，讓我在福岡的這段交流期間，過得非常充實。

☆歷練

馬克·吐溫曾說過：「若想要感覺安全無虞，去做本來就會做的事；若想要真正成長，那就要挑戰能力的極限，也就是暫時地失去安全感，所以，當你不能確定你自己在做什麼時，起碼要知道，你正在成長。」另外，曾在課堂中聽著一位講師敘述著多年來在國外旅遊的經驗，而他也藉著這些經歷，給予當今年輕的我們一個鼓勵，希望年輕人出去闖闖、多多歷練。最後，該講師提了兩句話為整個演講下總結：

1.徹底把自己放在一個陌生的地方來考驗自己的能力。

2.學習面對寂寞。

獨自在國外生活，無時無刻都是一種挑戰，不過，真正最大的敵人，則是自己的心態，如果沒有一顆勇敢的心去接受外來的刺激，則容易封閉自我，畫地自限，而「歷練」，就是我在日本見學的最大寫照。

☆每日一事

回想起到了前原，安置好一切，末松先生在一天的清晨，拿著一把鐮刀給我，告訴我這將會是我未來每天的工作，每日花一個小時來除草，將自家週遭環境的清理整潔。起初的確不以為意，認為這只是單純地希望我整理環境，不過隨著時間的推移，漸漸地我瘦了下來，也跟大自然學習不少。而且末松先生也時常陪著我一同除草，並向我解釋其理想，要做到一個無毒的環境，必須從「養土」開始，而為了要營造一個無毒的環境，就是要身體力行，一刀一刀的揮，割下來的草，再收回來作為涵養土地的肥料，這也就呼應了木下先生一直以來所推崇的「自然農法」之精神。

做著做著，我開始了解到「每日一事」其實別有

意義，因為在這塊土地上付出勞力，加上自己的用心，透過身體流出的汗水，將情感一點一點的滴入，我認為，除草是一種對土地產生認同感的方式，而時間，就像是植物一樣，隨著你投入越多，根就扎的越深。曾經在202號道上，巧遇一位一同在「明松塾」中上課的酒井先生，他每天都會全副武裝，拎著一個大垃圾袋來整理市容，而這一做，就數十年如一日，回過頭來想，末松先生的「養土計畫」也正是他對這塊土地的一種「愛的執著」吧！



自然農法教師－木下先生

☆蛻變 & 將來

短短三個月在福岡所受到的歷練，以及長輩們的諄諄教誨，就像是春雷般驚醒了22年以來蟄伏於土中的我，其中本鄉先生不斷提醒我，要「擇你所愛，愛你所擇」，事情沒有絕對的完美，只要不怕做，不怕麻煩，並珍惜所有，建立起一個良好的為人處事的態度，則可以讓自己的人生過得更圓滿。



等待蛻變的蟬(左圖) 金蟬脫殼(右圖)

當初於本鄉夫婦在川付的家外頭，以相片記錄下了一張「等待蛻變的蟬」的照片，當時的牠靜靜的攀住樹幹，雙眼仰望著天空，而我在凝視牠的當下，整個時空如同凍結了一般，那種蓄勢待發的感覺，給人一種難以形容的衝力，而真正讓我內心產生迴響的，是在幾日過後，再見到「金蟬脫殼」的景象。

曾經在與末松先生相處時發生這麼樣一件小插曲，依稀記得那天是7月30日，我們一同到餐館用餐，就座後，他率性的把身子側靠在牆上，右手把玩在桌上的筷子，直到餐點送上的那一刻，他突然問我：「What is your dream?」我愣得不知所云，自己並非不懂他的英文，只是當下的我，錯愕得回答不

出來。心想：「夢想，對我們這個世代而言，真的能夠實現嘛？當今的社會，我們深怕自己只會是22k的格，哪敢再做什麼白日夢？」當我意識過來時，脫口而出一句「I don't have big dream.」想不到這句話對末松先生的衝擊甚劇，他馬上二話不說，隨即拿走我的筆記本，親筆留下一段話：「最近日本的若者は大きな夢を持つ者が少なくなったようだ。これでは日本も滅びてしまう。こういった夢のことについて話し合う、場が必要になる。」

台湾の若者同志で、交流の中で夢話れ。明日の台湾はどうあるべきかを考えて、そういった若者の仲間をつくろう。」

簡單翻譯了一下：

「最近日本的年輕人懷抱偉大夢想的似乎變少了。長此以往日本也終將毀滅。因此，須要一個能讓年輕人互相討論偉大夢想的平台，讓台灣的年輕人在交流中暢言夢想，共同思索臺灣明日的願景，讓我們集



末松先生親筆寫下感想

結這樣的年輕人吧。」

打從獲選為親善大使的那一刻起，我就知道自己是最幸運的那一位，因為自己能汲取到的知識，都是教科書傳授不來的。我的「老師們」都簡單的傳達一個訊息給我，不要怕去「作夢」，因為有了目標，才會驅動自己去實踐。我的未來，也會是台灣未來的縮影，經歷了這段交流的過程，我決定拋開當初消極的想法，因為，我們台灣不是「沒有」未來，而是要勇敢的去闖出一片天！

感謝促成此次計畫的所有相關人員，我能有所成長，都是大家的功勞！此次交流中，能得到的、收穫的真的太多太多，不應再要求什麼，但我一定要出來「喊聲」，希望如此優良的「台日交流計畫」能夠繼續傳達理念，讓更多的年輕人一同懷抱夢想，勇敢築夢。



與本鄉夫婦(左圖)及末松夫婦(右圖)的合照

☆活動部分：



候診室的鞋子

台灣囡仔

我的父母親是台灣人。

我3歲的時候、因為母親在大分県鄉下的齒科診療所工作、也就跟著來到了日本。母親把我送到附近鎮上的天主教幼稚園上學。每天下午3點左右放學時分、同樣在診療所工作的大哥哥會把我接到診療所。大家忙著工作、我就混在患者與這群大哥哥、大姊姊裏頭、鑽來鑽去。

偏遠鄉下的患者大部分是老人、他們知道我的母親是從台灣來的、對我似乎特別好奇、也特別親切。常常用大分縣的方言問我一些有的沒的、其實我也不太知道他們在問些什麼、反正我也隨順的回他們幾句。有時候他們會搔搔頭、因為聽不懂我講的台灣話。有時候他們又會哈哈大笑、說什麼這台灣小鬼居然也會講大分縣方言。

通常我回到診療所時、小小的候診室總是擠滿了患者、有時連放鞋子的地方都沒有。身穿白衣、頭戴口罩、防護眼鏡的母親頂多「你回來啦。」一句話、就又埋頭兀自看診、放我自由去。有一天、我在候診室和幾個小朋友胡玩、有一個小朋友看到我手中拿著玩具機器人在玩、那是父親特地從台灣買回來送我的、答答答的機關鎗聲、又會閃閃亮紅光那種的、與日本的玩具機器人不太一樣。那個小朋友好奇地問我：「那是什麼？」。

「機器人啊！」那時候我的中文單字講得還挺不錯。不自覺地我得意的回了他這麼一句話。

「機器人？」那個小朋友也不自覺地學我用中文回了我這麼一句話。

就在答來答去的那一瞬間、也不知道這對話有什麼好笑的、候診室突然爆開一大串笑聲、所有等在那兒的患者、老人、歐巴桑、連大哥哥、大姊姊都忍不住地捧腹大笑。我還好、倒是那個小朋友搞不懂為什麼大家這麼大笑？憋起嘴巴哇哇地哭了起來。



就這樣、斗大的候診室成了我的遊戲間、那些老人、歐巴桑、小朋友成

了我的玩伴。

大人們常常問我：「台灣好？還是日本好？」我也不懂他們為什麼問我這種問題、我也總是歪歪頭地回說：「那裏都好。」

不過、當他們問我：「你是日本人？還是台灣人？」時、我的回答就更單純了：「那還用問？我現在住在日本、所以我是日本人。但是暑假回去台灣時、我就是台灣人了。」當時真的搞不懂大人們為什麼問我這麼簡單的事？

過了傍晚、天漸漸地暗下來、候診室的鞋子也一雙一雙地出去、我的肚子也跟著電視卡通的音樂咕嚕咕嚕地響個不停。無影燈下磨牙機的鑽牙聲告訴我母親還在努力這一天最後的診療工作。等到母親喊著：「要回家了！」我已經又餓又愛睡的攤在母親的懷抱裏。

過了很久很久、我才突然注意到每次要回家時、候診室的鞋櫃總是還有一雙鞋子和一隻單腳的白色拖鞋擺在那兒。那雙鞋子對我來說、表示還有一位患者在候診。母親為什麼不把那位患者看完再回家呢？我也不知道、也沒有多問。至於那隻單腳的白色拖鞋、就如守護的門燈、一直就在那兒、從不缺席過。

又過了很久很久、有一天我坐在玄關等著母親要回家。這一天的鞋櫃有點奇怪、一直都存在的那隻單腳白色拖鞋不見了！這讓我小小的心靈感受到無以名狀的衝擊。一直都存在那兒的風景、怎麼突然不見了呢？

等到我上了大學、有一天和母親聊起來、母親才告訴我、那隻單腳白色拖鞋是診療所技師的拖鞋。正如守護著診療所的門燈那般、患小兒麻痺的技師每天比誰都早到診療所、比誰都晚回家。他人長得高大英俊、聲音宏亮、開一輛白色大車子上下班。拐杖如同他的手指神功、自由自在、手脚構不到的地方、有了拐杖可方便多了、活動半徑比誰都長。聽母親說他愛上了診療所的衛生士、兩個人纏綿了很久很久、終不得……也只好選擇放手離開。聽說他去了東北地方、不知現今可好？東北大地震的時候、平安否？

後來、母親回到福岡的齒科大學工作。我也跟著進入附近的幼稚園上學。在我上小學3年級的時候、



父親與母親的生活步調突然變得又忙又亂、餐桌上擺滿了各種各樣的建築設計書、設計圖與計算機等文具。父親與母親在市中心地的商店街買了一塊小小的地、說要建自己的齒科醫院開業。

我和妹妹兩個人不太曉得開業是怎麼一回事、不過看父親與母親兩個人的忙碌與對話、可以感受到父母親心裏頭的壓力與認真。有一天晚上、母親早早地就把我和妹妹哄到床上睡覺、說有重要的事要和父親討論。我躺在床上、隱隱約約地聽到父親對母親說：「你先開業、只要不紅字就好了、反正我在大學的收入也還可以應付…如果真不順利、我還可以單身赴任到鄉下去工作賺錢…來日本的第一代總是比較辛苦…最重要的還是要看好這兩個孩子的教育…」

隔天、我問母親：「開業是什麼？好像很可怕…」母親摸摸我的頭說：「怕什麼？不用擔心。」母親作事一直都是那麼的認真篤定、遇到困難絕不退縮、凡事尽心尽力、只問耕耘不問收穫。只是在我小小的心裏頭、人生第一次感受到那份無法言說的擔心。

那塊小小的地、診療室蓋在二樓、家在三樓上面。開業那天、我從學校放學回來、從樓梯兩三階的高度越過窗戶、瞧瞧裏面的診療室、看到母親正在為一位患者診治、我的心跳得好快、有擔心也有一些放心、再瞧瞧候診室前面的玄關、那兒正好擺著兩雙鞋子、哦！還好、開業第一天就有患者！如積重担似地、一步一步地上到三樓的家、放下書包、乖乖的作功課、不敢讓母親多擔心。

這樣的日子持續了很久很久。即時到現在、每次回家都會反射動作地看看診療室裏母親的背影與候診室的鞋子。候診室的鞋子似乎成了我的定心丸。有時候、看不到候診室的鞋子、或是母親也正好上來休息時、我總會不經心地問：「媽媽怎麼在三樓？沒有患者？」「今天幾位患者？」一條從古早就有的很長很長看不到的線連結著。

母親開業也過了20年了。我也成了一位年輕的住院醫師、結了婚、生了子。現在的我當然明白鄉下診療所候診室的那雙鞋子也好、擺在二樓玄關的那雙鞋子也好、並非患者的鞋子、而是醫院職員掃地共用的鞋子。它們陪我渡過了好幾年好幾年、從掛心到放心。



我的母親

本郷みどり

小弟传来母親右大腿骨折的消息。

平常没事我們並不常連絡。有電話時、不管好壞、多半是有重大事情的時候。

母親住在老人安養医院、小弟就近照顧。一有空他会去母親那兒報到。雖說報到、但母親因為十年前腦中風、腦部嚴重受損、身体四肢運動與人世間的感情喜怒哀樂、言語的理解與表達、全部被上天收回去了、只剩下兩顆眼睛睜睜地看著你。

也多虧安養医院的照護、母親一年又一年地活了過來。不過牙齒一顆一顆地被拔去、肌肉也一圈一圈地消瘦下去。只見皮包骨的下面、橫隔膜一上一下地、不曾歇過片刻。

母親出生於1927年的日本時代、接受完整的日本教育、從台中第二高女畢業。畢業後正值台灣改朝換代、1945年台灣一下子從日本殖民地變成中華民國。她因為在教書、不得不必須學習中文與三民主義等思想教育。教了幾年書後、與父親結婚、也離開了學校教職、進入家庭、專心相夫教子。

母親在十年之間生了我們五個姊弟。小時候我們家境並不富裕、小康的普通家庭。住在豐原鎮的一個叫合作新村的社區。一家七口擠在兩房一廳、加廚廁浴的平屋。應該說是長屋、因為一排六、七戶的牆壁是連在一起的。

母親的日本話講得非常的流暢高雅。文筆更不在話下。父親常常開玩笑說、他是被母親的日文情書騙走感情的。他們之間的往來情書疊起來的話、大概有到椅子的高度吧。我們五個姊弟因為有在集郵、於是情書的信封常常被我們剪得面目全非。我們只知道要郵票、也不管那裏面的情書承載了多少母親對愛情、對結婚的憧憬與願景。有時候不小心、其實不是不小心、根本是沒用心、不是剪到情書、就是情書散得滿地。情書裏的日文平假名、我們看不懂、但是漢字、還是可以了解個片斷。印象中、信的開頭總是「親愛なる…」、なる的意思我們不懂、但是「親愛」的意思可是了解的。信裏常常出現「寂しい」「思う」「愛している」這些字、而且平假名的尾巴常常拖得長長的、長相思大概就是這樣子吧。

郵票被我們小心地保存貼在集郵冊裏、而面目全非的泛黃情書今何在？

母親有一雙靈巧的手、她自己為我們縫作衣服。我們常常困在那台勝家牌縫紉機旁邊、一起翻「裝苑」雜誌、吵著要這件要那件、要這個花樣、要那個顏色的注文、母親也從不嫌我們囉嗦。等晚上大家都睡著了、母親一個人答答答的踩著縫紉機、縫

到幾點誰也不知道、只知道第二天醒來、新衣服已經掛在床頭了。穿出去外面、碰到的人總會讚美幾句、我們高興、母親更高興。她可以為路人不经心的一句讚美而高興好幾天。

母親還會打毛線衣。原來她用手打、後來她去看電動織毛線。於是我們五個姊弟又有了漂亮毛線衣可以穿出去聽大家的讚美。而拆旧毛線衣的毛線也就成了我們童年玩耍的回憶。日本童謠有一首「糸巻き（捲毛線）」的歌、大概就是這樣的光景吧。母親煮的飯、作的菜、還有饅頭、包子、碗糕、菜頭糕、甜糕、肉粽、湯圓…真的是世界上最好吃的。她從不曾嫌作菜麻煩、從前、比如說作湯圓的流程、不像現在有糯米粉可以買、必須從浸糯米、磨糯米、壓、絞、揉、搓、包…流程非常繁複。我們跟在石臼辺、和母親一起推呀推的、磨呀磨的、母親樂在其中、我們也跟著樂在其中。搓湯圓的時候、母親總是告訴我們要搓得光亮圓圓的、長大以後、人也會光亮圓滿。包粽子的時候、母親則告訴我們粽子的每個面要有稜有角、就像作人一樣、要有稜有角有分寸。

童年的玩具總是跟生活連在一起。童年的教養更與生活脫離不開。

母親喜歡動物、但不是現在所謂的寵物、而是從小養大、可以殺來吃的那種。家的後巷裏養了很長一段時期的雞。我們跟在母親後面、咯咯咯的餵殘飯、餵飼料。大清早撿的蛋還溫溫的、打在熱騰騰的白飯上、香在嘴裏幸福滿點。不過、我一直不喜歡殺雞。我們上面三個姊弟得用竹筴压住雞、只露出雞頭與雞脖子、好讓母親殺雞。圍著圓桌白切雞大塊大塊的吃、雞湯米養又美味。每個孩子吃得腮辺鼓鼓的、這叫「滿足」。滿足的旁邊、母親總是挑雞翅膀、雞脖子、雞爪來吃、甚至直呼「美味しい！美味しい！」、這叫「知足」。

母親要我們把碗裏的飯與雞肉吃乾淨、不准剩下來。母親告訴我們暴殄天物、天公會生氣。

逢年過節、剛出鍋熱騰騰的全雞、是要先敬天祭祖之後才能吃的。我們留著口水等在旁邊、但沒有一個孩子敢吵。因為敬天祭祖對母親來說是天大之事、而且她祭拜的時候、面容虔誠肅靜、双手持香、合十敬礼、三跪九叩、一点都不含糊。

母親總是用這樣的方式告



訴我們一些屬於天與祖的道理、也讓我們知道作人要謙卑誠實、因為頭上三尺有神明。

還記得小時候、到了拜「地基主」的時候、母親總是逢人必問：「汝厝有拜地基主否？」我一直都不明白她為什麼問這個問題、也不明白為什麼拜地基主主要在廚房拜、不像拜其它神明那樣大魚大肉。傍晚時分、在廚房的一角簡單上香祭拜而已。一直到我五十歲過後、有一天很突然的、好像發現什麼大秘密似地恍然悟到、原來這是平埔族母性社會自我認同的一個記號。家母其實也不知道平埔族什麼的、只是代代都有拜地基主這件事、你家有拜地基主、我家也有拜地基主、那麼、我們同樣都是從那個源頭來的、是一種確認、一種記號。也是母性社會、母親告訴女兒、女兒告訴孫女的一種傳承方式。

換成現代版、那個記號就是「台灣」。

母親的双手更是匠人的手。父親經常出差不在家、碰到颱風暴雨、母親馬上得爬到屋頂上、蓋塑膠布、釘木板…過後還要清掃裏裏外外。當時沒有電鍋、煮飯燒水、步步須要起火燒柴。劈柴的重勞動也落在母親的身上。家屋進水、屋頂漏水、停電停水…等母親忙完這些工務、家裏頭、這個孩子的木屐斷了、那個孩子的書包帶子斷了、鈕扣掉了、襪子破了、那個孩子要剪頭髮、要抓癢…因為風濕性關節炎而變形的手指、手背掌心布滿了皺紋與硬繭、可是母親從來就不曾抱怨過。粗糙的双手擋風遮雨、撐天關地、可以是這麼的溫柔、這麼的堅強。母親不只双手萬能、更像千手觀音、有求必應、無怨無悔。

記得在我小學四年級的時候、母親突然告訴我們、說她要復出教書了。我們五個孩子都好興奮、覺得自己的母親當老師好偉大、也好光榮。殊不知五個

孩子一天天的長大、為了分担學費與家計的重担、母親毅然決定復出工作。那以後、母親每天天還沒亮就得起床、忽忽忙忙地作好六個便當、就騎腳踏車出門了、她得趕一個小時的火車、再換巴士到鄉下的小學上班。這樣的日子風雨無阻、一年一年的過去、我們姊弟也一個一個的進了大學。

那段日子、我們上面三個姊弟還充當母親的老師、糾正母親的國語發音、替她出作業、造句、造詞、作文、改考卷…我們很喜歡翻母親的大書包、那裏頭有長長短短的各式鉛筆、橡皮擦、考卷、學生的作業…偶而還會有學生被沒收的玻璃彈珠或橡皮圈等等。翻到大書包的底下、一定會跑出來各種關帝廟的護身符、有小小紅袋子那種的、也有黃色金紙寫紅字的咒符等等。當時、根本不明白這些護身符到底作什麼用的、還笑母親迷信呢。

躺在安養医院裏的母親、睜著眼睛睜睜地望著我。我跟她報告家裏的點點滴滴、告訴她、她最疼愛的孫女要結婚了、告訴她、我也當了阿媽了…撫摸著母親依旧變形粗糙的双手、輕輕地哼起小時候母親教我們唱的歌「紅蜻蜓」、夕焼け小焼けの赤とんぼ、負われて見たのは何時の日か…山の煙の桑の実を、小かごに摘んだはまばろしか…

兒時童年的回憶如走馬灯似地浮現眼前、和母親一起種的紅紅的大蕃茄、滿院子的百日草、芭樂樹、桑葉養蠶、還有一大群的鴨鴨兔子…院子裏有我們跳格子的木屐聲、有「一角兩角三角形…」拍手歌的歡唱聲…我們幾個孩子喜歡爭相躲到母親的大蓬裙下、擠來擠去一起走過田埔小徑和滿天的紅蜻蜓…

也想起母親大書包裏的護身符、那裏頭擠滿了母親的愛、承載著滿滿滿滿的呵護與祈願。まばろしか？幻？啊！母親！我的母親！鬱鬱黃花、無非般若、糟糟双手、豈非觀音。

心で聴く

石橋 幸子

「改心しないなら当家の敷居はまたがせないッ」結婚と同時に始まった姑の叱責が次第に憎悪を帯びようになった。意に染まぬ嫁の宿命とはいえ、これは耐え難い。やるせないさが募ると私の足は実家へと向かった。

「そうであろうそうであろうと里の母」この川柳そのままに母はひたすら私の愚痴に耳を傾け、教訓めいた話は一切しない。それだけで胸のしこりが解けていった。帰りには何かしら持たせてくれる。練炭の火でコトコト炊いた煮豆、昆布の佃煮、幼かった2人の子に母が手縫いしたフランネルの寝間着……、どれも温かい。紙袋の底にはいつも少々のお金が忍ばせてあった。

嵐はいつかきつとやむ。現在は風雨にさらされた40年がうそのような穏やかな日々である。再来年は金婚式。この幸せは無条件で娘を理解し、苦しみと共に感ずることで助けてくれた母のお陰だ。

私の長女は公立中学の心理カウンセラーをしている。悩みのただ中にいる人が欲しいのは、押しつけがましい助言ではない。頭ではなく心で聴き、苦しみ、つらさを共有してくれる人の存在だと言う。

「心で聴く」の一言に、今は亡き母の温顔が浮かんだ。無学ではあっても、母は名カウンセラーだった。

上個月、我抱著孫子到附近的陽光超市買菜。

当我一手抱孫、一手提菜走出超市門口時、突然背後有位中年男士拍拍我的肩膀：

「掉了喲！」他手中拿著一張一萬圓的鈔票交給我。

「对不起、謝謝…」我話還沒說完、他已若無其事輕步地走開了。

今天晚上、我再去陽光超市買菜。

超市門口、又碰到一位年輕男士手中拿著一個黑色錢包、忽忽快步地拍拍另一位外籍男生的肩膀：

「掉了喲！」

還未等那位外籍男生的謝謝、那位男士已若無其事輕步地走開了。

「哇！~」掉了錢包的外籍男生、笑顏亮得如陽光。

這是一個向善、向良的小小優質文明社会。

良質な文明社会

先月、孫を抱いて、近くのスーパーサニーに買い物に出かけた。

片手は孫を抱いて、片手はエコバックを抱えて、スーパーの出口で、突然知らない中年男性がうしろから私の肩をたたいて、

「落ちたよ！」彼が私が落とした1万円札を私に渡した。

「すみません、ありがとうございました…」お礼を言おうと、

何気なく彼はすでに向こう側に行ってしまった。

今日の夜、またスーパーサニーに買い物に出かけた。

スーパーの入り口で、ある若い男性が黒色の財布を持って、慌てて走って、前に歩いている若い男外人さんの肩をたたいて、

「落ちたよ！」

お礼も待たずに、若い男性が何気なくそっと向こう側に行ってしまった。

「ワァオー！~」財布を落とした若い男外人さんの笑顔は、

サニーの如く、ピカッと輝いている。

ここは向善、向良の小さな良質な文明社会。

